

ルコトトセリ。

1100

帝國海軍ニ於テハ國際情勢及支那事變處理ノ狀況之ヲ許ス限リ觀艦式ヲ實施シ、紀元二千六百年奉祝ニ當リ國威ノ宣揚ヲ圖リ艦隊ノ整齊・士氣ノ昂揚ニ資スルトコロアラントシ、唯國際情勢ノ變化ニ依リテハ規模ヲ縮小シテ單ニ艦隊ノ參列トスルカ若クハ又全然中止スベキコトアルヤモ圖リ難キヲ考慮シ、之ニ對應スベキ用意ヲ萬全ニスルト共ニ世界情勢ノ推移ヲ觀ツツ觀艦式舉行ノ準備ヲモ亦遺憾ナク取進メタリ。

第二章 準備及諸施設

第一節 方針

第一項 稱呼及形式

觀艦式ニハ特別觀艦式及大演習觀艦式ノ二種類アリ。特別觀艦式ハ國家ノ大典等ニ當リ舉行スルモノニシテ、其ノ典禮ニ因ミ名稱ヲ附スルヲ得、大演習觀艦式ハ大演習又ハ特別大演習ノ終期ニ於テ舉行スルモノニシテ演習ノ呼稱ニ從ヒ名稱ヲ附スルコトトセラレ。本觀艦式ハ紀元二千六百年ヲ奉祝スルヲ主タル目的トスルモノナルヲ以テ特別觀艦式トスルヲ適當トシ、「紀元二千六百年特別觀艦式」トスルヲ至當トスベキモ、恰モ當年帝國海軍ニ於テハ特別大演習ヲ實施スベキコトニ内定シタルヲ以テ、形式ハ特別觀艦式トスルモ、名稱ハ兩者相兼ネシメテ之ヲ「紀元二千六百年特別大演習觀艦式」トスルコトトシテ準備ヲ進メ上奏御裁可ヲ經タリ。然ルトコロ後ニ至リ本來ノ通り「紀元二千六百年特別觀艦式」トスルコトトセラレ、昭和十五年九月十二日此ノ旨軍令部總長ヨリ上奏シ、御裁可ヲ仰ギタリ。

尙ホ本觀艦式ニ參列スベキ兵力ニ關シテハ當年觀艦式ヲ舉行シ得ベキ情勢ナルトキハ當然海軍大演習或ハ小演習ハ實施セラルベキニ由リ、觀艦式參列兵力ハ概ネ大演習參加部隊及練習航空部隊ノ一部ヲ加フルコトトシテ計畫セリ。

觀艦式實施ノ方法トシテハ移動觀艦式及碇泊觀艦式アルモ、移動觀艦式ハ豫行及實施ニ莫大ノ燃料ヲ要シ、且

1101

ツ相當廣域海面ヲ必要トスルヲ以テ東京灣ニ於ケル實施ハ困難アリト認メラレタルト、昭和十一年神戸沖ニ於ケル移動觀艦式實施ノ經驗ニ鑑ミ視界其ノ他ノ影響ヲ受ケ實效ヲ擧ゲ得ザル點アリ、依テ碇泊觀艦式トスルコトトセリ。

觀艦式ニ於テハ外國ノ軍艦若ハ船舶ヲ參列セシムルヲ例トスルモ、現在ノ國際情勢ニ於テ外國ノ艦船ヲ觀艦式場ニ在泊セシムルコトハ機密保持及各國ノ國交狀態ニ鑑ミ適當ナラザルベキヲ以テ、外國艦船ハ一切之ヲ參加セシメザルコトトシ、尙ホ日本船舶ニ關シテハ特ニ指定スルモノニ限り參列セシメ、外國人ニ對シテハ原則トシテ陪觀又ハ拜觀セシメザルコトトセリ。

第二項 期 日

紀元二千六百年特別觀艦式ノ實施ニ當リテハ、昭和十六年度ニ於ケル聯合艦隊ノ集合時期ヲ目途トシ、人事異動・艦船兵器・航空機等ノ整備ヲ之ニ合致セシムル如ク計畫ヲ樹立スルノ要アリ、而シテ本觀艦式ヲ實施スルニ於テハ、昭和十六年度ニ於ケル聯合艦隊ノ集合時期ハ例年ニ比シ多少遅延スルコトトナルハ已ムヲ得ザルコトナルモ、著シク組船ヲ來サザラシムルタメ遅クモ二月一日ニハ集合シ得ル如クスル方策ヲ講ズルコトトセルガ、尙ホ軍令部ニ於テハ一月二十三日以前ノ集合ヲ希望セルアリ、又紀元二千六百年式典ノ期日トモ餘リニ離レシメザルヲ適當トスベキヲ以テ彼此考ヘ合セ、當初先づ觀艦式舉行期日ヲ當年十月二十五日ヨリ二十七日迄ノ間トシテ計畫シ、軍令部總長ヨリ上奏御裁可ヲ仰ギタリ。其ノ後種々事態ノ變化アリ、八月二十四日ニ至リ舉行期日タル

十月二十五日ヲ十月十一日ニ變更御舉行アラセラルベキ旨軍令部總長ヨリ上奏シ御裁可アラセラレタリ。本件ニ關シ九月十六日海軍大臣ヨリ宮内大臣ニ對シ紀元二千六百年特別觀艦式ハ十月二十五日御舉行ノ豫定ナリシトコロ、十月十一日ニ變更セラルルコトトナリタルニ付執奏方ヲ依頼セルトコロ、同月二十四日宮内大臣ヨリ申出ノ通御治定相成リ、當日舉行致シ難キ場合ニハ翌十二日尙ホ差支ノ節ハ適當ニ順延相成ルベキ旨回答アリタリ。

第三項 場 所

觀艦式式場トシテ當初紀元二千六百年式典及紀元二千六百年記念觀兵式ガ東京ニ於テ執行ハルベキヲ以テ、關西地方ニ於テ御舉行アラセラレタキヲ希望スル向モアリタルガ、現下ノ國際情勢下ニ於テハ東京灣ヲ至當ナリト認メラレ、又宮中ノ御都合等ヲモ内々御伺ヒセルトコロ、聖上陛下ニ於カセラレテハ、十月下旬頃ニ於テハ東京ヲ離レサセ給フハ御困難ナル御趣ナルヲ以テ東京灣ニ於テ之ヲ執行フノ外ナク、尙ホ觀艦式施行順序ヨリスルモ東京灣ノ順番トナルヲ以テ横濱沖ヲ式場海面トスルコトトシ、上奏御裁可ヲ經タリ。

以上ノ如キ次第ヲ以テ九月下旬ニ至リ十月十一日横濱沖ニ於テ紀元二千六百年特別觀艦式ヲ御舉行アラセラルルコトニ決定セラレ、十月一日宮内大臣ヨリ海軍大臣ニ對シ天皇陛下本月十一日紀元二千六百年特別觀艦式御觀閱ノタメ横濱沖ニ行幸アラセラルベキ旨通牒アリタルヲ以テ、同日正午海軍省ヨリ左ノ通一般ニ公表セラレタリ。

紀元二千六百年特別觀艦式ハ來ル十月十一日横濱沖ニ於テ御舉行アラセラル。

第二節 觀艦式事務委員ノ任命

第一項 任命並ニ任務分擔

昭和十五年八月三日海軍大臣ヨリ觀艦式事務委員長以下左ノ通任命セラレ、同日各頭書ノ通其ノ任務分擔發令セラレタリ。

委員長

海軍少將 阿部 勝 雄 (軍務局)

委員

一 般

海軍大佐 矢野 英 雄 (同)

庶務・御次第書・宮内省關係

同 岡田 爲 次 (軍令部)

艦船區分編制式場配列ノ運動等ニ關スル事項

海軍中佐 寺崎 隆 治 (軍務局)

運輸・通信・氣象ニ關スル事項

同 泊 滿 義 (軍令部)

陪觀者ニ關スル事項

同 大前 敏 一 (軍務局)

同 山 賀 守 治 (同)

同 鈴木 忠 良 (同)

同 細 谷 資 彦 (人事局)

拜觀者接待ニ關スル事項

同 山代 勝 守 (同)

新聞記者・放送・外國人ニ關スル事項

同 海軍少佐 岡 巖 (軍務局)

新聞報道事項

同 福地 誠 夫 (大臣官房)

航空ニ關スル事項

同 入江 壽 直 (同)

艦船ノ設備・需品等ニ關スル事項

海軍中佐 高 瀬 五 郎 (軍事普及部)

式場水陸施設・取締等ニ關スル事項

海軍少佐 田 代 格 (同)

同 馬場 金 治 (同)

同 小田 原 俊 彦 (航空本部)

同 石 畑 四 郎 (艦政本部)

海軍主計中佐 奥 田 司 (軍需局)

同 土 井 高 (横須賀港務部)

同 林 暹 (横須賀鎮守府)

同 海軍中佐 小 原 尙 (水路部)

同 高 橋 俊 策 (軍事普及部)

同 海軍軍醫中佐 川 田 理 (醫務局)

同 海軍主計中佐 稻 葉 經 (經理局)

會計・給與ニ關スル事項
 横濱地方官民トノ連絡ニ關スル事項
 特ニ命ゼラレタ事項

海軍主計中佐 茶谷東海 (經理局)
 海軍大佐 工藤久八 (東京監督官
 横濱出張所)
 海軍事務官 小倉久治郎 (軍務局)
 同 小野房治郎 (同)

委員附

海軍一等主計兵曹 久保三四七
 海軍屬 畑中市藏
 同 小市薫男
 同 奥津彰彰
 同 村上忠教
 同 杉本清
 同 宇佐美廣
 同 岩本榮次郎
 同 荒木義廣
 海軍書記 弘中正男

第二項 觀艦式當日事務委員長以下ノ配置

觀艦式事務委員長以下ノ當日ニ於ケル配置ハ左ノ通決定セラレタリ。

觀艦式當日事務委員長以下ノ配置

委員長・委員	所在	分擔任務	記	事	備	考
阿部少將	御石艦	一 般	七・四〇迄ニ係リ(七・四五迄ニ係リ)ノトキ 本艦比數一四・〇〇(横濱海軍工廠) 横濱海軍工廠ノトキ 七・四五迄ニ係リ)	自十月九日 至十月十一日	自十月九日 至十月十一日	
工藤大佐	比 叢	皇族迎送	八・二〇比數)			
矢野大佐	比 叢	一 般	七・四五迄ニ係リ)			
土井大佐	警戒艇	式場警戒	一一・二〇迄ニ係リ)			
岡田大佐	比 叢	一 般	七・四五迄ニ係リ)			
林 大佐	比 叢	式場警戒	七・四五迄ニ係リ)			
泊 中佐	比 叢	一 般				
石畑中佐	比 叢	一 般	七・四五迄ニ係リ)			
細谷中佐	比 叢	拜謁御相伴	七・四五迄ニ係リ)			
山實中佐	比 叢	拜謁御相伴	七・四五迄ニ係リ)			
山代中佐	比 叢	運 輸 氣 象	一一・二〇迄ニ係リ)			
小田原中佐	比 叢	接 伴 航 空	七・四五迄ニ係リ)			
鈴木中佐	比 叢	通 信	七・四五迄ニ係リ)			

松村筆生	凡	矢	芝	浦	同	右	十月十一日演()
辻筆生	明	石	横	濱	六五〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ明石()		十月七日演()
瀬川筆生	明	石	横	濱	同	右	十月十一日演()
松村筆生	明	石	横	濱	同	右	十月十一日演()
小切間筆生	長	鯨	横	濱	七〇〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ長崎()		十月十一日演()
中田筆生	長	鯨	横	濱	同	右	十月七日演()
唐澤筆生	迅	鯨	横	濱	七〇〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ長崎()		十月七日演()
大山筆生	間	宮	横	須賀	六二〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ開宮()		十月十日演()
陸山筆生	間	宮	横	須賀	同	右	十月十日演()
佐野筆生	朝光丸	横	須賀	濱	六二〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ朝光丸()		十月十日演()
和田筆生	朝光丸	横	須賀	濱	同	右	十月十日演()
黒柳筆生	迅	鯨	横	濱	七〇〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ長崎()		十月十一日演()
渡邊筆生	早	新	芝	浦	六二〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ早瀬()		十月十一日演()
古田筆生	迅	鯨	横	濱	七〇〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ長崎()		十月十日演()
守屋筆生	金龍丸	横	濱	濱	六三〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ金龍丸()		十月六日演()
市原筆生	金龍丸	横	濱	濱	同	右	十月六日演()
木村筆生	金龍丸	横	濱	濱	同	右	十月六日演()
佐藤筆生	加	古	横	濱	七三〇名ニ演習艦大乗艦ヨリ加古()		十月十日演()
遠藤筆生	加	古	横	濱	同	右	十月十日演()

第三節 観艦式指揮官同幕僚ノ任命

観艦式指揮官ハ観艦式令ニ特別観艦式及特別大演習観艦式ニハ特命ノ將官ヲ以テ充テ必要ニ應ジ幕僚ヲ附ストアルモ、指揮統率上ノ見地ヨリ聯合艦隊司令長官ヲ特命ノ指揮官トシ、幕僚ハ聯合艦隊幕僚ヲ基幹トシ之ニ所要ノ幕僚ヲ臨時ニ追加任命スルコトトシ、昭和十五年十月一日海軍大臣ヨリ紀元二千六百年特別観艦式指揮官以下左ノ通任命セラレタリ。

観艦式指揮官	海軍中將	山本 五十六
幕僚		
參謀長	海軍少將	福留 繁
副官	海軍中佐	大野 小郎
參謀	海軍大佐	黒島 龜人
同	海軍中佐	國府 田清
同	同	近藤 新一
同	同	田村 三郎
同	同	佐藤 葦
同	同	山本 祐二

參 謀
同 同

海軍中佐 渡 邊 安 次
海軍少佐 河 本 廣 中
海軍機關中佐 大 橋 謙 一

第四節 會 議

第一 第一回事務委員會

昭和十五年八月五日十四時ヨリ海軍省第一會議室ニ於テ觀艦式事務委員會ヲ開催シ、冒頭觀艦式事務委員長阿部少將ヨリ左ノ如キ口述アリ。

今回紀元二千六百年特別大演習觀艦式事務委員長ヲ命ゼラレ、諸官ト共ニ其ノ事務ニ携ハルコトトナリタルニ付テハ、諸官ノ援助ニ依リ此ノ大任ヲ全ウセントス。目下帝國ハ未曾有ノ重大時局ニ直面シ、諸官ハ日常極メテ多忙ナル職務ニ従事シアルハ充分承知セルトコロナルモ、此ノ際觀艦式事務處理ノタメ特ニ盡力セラレンコトヲ望ム。

觀艦式事務ハ極メテ複雑多岐ニ互リ、部内ハ固ヨリ部外ニ關係スルトコロ多キノミナラズ、各委員ノ事務分擔モ明確ニ定ムルコト困難ナルヲ以テ各委員ニ於テハ相互ニ密接ナル聯繫ヲ保持シ、事務進捗ニ遺憾ナキヲ期セラレタシ、尙ホ各委員ハ各局部ノ代表者トシテ事務處理上所屬局部トノ連絡協調ニ努メラレンコトヲ併セテ希望ス。

今回ノ觀艦式ハ概ネ次ノ方針ニ依リ準備ヲ進ムルコトト承知セラレタシ。

(一) 國際情勢之ヲ許サバ實施スルモ情勢ノ變化ニ依リテハ實施セラレザルコトアリ

(二) 觀艦式ノ種類ハ特別觀艦式トシ特別大演習トノ關聯ヲ考慮シ(紀元二千六百年特別大演習觀艦式)ト呼稱スルコトニ定メラル

(三) 時局柄諸行事ハ嚴肅且ツ簡素ヲ旨トシ御祭騒ギトナラザルヤウ指導ス

(四) 御舉行期日ハ十月二十五日(豫備二十六日、二十七日)ト定メラル

十月二十三日(豫備二十四日)豫行ヲ行フコトトス

(五) 觀艦式指揮官ハ聯合艦隊司令長官ト豫定セララル

(六) 碇泊式觀艦式ト定メラル

(七) 原則トシテ外國人ニハ陪觀若ハ拜觀ヲ許可セラレズ

(八) 外國艦船ハ式場ニ在泊セシメザルコトトス

(九) 電燈艦飾ハ之ヲ行ハザルコトトス

(一〇) 觀艦式御舉行ニ關スル公表ハ十月上旬頃ニ至リ國際情勢ヲ見極メタル上ニ於テ之ヲ行フコトトス

(一一) 今回ハ天蓋下賜・賜饌等ハナキ趣ナリ

(一二) 機密保持ニ對シ萬全ノ考慮ヲ拂フ

(一三) 事務ノ簡易敏捷處理ノ必要ナルハ當然ナルガ同時ニ物資特ニ紙類ノ節約ニ付テ其大ノ考慮ヲ拂ヒ事務

的ノ文書印刷物ヲ極小範圍トセラレ度
以上觀艦式事務委員長トシテ暫定方針及希望ヲ申述ベタル次第ナルガ、細項ニ付テハ各委員ノ充分ナル研究準備ヲ切望ス。

次イデ一般委員矢野大佐ヨリ準備上必要ナル一般事項ニ關シ左ノ如ク説明アリ。

- 一 各委員ノ事務分擔ハ義ニ配付セル分擔表通ナリ。
- 二 業務遂行ニ關スル委員長ヨリ注意アリシ事項ニ付テハ次ノ通實行致シタシ。
- (イ) 業務分擔中主要事項ノ決定ハ庶務委員ヲ通シ委員長ノ決裁ヲ受ケ又部内外ニ對スル交渉及業務ノ進捗狀況ハ必要ノ都度庶務委員ヲ通シ委員長ニ報告スルコトトシ、庶務委員ハ所要事項ヲ各委員ニ通報スルコトトス
- (ロ) 時々委員會ヲ開催スルコト
- (ハ) 昭和五年同八年及同十一年觀艦式關係書類ハ庶務委員ノ手許ニ取揃ヘアルヲ以テ適宜一覽アリタシ尙ホ昭和八年同十一年觀艦式ニ於テ各委員ヨリ提出サレタル業務經過及所見ハ參考トナルベキヲ以テ謄寫ノ上各委員ニ配付ス
- 三 次ニ觀艦式ノ概要ヲ説明ス。

(イ) 天皇陛下ニハ十月八日御召艦比叡ニ御乘艦横須賀軍港御發、特別大演習御統裁ノ上同十一日横須賀御著一旦東京へ還幸、十月二十五日午前八時頃東京御發午前九時頃横濱ニ於テ御召艦ニ御乘艦午前中ニ御親閱ヲ終ラセラレ午後二時頃式場御發午後三時頃横濱御發東京へ還幸ノコトト想像セラル

(ロ) 艦隊ノ行動
概ネ十月十二日頃木更津錨地ニ入泊シ十月二十二日觀艦式錨地ニ進入、二十三日(豫備二十四日)豫行ヲ行ヒ二十五日(豫備二十六日、二十七日)觀艦式御舉行アラセラル
觀艦式終了後(概ネ午後四時頃)被給所屬軍港ニ歸投スル如クス
尙ホ十月二十三日及二十四日探照燈照射教練ヲ施行スル如ク計畫致シタシ

(ハ) 觀艦式ト關聯セル十月中下旬ノ主要行事ハ次ノ通豫定セララル
自十月十五日 進級會議
至同 十八日
十九日 管下狀況奏上
二十一日 陸軍觀兵式
自十月十六日 靖國神社臨時大祭
至同 二十一日
二十三日 靖國神社例大祭

(ニ) 觀艦式事務遂行上必要ト認メ内閣・宮内省・陸軍・内務・大藏・逓信省・東京府・神奈川縣知事・東京・横濱市長・横濱稅關長等ニハ十月二十五日横濱沖ニ於テ觀艦式御舉行ノ豫定ナル旨軍極秘事項トシテ

- 四 大演習及觀艦式ニ關スル記事ハ海軍省發表以外記事差止トナリ居ルヲ以テ、部外交渉上此ノ點特ニ相手方ニ通ジ手違ナキヤウ取計ハレタシ。
- 五 事務打合ノタメ出張ヲ要スル向ハ豫メ日程ヲ庶務委員ニ差出サレタシ。
- 六 次回ノ委員會ハ八月二十日頃開催セラレ各委員分擔事項ニ關シ今後ノ方針・計畫・意見等ヲ求メラルル豫定ナルヲ以テ含ミ置カレタシ。

本會議ニ於ケル協議事項左ノ如シ。

- 一 陪觀者招待計畫並ニ乘艦區分ノ件 (附拜觀者乘船區分ノ件) (軍務局・軍令部關係)
- 二 賜饌ハ取計ハレズ御相伴程度トナサルルニ付キ其ノ他ノ招待者ニ對シ大臣ヨリ食事(辨當)ヲ配給スル件 (軍需局・經理局關係)
- 三 陪觀艦ノ施設ニ關スル件 (食卓・舷梯・天幕等) (艦本關係)
- 四 賜物ナキヲ以テ海軍ヨリ陪觀者・拜觀者・參列者ニ記念品等ヲ配布スル件 (普及部・經理局・軍需局關係)

五 拜謁ノ件

拜謁範圍ノ決定(軍務局關係)

六 雜 件

- (イ) 事務取扱ニ派遣勤務者派遣ノ件 (軍務局・人事局)
- (ロ) 事務用備品消耗品ノ件 (經理局)
- (ハ) 事務取扱者ニ對シ慰勞ノ件 (軍務局・經理局)
- (ニ) 記念品ノ件 (軍務局・人事局)

參考表一

陪觀者招待員數調

人事局第二課

年 度	屬 關 係		大 臣 招 待 關 係		使 用 乘 艦
	計	實 際	計	實 際	
昭和五年	部内	三二〇〇	一九〇〇	一五〇〇	召 大 艦 三
	部外	二八〇〇			
昭和八年	部内	三五〇〇	三五〇〇	一一〇〇(一五〇〇)	召 大 艦 三
	部外	四〇〇〇			
計	七五〇〇	六四七一			五 (部外) 一〇〇

記事 (各能力)	昭和十五年		昭和十一年		昭和八年		昭和十一年	
	計	部外	計	部外	計	部外	計	部外
召大 一五〇〇名 一五〇〇名 一五〇〇名	七五〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	二六〇〇	三六七八	二九四八	六五〇〇	二一三
召大 一五〇〇名 一五〇〇名 一五〇〇名	七五〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	二六〇〇	三六七八	二九四八	六五〇〇	二一三
召大 一五〇〇名 一五〇〇名 一五〇〇名	七五〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	二六〇〇	三六七八	二九四八	六五〇〇	二一三
召大 一五〇〇名 一五〇〇名 一五〇〇名	七五〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	二六〇〇	三六七八	二九四八	六五〇〇	二一三

備考

外ニ拜觀者一〇〇〇〇名

參考表二

拜謁者員數調

區別	昭和十五年	昭和八年	昭和十一年
第一回	一六〇	一六〇	一一九
第二回	一五九	一五九	七三
三(大)	一七六	一七六	九四
計	一五〇	一五〇	九三

天蓋下賜

五七

六三

第二回事務委員會

昭和十五年八月二十六日十四時ヨリ海軍省第三會議室ニ於テ開催シ、左記事項ニ關シ協議懇談ヲ爲ス。

一 基礎的事項

- (イ) 参加兵力 大演習計畫書所定
- (ロ) 陪觀者 御相伴範圍、拜觀者等
- (ハ) 陪觀者 計畫四、〇〇〇名(實施三、五〇〇名)
- (ニ) 陪觀者 (大臣招待) 計畫三、五〇〇名(實施三、〇〇〇名)
- (三) 御相伴範圍 五〇〇名(御召艦ニ乗艦シアル者)
- (四) 大臣ヨリ辨當支給ノ者(計畫)
 - 陪觀者 四、〇〇〇名
 - 陪觀者(大臣招待者) 三、五〇〇名
 - 委員其他 五〇〇名
 - 八、〇〇〇名
- (五) 拜觀者

- (1) 當日 計畫二二、五〇〇(實施一〇、五〇〇)
- (2) 豫行 同 右(同)

(註) 御相伴範圍概テ次ノ如シ

陪觀皇族、供奉員、中央統監部部長、陪觀者ノ一部、皇族附武官、外國武官(別ニ定メラル) 御親閱部隊以外ノ在職勤任官(審判官タル勤任官ヲ含ム) 講評ニ參列セシメラレタル各艦隊鎮守府、要港部司令部中佐以上、各戰隊首座參謀、觀艦式委員ノ一部

(ハ) 御次第時間割案

- 八・一五 東京驛發御
- 九・〇〇 横濱港驛著御 御召棧橋ヨリ御召艇ニ乗御
- 九・一〇 御召艇ニ乗御
- 九・四〇 御召艇浮標ヲ離レ式場ニ向フ
- 一〇・〇〇 御親閱開始
- 一一・二五 御親閱終了投鎗 講評 勅語
- 一二・三〇 御晝餐
- 一二・三〇 御晝餐終了
- 一三・五〇 御召艇港内へ向ケ出港

一四・一〇 御召艇港内ニ投鎗

一四・三〇 御召艇ニ乗御

一四・四〇 横濱港驛發御

二 各分擔事項ニ付テ(大體ノ方針計畫)

- (イ) 御召艇・供奉艇(先導艇及供奉)
- (ロ) 式場ニ於ケル鋪地
- (ハ) 御親閱航路並ニ御召艇・供奉艇ノ鋪地
- (ニ) 空中分列式概要
- (一) 指揮官
- (二) 編制並ニ使用基地
- (三) 飛行機隊ノ運動大要
- (ホ) 横濱地方ニ於ケル官民トノ連絡及陸上諸施設其ノ他ニ付テ
- (ヘ) 式場ノ水陸施設・式場警戒規程
- (ト) 艦船ノ設備需品等ニ關スル事項
- (チ) 陪觀者(大臣招待ヲ含ム) 配乘區分
- (リ) 拜觀者配乘區分(豫行日及當日)

(ヌ) 輸送規程

- (ル) 陪觀者拜觀者乘艦(艇)場所及同籍時刻並ニ解纜時刻ノ大要
- (ロ) 陪觀者専用(臨時)列車時刻表並ニ乗車區分
- (ワ) 陪觀者・拜觀者乘艦用船艇使用區分
- (カ) 陪觀者・拜觀者上陸場所及時刻並ニ其ノ行動等
- (ヨ) 陪觀者・拜觀者上陸用船艇使用區分
- (タ) 新聞・放送・撮影ニ關スル事項
- (レ) 記念品ニ關スル事項
- (ソ) 外人ノ取扱ニ關スル事項
- (ツ) 機密保持ニ關スル事項
- (ネ) 郵便物及電報取扱並ニ事務通信系統圖
- (ナ) 當日早朝天候通報要領
- (ラ) 横濱日出沒表
- (ム) 衛生ニ關スル事項
- (ウ) 會計・給與豫算ニ關スル事項
- (キ) 陪觀者・拜觀者便乘者ニ對スル注意事項

(ノ) 拜觀船心得

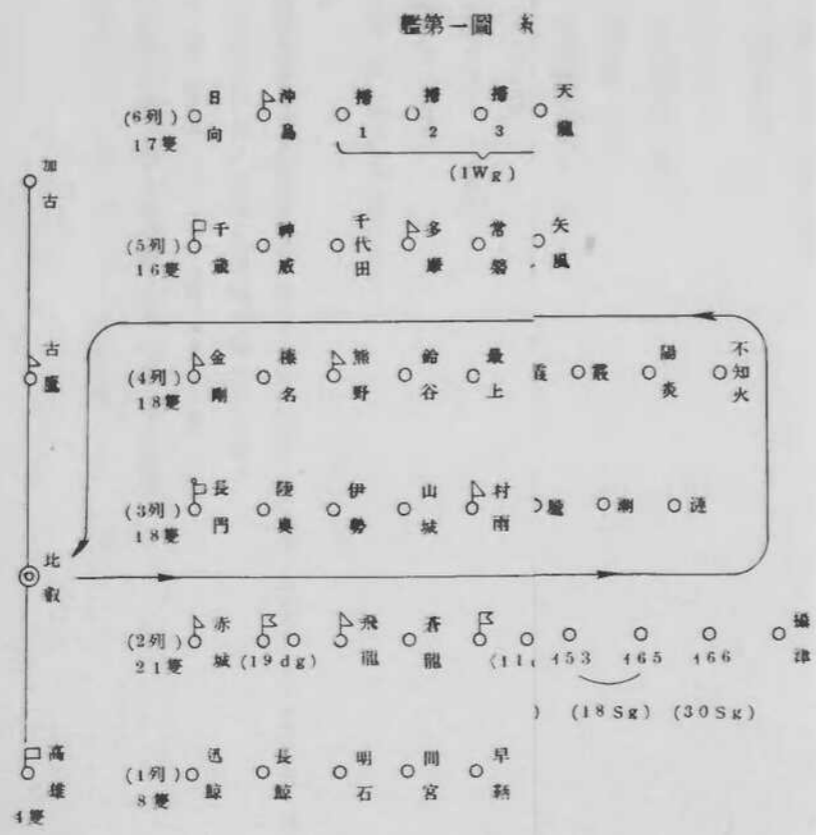
(オ) 其ノ他特ニ必要ト認ムル事項

第三 第三回事務委員會

昭和十五年九月二十日十時ヨリ東京水交社ニ於テ開催シ、之迄ニ假決定セル左ノ如キ概要及議題ヲ配付シ、各事務委員分擔事項ニ關スル計畫ヲ提示シテ協議ス。

觀艦式概要 (假決定)

- 一 御召艦 比 叡
- 二 供奉艦
 - 先導艦 高雄、供奉 古鷹、加古
- 三 參列艦船 別圖ノ通(部外船舶ハ商船學校・水産講習所練習船以外參列セシメラザル豫定)(艦第一圖參照)
- 四 參加飛行機數、約三〇〇機
- 五 陪觀者 約八、〇〇〇名
 - 一 内約五〇〇名ニ對シ御相伴仰付ケラル
 - 其ノ他ニ對シ大臣ヨリ招待(七、〇〇〇名)
- 六 拜觀者 約七、五〇〇名



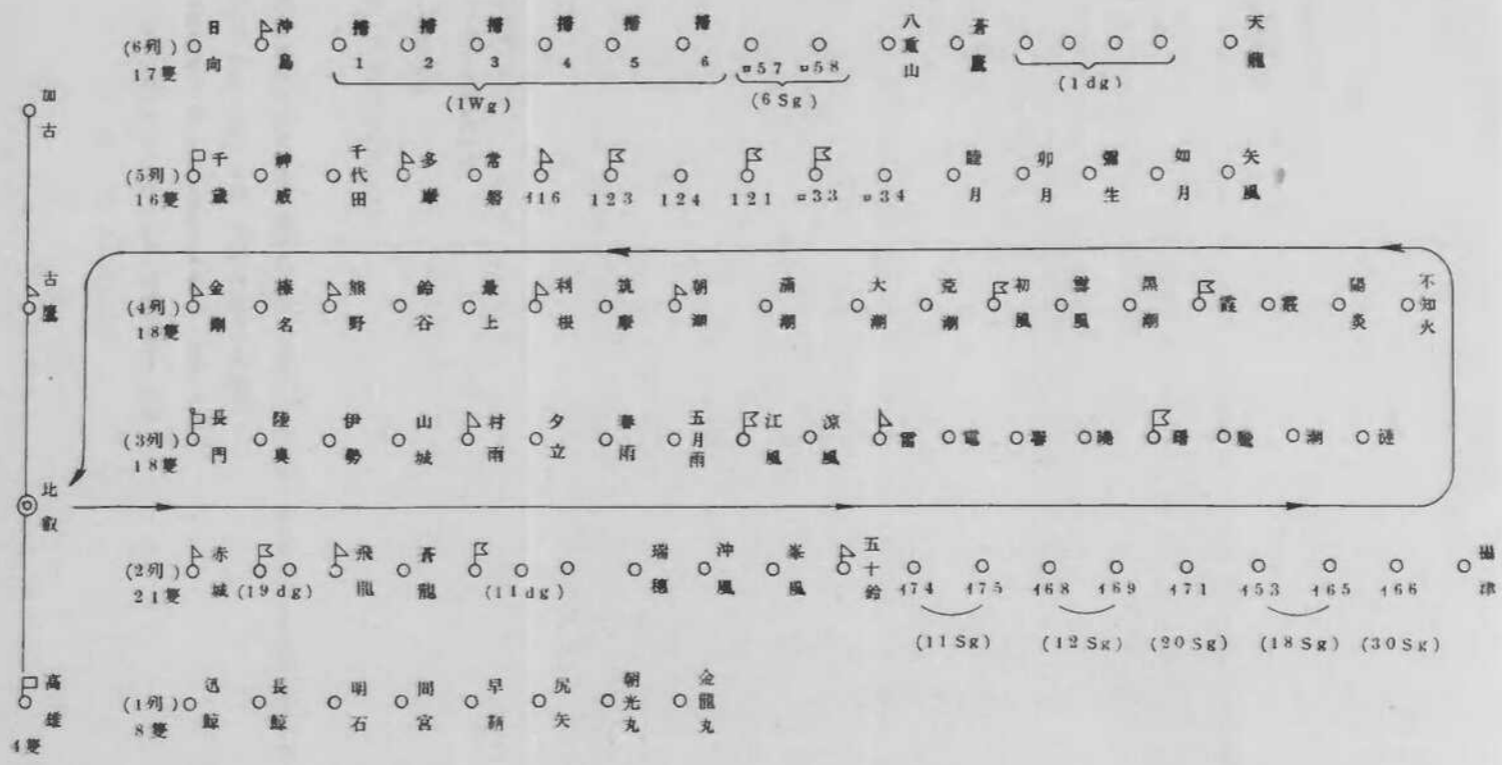
- 内約三、〇〇〇名ニ對シ大臣ヨリ辨當支給
- 七 陪觀艦 比叡・高雄・古鷹・加古・長門・陸奥・伊勢・榛名・金剛
(註) 皇族ハ比叡ニ御乘艦アラセラル但シ紀殿下及未成年ノ皇族ハ高雄
 - 八 拜觀艦 迅鯨・長鯨・明石・間宮・早瀬・尻矢・朝光丸・金龍丸
(註) 拜觀艦申迅鯨・長鯨・明石・尻矢ハ横濱・朝光丸・金龍丸ハ芝浦、早瀬・間宮ハ横須賀ヨリ夫々出港シ觀艦式終了後同所ニ歸投ス
 - 九 繫留場所
 - 御召艦 拾番浮標(御歸還時同附近投錨)
 - 供奉艦 第四・五・七號岸壁
 - 迅鯨・長鯨・明石・尻矢 大棧橋兩側
 - 一〇 御次第書ノ大要案
 - 九・〇〇 横濱港驛御著
 - 九・一〇 御召艦御乗艦
 - 九・四〇 御召艦式場ニ向ケ投錨
 - 御親閱
 - 一一・〇〇 頃 御召艦投錨
 - 一一・二〇 請許參列官御召艦ニ參集

九 祭留場所
御召艦 拾番浮標(御歸還時同附近投銷)
供奉艦 第四・五・七號岸壁
迅鯨・長鯨・明石・尻矢 大棧橋兩側
一〇 御次第書ノ大要案

- 九〇〇 横濱港驛御著
- 九一〇 御召艦御乘艦
- 九四〇 御召艦式場ニ向ケ投銷

- 一一〇〇頃 御召艦投銷
- 一一二〇 講評參列官御召艦ニ參集

艦第一圖 紀元2600年特別觀艦式配列圖案(横濱沖參加艦船84隻)



裏面白紙

一一・三五 講評 勅語

一二・三〇 御相伴

一三・三〇 御召艦港内へ向ヶ拔歸

一四・〇〇 御召艦港内ニ投歸

一四・二〇 御退艦

一四・三〇 横濱港驛御發車

一一 觀艦式豫行 十月十日

空中分列式概要

一 空中分列式指揮官

第一航空戰隊司令官

海軍少將 小澤治三郎

二 空中分列式飛行機隊編制大要並ニ使用基地

團集	第一	第二	第三	第四	區分		機種	機數	使用基地
					空中分列式指揮官小隊	機隊			
第一	第一	第一	第一	第一	艦	陸	戰	六三	橫空
第二	第二	第二	第二	第二	艦	陸	戰	六〇	橫空
第三	第三	第三	第三	第三	艦	陸	戰	一一〇	館空
第四	第四	第四	第四	第四	艦	陸	戰	九〇	木空
第五	第五	第五	第五	第五	艦	陸	戰	七〇	霞空

第二集團指揮官小隊		飛行艇	五	濱	空
第一	第五	飛行艇	約	二〇	
第二	第六	水偵	約	九〇	館山海岸 (備前久米濱海岸)
第三	第七	水偵	約	八〇	館山海岸 (備前久米濱海岸)

三 空中分列式ニ於ケル飛行機隊ノ運動大要

第一集團ハ江戸川河口第二集團ハ洲ノ崎燈臺上空ニ於テ夫々集合シ木更津上空ニ於テ空中分列式指揮官小隊ト合同シ東南方ヨリ北西方ニ向ヒ式場ニ進入シ空中分列式指揮官小隊ハ艦隊御親閲前御召艦ノ左舷側四〇〇米高
度二〇〇米ヲ以テ御召艦列線ト並行ニ航過ス

其ノ他隊形序列運動ノ細目ニ關シテハ空中分列式指揮官ノ定ムル所ニ依ル

第三回觀艦式事務委員會議題

- 一 全般ニ付テ(委員長・矢野・岡田)
- 二 參列艦船及航空兵力(泊・大前)
- 三 式場箇地(泊・大前・小原)
- 四 參列艦船ノ行動概要(泊・大前)
- 五 觀艦式指揮官ノ參列艦船部隊ヲ指揮スル期間(泊・大前)
- 六 式場ノ水陸施設(土井・林・小原)

- 七 艦船ノ設備需品ニ關スル事項(石畑・奥田)
- 八 觀艦式御次第書(寺崎)
- 九 觀艦式御次第細目(寺崎)
 - 一〇 空中分列式概要(小田原)
 - 一一 陪觀ノ皇族ニ對スル儀禮其ノ他(寺崎)
 - 一二 觀艦式御次第時間割(寺崎)
 - 一三 觀艦式指揮官同幕僚(寺崎)
 - 一四 觀艦式役員腕章及徽章(寺崎)
 - 一五 觀艦式當日事務委員長以下ノ配置(寺崎)
 - 一六 觀艦式接伴係ノ配置(寺崎)
 - 一七 觀艦式接伴係執務要領(寺崎)
 - 一八 陪觀者・拜觀者ノ乘艦區分(大前・山賀・細谷・山代・岡)
 - 一九 御相伴範圍及大臣招待範圍及之ニ對スル諸準備(細谷・山代・奥田・石畑)
 - 二〇 乘艦(艇)場所及同締切時刻解艦時刻(大前・山賀)
 - 二一 陪觀者・拜觀者上陸場所及時刻退艦時船艇使用區分(大前・山賀)

- 二二 陪觀者乘退艦其ノ他ニ關スル注意事項 (細谷・山代)
- 二三 拜觀者ニ與ヘアル注意事項 (岡・福地)
- 二四 便乘者ニ與ヘアル注意事項 (高橋・田代・高瀬)
- 二五 氣象通報要領 (山賀)
- 二六 拜觀艦船ノ行動 (大前)
- 二七 拜觀艦船ノ行動 (大前)
- 二八 觀艦式場警戒規程 (林)
- 二九 撮影・報道・放送ニ關スル事項 (高橋・田代・高瀬)
- 三〇 横濱附近ノ氣象 (小原)
- 三一 郵便物電報取扱ニ關スル事項 (鈴木)
- 三二 觀艦式豫行ニ關スル事項 (大前・泊)
- 三三 衛生ニ關スル事項 (川田)
- 三四 會計給與ニ關スル事項 (稻葉・茶谷)
- 三五 横濱地方官民トノ連絡ニ關スル事項 (工藤)
- 三六 記念品及謝禮ニ關スル事項 (寺崎・奥田・稻葉・茶谷)
- 三七 公表ニ關スル事項 (寺崎)

二三八

三八 今後ノ豫定 (寺崎)
 三九 其ノ他 (各委員)

觀艦式當日御晝餐ノ際御相伴仰付ラルベキ者ノ範圍

- 第一類
- 一 大演習參加員及審判員
 - (イ) 大演習統監部審判員
 - (ロ) 大演習參加部隊ノ各級指揮官 (所轄長以上) 及幕僚 (首席參謀以上)
 - (二) 演習部隊並ニ觀艦式參加艦船部隊ノ指揮官參謀長
 - (二) 觀艦式參加艦船ノ所轄長 (陪觀艦ヲ除ク)
 - (三) 觀艦式參加ノ驅逐艦長、潜水艦長、掃海艇長
 - (四) 觀艦式參加艦隊司令部部員 (中佐以上)
 - (五) 觀艦式指揮官幕僚
 - (六) 各戰隊首席參謀
- | | |
|---|---|
| | <p>第一艦隊
 第二艦隊
 第四艦隊</p> |
| <p>豫想數</p> <p>一四〇</p> <p>四一</p> <p>七一</p> <p>六一</p> <p>一七</p> <p>五</p> <p>六</p> <p>一〇</p> <p>一二</p> | <p>二二九</p> |

陪員名	陪員名	陪員名	陪員名
陸 長 門	陸 觀 奥	伊 勢	陪 金 剛
部内陪員者ノ一部 部外陪員者ノ一部	非現役海軍高等士官(將官ヲ除ク)ノ大部	非現役海軍高等士官ノ一部(將官ヲ除ク) 海軍准尉士官ノ一部 部外陪員者ノ一部	部内陪員者ノ一部 部外陪員者ノ一部
一二〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一三〇〇
外ニ選信官吏若干名便乗(辨當支給) (女子陪員者ノ一部)	外ニ選信官吏若干名便乗(辨當支給)	外ニ選信官吏若干名便乗(辨當支給)	外ニ選信官吏若干名便乗(辨當支給) (女子陪員者ノ一部)
一二〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一三〇〇

第五節 觀艦式次第

紀元二千六百年特別觀艦式次第ニ關シテハ寺崎觀艦式事務委員ノ手許ニ於テ前例ヲ參照ノ上立案シ、事務委員會ニ提出シテ意見ヲ求メ、案ヲ得テ海軍大臣ヨリ上奏シ、即日御治定アラセラレタルヲ以テ、十月二日海軍大臣ヨリ左ノ如ク部内ニ之ヲ令達セリ。

官房第五一六〇號

紀元二千六百年特別觀艦式御次第書左ノ通御治定アラセラレ
昭和十五年十月二日

海軍大臣 及 川古志郎

紀元二千六百年特別觀艦式御次第書

- 一、期日 十月十一日
- 二、式場海面 横濱沖
- 三、御召艦供奉艦左ノ如シ
御召艦 比 叡
供奉艦 高雄 加古 古鷹
- 四、式場ニ於ケル參列艦船ノ鑄地別圖ノ如シ(艦第二圖參照)
- 五、觀艦式當日横濱沖在泊ノ軍艦、驅逐艦及特務艦ハ滿艦飾ヲ行ヒ潛水艦ハ艦飾ヲ行フ
- 六、午前九時 横濱港驛御著車
横濱港驛御ノトキ海軍大臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官率連ス
- 七、横濱港御召艦ヨリ御召艦ニ乗御
御召艦乗御ヲ離レタルトキ供奉艦及參列ノ軍艦ハ御召艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ
海軍大臣、軍令部總長ハ御召艦ニ陪乘シ觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官ハ供奉シ、横須賀海軍港務部長ハ御先導ス
- 八、御召艦ニ乗御ノトキ同艦ハ海軍禮式令第六十三條、供奉艦ハ同令第六十五條ノ教禮ヲ行フ
- 九、御召艦ニ乗御ノ後皇族御對講次デ海軍大臣、觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官、御召艦艦長、御召艦

- ニ在ル陪觀ノ勅任官以上ノ者、東京市長、横濱市長ニ謁ヲ賜フ
- 十、午前九時四十分、御召艦浮標ヲ離レ御親閱式場ニ進ム此ノトキ參列艦船ノ乗員ハ海軍禮式令第六十五條ノ敬禮ヲ行フベキ位置ニ就キ參列ノ軍艦ハ親艦式指揮官ノ旗艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ
- 十一、供奉艦ハ逐次出港午前九時三十分迄ニ横濱港防波堤附近ニ於テ待機シ御召艦ノ出港ヲ俟テ左ノ御親閱序列ニ入ル

(御先導) 高雄 (御召艦) 比叡 (供奉) 加古 古鷹

- 十二、御親閱中親艦式指揮官ハ玉座ノ側ニ在リテ參列艦長、司令以上ノ指揮官ノ官氏名其ノ他必要ナル事項ヲ奏上ス
- 十三、飛行機隊ハ空中分列ヲ行フ

十四、參列艦船ハ御召艦其ノ附近ヲ通過ノ際逐次ニ海軍禮式令第六十五條ノ敬禮ヲ行フ

十五、陪觀者ハ御召艦、供奉艦、長門、陸奥、伊勢、金剛、榛名ニ在リテ陪觀ス

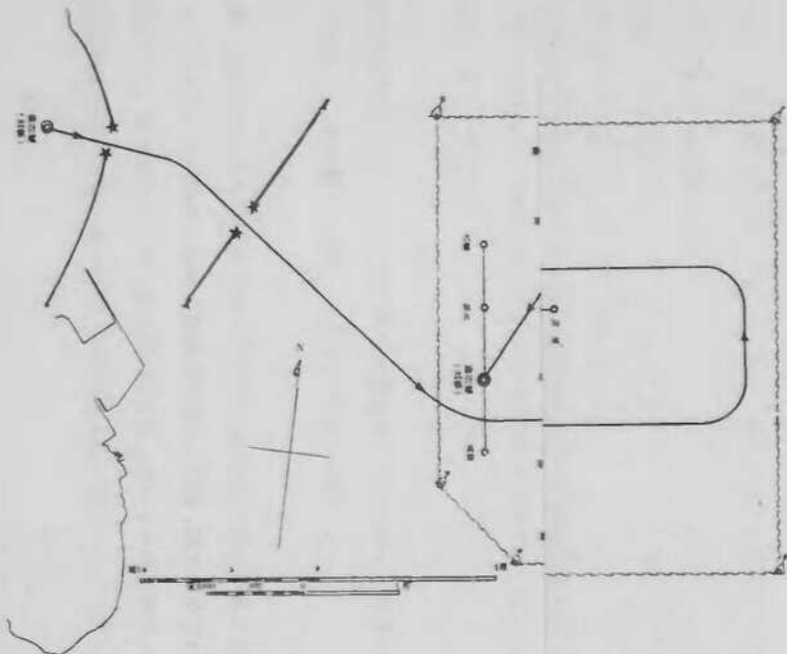
十六、御親閱終了ハ御召艦及供奉艦ハ豫定ノ位置ニ投錨ス

十七、御召艦投錨後親艦式參加ノ主要職員ヲ召サレ謁ヲ賜フ(既ニ謁ヲ賜ハリタルモノヲ除ク)

次ニ勅語ヲ賜フ

十八、午後零時四十分頃御晝餐、其ノ際親艦式關係主要職員及主ナル陪觀者ニ御相伴仰付ケラル

十九、午後一時三十分、御召艦拔錨横濱港内ニ向フ



(御先導) 高雄 (御召艦) 比叡 (供奉) 加古 古鷹
十二、御親閲中觀艦式指揮官ハ玉座ノ側ニ在リテ參列艦長、司令以上ノ指揮官ノ官氏名其ノ他必要ナル事項ヲ奏上ス

十三、飛行機隊ハ空中分列ヲ行フ

十四、參列艦船ハ御召艦其ノ附近ヲ通過ノ際逐次ニ海軍禮式令第六十五條ノ敬禮ヲ行フ

十五、陪觀者ハ御召艦、供奉艦、長門、陸奥、伊勢、金剛、榛名ニ在リテ陪觀ス

十六、御親閲終ラバ御召艦及供奉艦ハ豫定ノ位置ニ投錨ス

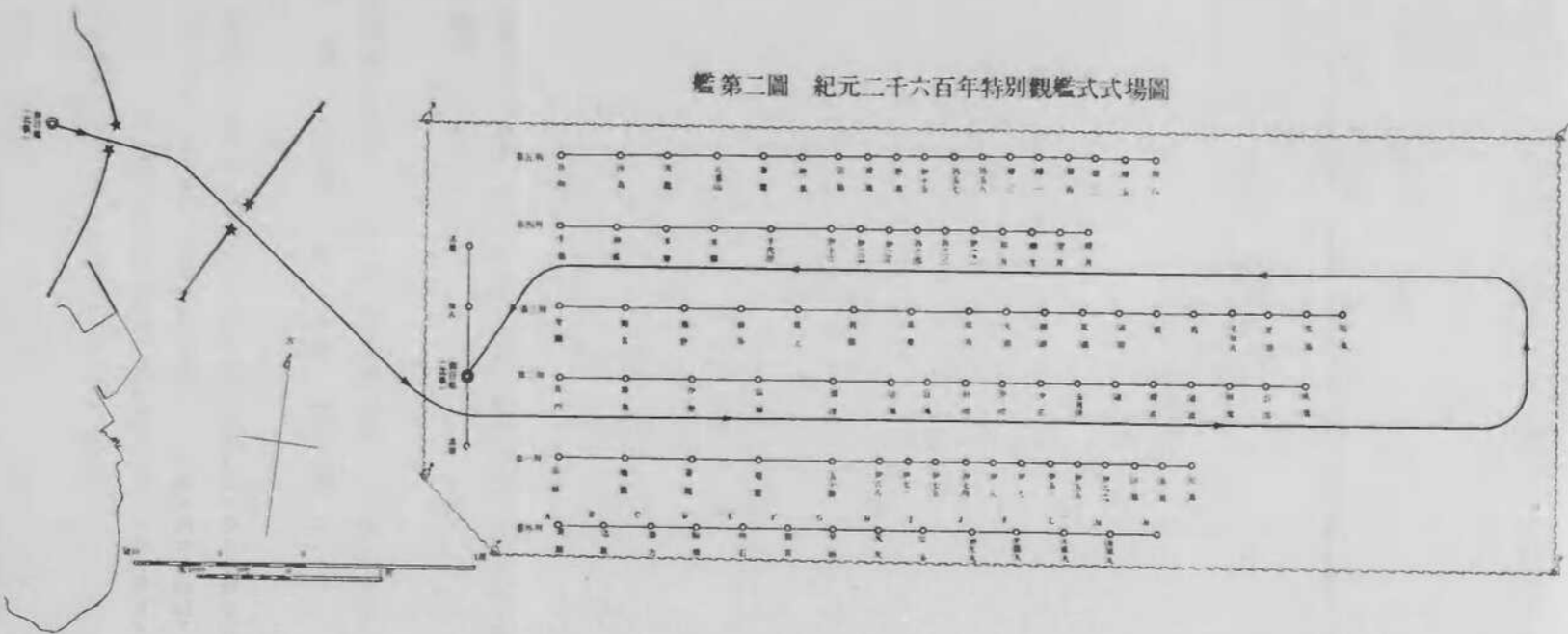
十七、御召艦投錨後觀艦式參加ノ主要職員ヲ召サレ謁ヲ賜フ(既ニ謁ヲ賜ハリタルモノヲ除ク)

次ニ勅語ヲ賜フ

十八、午後零時四十分頃御書餐、其ノ際觀艦式關係主要職員及主ナル陪觀者ニ御相伴仰付ケラル

十九、午後一時三十分 御召艦拔錨横濱港内ニ向フ

艦第二圖 紀元二千六百年特別觀艦式式場圖



裏面白紙

此ノ時供奉艦及參列ノ軍艦ハ觀艦式指揮官ノ旗艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行ヒ且ツ諸艦船ハ海軍禮式令第六十五條ノ敬禮ヲ行フ

二十、午後二時二十分 御召艇ニ乗御

此ノ時御召艇ハ海軍禮式令第六十四條其ノ他ノ艦船ハ同令第六十五條ノ敬禮ヲ行ヒ御召艇御召艇ヲ離レタルトキ供奉艦及參列ノ軍艦ハ御召艇ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ

御上陸ノ際御召艇ニ搭乘スル者、御先導ヲ爲ス者及供奉スル者第七號ニ同ジ
次ニ御召艇橋ニ御上陸

二十一、午後二時三十分 横濱港驛御發車

横濱港驛發御ノトキ海軍大臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官奉送ス
二十二、横須賀鎮守府ヨリ派遣ノ海軍儀仗隊一個大隊ヲ御召艇橋附近ニ配置ス

二十三、服装 武官ハ軍裝（長劍）勳章記章全部、文官ハ通常服、服制アル者ハ相當服
右ノ如ク觀艦式御次第書御治定アラセラレタルヲ以テ、海軍大臣ニ於テ當日ノ御次第細目ヲ制定シ、十月二日左ノ如ク部内ニ之ヲ令達セリ。

官房第五一六一號

紀元二千六百年特別觀艦式當日ノ御次第細目左ノ通定ム

昭和十五年十月二日

紀元二千六百年特別觀艦式御次第細目

- 一、御召艦ニ於テハ午前八時三十分迄ニ陪觀者ノ乗艦ヲ終了ス
- 二、陪觀ノ皇族ハ午前八時三十分横濱御召棧橋ニ御著ノ上直ニ御召艦（紀殿下及御未成年皇族ハ高雄）へ向ハセラル
- 皇族御乗艦ノ際ハ海軍禮式令第六十八條ノ敬禮ヲ行ヒ御召艦艦長御先導御休所ニ御案内ス
- 御召艦ニ在ル勅任官以上ノ諸官ハ後甲板ニ整列奉迎ス
- 三、午前八時 五分 宮城御出門
午前八時十五分 東京驛御發車
午前九時 横濱港驛御著車
- 横濱港驛著御ノ際ハ海軍大臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、橫須賀鎮守府司令長官奉迎ス
- 午前九時 三分 御召棧橋ヨリ御召艦ニ乗御
- 横濱港驛奉迎送位置、附圖第一號ノ如シ（圖第三圖参照）
- 四、御召艦御召棧橋發御召艦ニ向フ
- 供奉員其ノ他乗艇割左ノ如シ

- 御先導艇 橫須賀海軍港務部長
- 御 召 艇 宮内大臣、内大臣、侍從長、侍從武官長、侍從二、侍從武官二（海軍）、行幸主務官、侍醫一、
内舍人一、海軍大臣、軍令部總長（皇族附武官）
- 第一供奉艇 供奉宮内高等官、侍從武官、觀艦式指揮官、橫須賀鎮守府司令長官
- 第二供奉艇 海軍大臣秘書官、軍令部副官、觀艦式副官、橫須賀鎮守府副官
- 第三供奉艇 供奉宮内判任官、其ノ他御用物
- 列 外 艇 内務大臣、神奈川縣知事、内務省警保局長、憲兵司令官、横濱稅關長、其ノ他
- 御召艇以下諸艇棧橋發著位置及御召艇へ横付位置 附圖第二號ノ如シ（圖第四圖参照）
- 五、午前九時十分御召艦ニ乗御
 - (一) 御召艦ハ海軍禮式令第六十三條ノ敬禮ヲ行フ
 - (二) 御召艦ニ在ル勅任官以上ノ諸官ハ後甲板左舷後部ニ整列奉迎ス
 - (三) 前項以外ノ諸員ハ後甲板左舷前部ニ整列奉迎ス
- 六、午前九時十五分頃皇族御對講次左記ニ依リ謁ヲ賜フ
 - (一) 第一次單獨拜謁（御座所）
海軍大臣、觀艦式指揮官、橫須賀鎮守府司令長官、御召艦艦長、御召艦ニ在ル陪觀ノ親任官
 - (二) 第一次列立拜謁（後甲板）

御召艦ニ在ル階級ノ勅任官、東京市長、横濱市長
終テ御座所へ入御

第一次單獨拜謁 附圖第三號ノ如シ〔艦第五圖參照〕

第一次列立拜謁式場 附圖第四號ノ如シ〔艦第六圖參照〕

七、午前九時四十分御召艦浮標ヲ離レ式場ニ向フ

供奉艦ハ外防波堤東側附近ニ待機シ御召艦出港セバ逐次所定ノ序列ニ就ク

八、午前九時四十五分頃（御召艦内防波堤ヲ通過シタル頃）觀艦式指揮官ハ式部長官ヲ經テ前艦橋ニ出御ヲ奏

請ス

（一） 觀艦式指揮官御先導シ海軍大臣、軍令部總長扈從ス

（二） 前艦橋ニ出御ノ際階級ノ諸員ハ後甲板及最上甲板中部ニテ御通路ノ傍ニ整列奉迎ス

前艦橋へ出御ノ際ノ御通路竝ニ諸員奉迎送位置 附圖第五號ノ如シ〔艦第七圖參照〕

九、前艦橋玉座ニ出御

御親閱

御親閱中御召艦ニ在ル諸員ノ位置左ノ如シ

（一） 前艦橋

一 皇族、宮内大臣、内大臣、侍從長、侍從、侍從武官長、侍從武官（海軍）、式部長官、行幸主務官、海軍大

臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官

（二） 前艦橋下及其ノ附近

前艦以外ノ供奉高等官、親任官待遇以上ノ諸官、皇族附武官

（三） 「シエルト」甲板及最上甲板中部

前二號以外ノ諸員

十、飛行機隊ハ空中分列式指揮官ノ定ムル隊形ヲ以テ東ヨリ西ニ向ツテ式場ニ進入シ式場ノ北側ニ於テ御召艦

ノ一側上空ヲ航過ス

此ノ時各機ハ敬禮ス

十一、御親閱終テ觀艦式指揮官ハ式部長官ヲ經テ入御ヲ奏請ス

入御ノ際ノ御先導、扈從、御通路及儀禮等ハ出御ノ場合ニ準ズ

十二、午前十一時頃御召艦豫定位置ニ投錨ス

御召艦投錨セバ觀艦式参加ノ主要職員ハ御召艦ニ全集ス

十三、午前十一時二十五分頃御座所ニ於テ觀艦式参加諸員中ノ親任官ニ第二次單獨拜謁ヲ、勅任官ニ第二次列

立拜謁ヲ賜フ但シ既ニ謁ヲ賜ハリタル者ヲ除ク

第二次單獨拜謁ノ際ノ通路ハ第一次單獨拜謁ノトキニ同ジ

第二次列立拜謁式場 附圖第六號ノ如シ〔艦第八圖參照〕

十四、午前十一時五十分頃海軍大臣ハ式部長官ヲ經テ出御ヲ奏請ス

(一) 海軍大臣御先導シ軍令部總長扈從ス

(二) 勅語ヲ賜フ

勅語式場圖 附圖第七號ノ如シ〔圖第九圖參照〕

十五、右終テ式部長官入御ヲ奏請ス

入御ノ際ニ於ケル御先導及扈從ハ出御ノトキニ同ジ

十六、午後零時四十分頃式部長官御晝餐場ニ出御ヲ奏請ス

其ノ際觀艦式參加ノ主要職員及陪觀者ノ主ナルモノニ對シ御相伴仰付ケラル其ノ次第左ノ如シ

(一) 御相伴ヲ仰付ケラレタル諸員ハ御晝餐場ニ在リテ奉迎ス

(二) 御晝餐場ニ出御

(三) 御晝餐

十七、午後一時十分御晝餐終テ式部長官入御ヲ奏請ス

(一) 入御ノ際ニ於ケル儀禮ハ出御ノ際ニ準ズ

(二) 諸員ハ其ノ位置ニ在リテ奉送ス

十八、午後一時三十分頃召艦技師橫濱港内ニ向フ

十九、午後二時頃御召艦橫濱港内ニ投錨

二十、午後二時二十分頃御召艦退艦御召艇ニ乗御

(一) 御召艦退艦ノ際御召艇ニ在ル諸官ノ整列奉送位置ハ第五號ニ同ジ

(二) 供奉員其ノ他乗艇第四號ニ同ジ

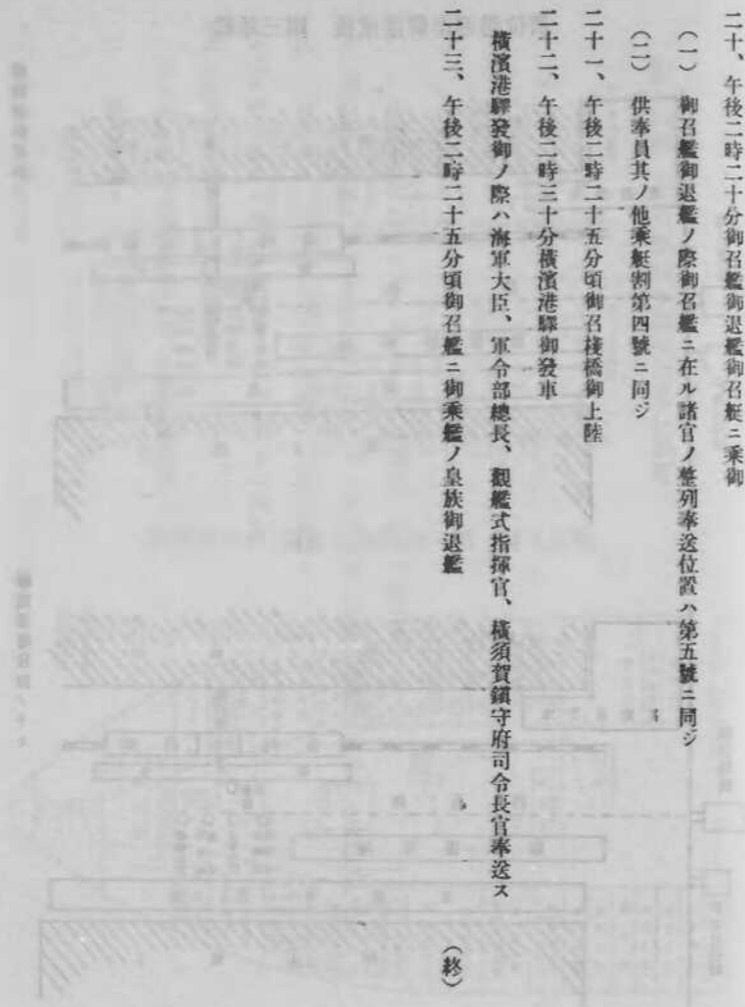
二十一、午後二時二十五分頃御召棧橋御上陸

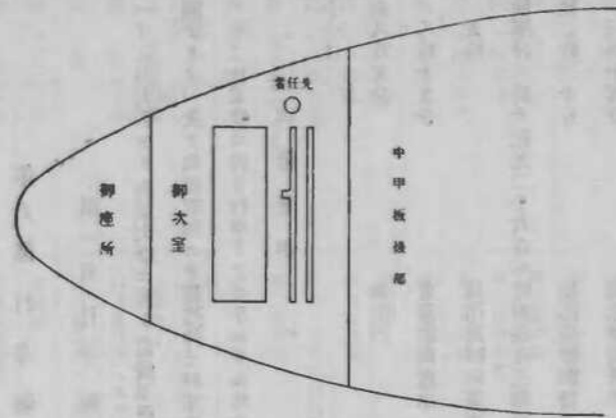
二十二、午後二時三十分頃橫濱港驛御發車

橫濱港驛發御ノ際ハ海軍大臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、橫須賀鎮守府司令長官奉送ス

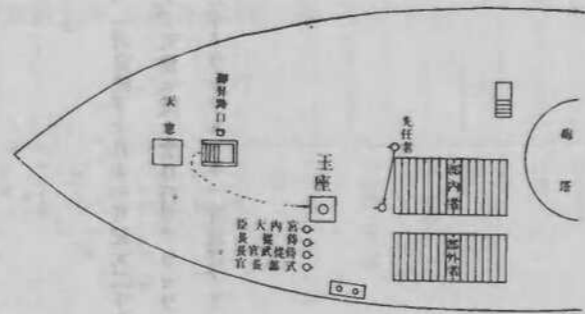
二十三、午後二時二十五分頃御召艦ニ御乘艦ノ皇族御退艦

(終)





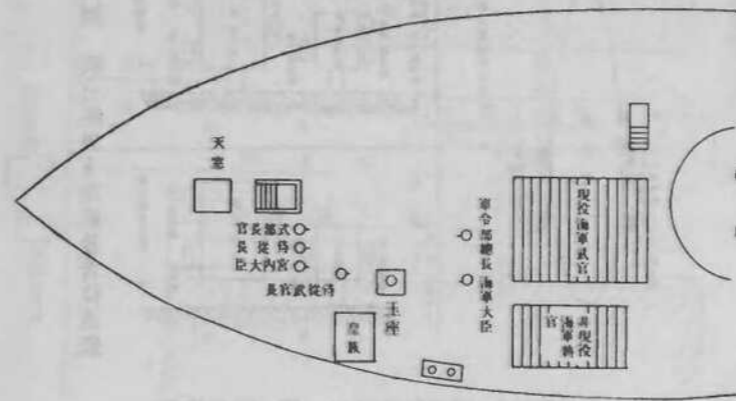
艦第八圖 第二大列立拜式場圖



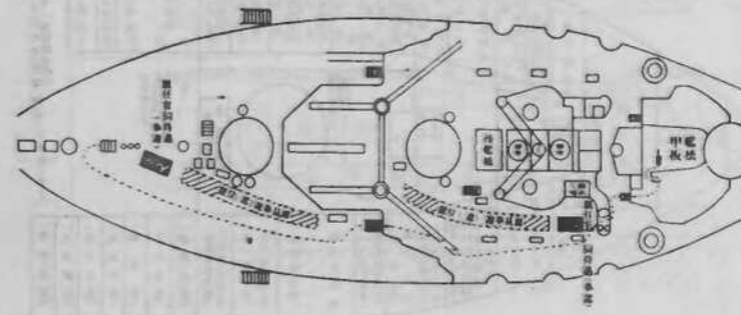
艦第九圖 勅語式場圖

一一四四

艦第六圖 立拜式場圖



艦第七圖 前橋へ御出ノ際ノ御通路(送)奉迎員位置



一一四四

第六節 行幸關係

第一項 行幸仰出

十月一日宮内大臣ヨリ海軍大臣ニ對シ宮發第四八八號ヲ以テ、「天皇陛下十月十一日紀元二千六百年特別觀艦式御親臨ノタメ、次ノ御發著割ニテ横濱沖ニ行幸アラセラルベク、天候ニ因リ當日行幸アラセラル場合ハ翌十二日、十二日天候ニ因リ行幸アラセラル場合ハ翌十三日行幸アラセラルベキ」旨通牒アリ。

御發著割

十月十一日

午前八時五分 御出門
 同 八時十五分 東京驛御發車
 同 九時 横濱港驛御著車
 横濱沖ニ於テ紀元二千六百年特別觀艦式御親臨
 午後二時三十分 横濱港驛御發車
 同 三時十五分 東京驛御著車

尙未觀艦式御次第書ニ基キ、觀艦式事務委員ニ於テ次ノ如ク行幸御時間割ヲ豫定スルコトトセリ。

時	刻	御	行	動	所	要	時	間
午前八時五分		宮城御出門			十分			
同 八時十五分		東京驛御發車			四十五分			
同 九時		横濱港驛御著車			三分			
同 九時三分		御召艇乗御			七分			
同 九時十分		御召艇乗艦			五分			
同 九時十五分		第一大拜謁			二十五分			
同 九時四十分		御召艇式場へ向ケ披露			一時間二十分			
同 十一時頃		御召艇披露			二十分			
同 十一時二十分		參列ノ主要職員御召艇ニ參集			五分			
同 十一時二十五分		第二次拜謁			二十五分			
同 十一時五十分		勅語ヲ賜フ			五十分			
午後零時四十分頃		御書齋			三十分			
同 一時十分頃		右御終了			三十分			
同 一時三十分		御召艇港内ニ向ケ出港			三十分			
同 二時		御召艇港内ニ投錨			二十分			
同 二時二十分		御退艦			十分			
同 二時三十分		横濱港驛御發車						

同 三時十五分	東京警備憲兵	四十五分
同 三時二十五分	宮城憲兵	

第二項 奉 迎 送

天皇陛下紀元二千六百年特別觀艦式ニ行幸アラセラルルニ際シテノ奉迎・奉送ニ關シテハ、觀艦式御次第書並ニ御次第細目附圖等ニ詳細掲記セラレアルトコロニシテ、御召艦ハ比叡、供奉艦ハ高雄(御先導)、加古、古鷹トセラレ、横濱港警備御節海軍大臣、軍令部總長、觀艦式指揮官、横須賀鎮守府司令長官奉迎シ、御還幸ノトキ横濱港警備御節右ノ者奉送スベキコトトセラレタリ。其ノ他艦飾・艦ノ敬禮・皇禮砲・儀仗等總テ御次第ニ定メラレタルトコロノ如シ。

第三項 勅語ヲ賜ハリタル場合ノ處理

觀艦式ニ於テ勅語ヲ賜ハルベキコトハ前例ニ徴シ豫想セラルルトコロナルヲ以テ、觀艦式事務委員ニ於テハ之ニ關シ遺漏ナク準備ヲ進メタリシガ、觀艦式御次第書ニ勅語ヲ賜フベキ旨御治定アラセラレタルヲ以テ、御次第細目ニ於テ拜受ノ要領ヲ定メ、尙ホ陪觀者・拜觀者乘艦ニ於テ之ヲ一般陪觀者ニ速報スルタメ十月八日特別觀艦式事務委員ヨリ陪觀者乘艦各艦長ニ宛テ左記事項ヲ諒承ノ上然ルベク取計フベキ旨通牒セリ。

一 勅語ヲ賜ハリタル場合成ルベク速ニ勅語寫(摺不用一參考用二)ヲ陪觀者乘艦宛送付ス

二 右摺不用寫(縦二尺五寸・横三尺五寸ノ洋紙)ハ之ヲ適當ナル平板ノ類ニ定著ノ上速ニ一般ニ見エ易キ場所ニシテ不敬ノ虞ナキ位置ニ掲示スルモノトス

三 右寫ハ陪觀者退艦後適宜處理スルモノトス

同ジク勅語ヲ賜ハリタル場合ニ於テ左ノ通部内及部外ニ傳達並ニ發表スベキ手續ヲ定メ、十月七日海軍省軍務局長ヨリ特別觀艦式參謀長・中央統監部首席審判官・各鎮守府參謀長・各艦隊參謀長宛テ之ヲ通牒セリ。

紀元二千六百年特別觀艦式當日勅語ヲ賜ハリタル場合部内及部外ニ傳達並ニ發表手續

一 要 旨
御觀閱後勅語ヲ賜ハリタル場合部内一般及部外ニ對シ迅速正確ニ傳達並ニ發表ス

二 部内傳達法
勅語ヲ賜ハラバ海軍省副官ハ左ノ通信経路ニ依リ直ニ海軍大臣ノ名ヲ以テ勅語ヲ部内一般ニ傳達ノ手續ヲ爲ス

(イ) 比叡ハ觀艦式參列艦船、東京海軍通信隊及横濱陸上假設電信所宛送信ス

(ロ) 東京海軍通信隊ハ總無線艦所宛送信ス
海軍省副官ハ別ニ最近ノ海軍公報ヲ以テ海軍大臣ヨリ部内一般ニ對シ勅語傳達方ヲ取計フモノトス

(註)
部内一般中部外通信経路ニ依ル各部ニ對スル傳達ハ之ヲ行ハズ

三、部外發表法

勅語ヲ賜ハリタル後各部ニ於テ左ノ通發表ス

- (イ) 御召艦ニ在ル觀艦式事務委員ハ發表文書ヲ陪拜觀者乘艦全部ニ發付ス(之ガ爲觀艦式事務委員ハ内火艇二隻ヲ十一時五十分迄ニ準備ス)
- (ロ) 右文書ノ送付ヲ受ケタル各艦接伴掛員ハ適宜掲示發表ス
- (ハ) 比叡及加古ニ在ル記者掛員ハ右文書ヲ在艦各記者ニ交付ス
- (ニ) 海軍省當直士官ハ勅語電報ヲ受ケタル後文書トシテ黒潮會關係各社ニ發表ス
- (ホ) 横濱陸上假設電信所ハ觀艦式事務所ニ通報同所當直員ハ文書トシテ之ヲ所在各記者ニ發表ス

第四項 拜 謁

特別觀艦式行幸ノ節皇族ニ御對講アラセラルレ及其ノ他ニ拜謁ヲ賜ハルベキコトニ關シテハ、觀艦式事務委員ニ於テ前例ヲ調査シ慎重ニ準備ヲ爲シタルガ、之ニ關シテハ特別觀艦式御次第書・同御次第細目・同附圖等ニ詳細定メラレアルトコロノ如シ。尙ホ御召艦比叡ニ於ケル第一次單獨拜謁者ハ八十名、同第二次二名ニシテ、第一次列立拜謁者ハ八十六名、同第二次ハ十八名ナリ。

第七節 皇族御接待

特別觀艦式當日陪觀アラセラルベキ皇族ニ對スル奉迎送ニ關シテハ觀艦式事務委員ニ於テ宮内省ト連絡ノ上諸準備ヲ進メ、先ヅ奉迎送次第案ヲ立テ、海軍大臣ノ決裁ヲ經タルヲ以テ、十月二日海軍大臣ヨリ之ヲ關係者ニ令達セリ。

官房第五一六二號

紀元二千六百年特別觀艦式當日陪觀ノ皇族ニ對スル奉迎送次第左ノ通定ム

昭和十五年十月二日

海軍大臣 及 川 古 志 郎

陪觀ノ皇族ニ對スル奉迎送次第

- 一、陪觀ノ皇族ハ午前七時五十分横濱港驛著ノ列車ニテ四號岸壁御著貴賓室ニテ御休憩後午前八時三十分御召接橋ヨリ御乘艇、御召艦ニ向ハセラル(紀殿下及御未成年ノ皇族ハ五號岸壁ニテ高雄ニ御乘艦アラセラル)
- 二、横濱港驛御著ノ際觀艦式事務委員長、神奈川縣總務部長、横濱稅關監視部長奉迎シ御乘艇迄(紀殿下及御未成年皇族ハ御乘艦迄)ハ横濱稅關監視部長(又ハ横濱稅關總務部長)御先導ス
- 三、御乘艇左ノ如シ
- 御召艦行 伊勢水雷艇 山城水雷艇
- 四、各艦ニ御來乘ノ際ハ海軍禮式令第六十八條ノ敬禮ヲ行ヒ艦長御先導御休所ニ御案内ス
- 五、高雄ニ御乘艦ノ皇族(紀殿下及御未成年皇族)ハ午後二時頃御退艦御上陸アラセラル御退艦ノ際ノ敬禮ハ

御來乘ノトキニ同ジ御乘艇ハ濱丸トス

御召艦ニ御乘艇ノ皇族ハ午後二時二十五分頃御退艦御上陸アラセラル御退艦ノ際ノ敬禮及御乘艇ハ御來乘ノトキニ同ジ

六、御召棧橋御上陸後貴賓室ニテ御休憩午後三時十五分横濱港驛發ノ列車ニテ御出發アラセラル

七、御召棧橋御著ヨリ横濱港驛御發迄ハ横濱税關監視部長(又ハ横濱税關總務部長)御先導シ横濱港驛御發ノ

トキハ觀艦式事務委員長、神奈川県總務部長、横濱税關監視部長奉送ス

特別觀艦式當日台臨アラセラルベキ皇族ニ關シ、豫テ觀艦式事務委員ニ於テ宮内省ヲ通ジ各宮殿下ニ台臨方ヲ願出デタルトコロ、左ノ各殿下御台臨アラセラルルコトニ決定ヲ見タリ。

比叡御乘艇

- 高松宮宣仁親王殿下
- 閑院宮春仁王殿下
- 伏見宮博恭王殿下
- 久邇宮朝融王殿下
- 朝香宮鳩彦王殿下
- 竹田宮恒徳王殿下

- 隨行官
- 海軍中佐 松木通世
- 海軍少佐 土師真太郎
- 陸軍少佐 長命 稔
- 海軍中佐 新島 信夫
- 海軍少佐 清水谷 武
- 陸軍中佐 淺沼吉太郎
- 陸軍少佐 伊東 力

高雄御乘艇

- 高松宮宣仁親王紀喜久子殿下
- 閑院宮春仁王紀直子殿下
- 東伏見宮故依仁親王紀周子殿下
- 伏見宮故博義王妃朝子殿下
- 伏見宮博明王殿下
- 伏見宮光子女王殿下
- 伏見宮章子女王殿下
- 久邇宮朝融王妃知子女王殿下
- 朝香宮湛子女王殿下

- 隨行官
- 山内 別取 當
- 町野 御用 取 換
- 奥山 御用 取 換
- 高橋 野事 別 當
- 倉賀野 野事 別 當
- 島 御用 取 換
- 中根 御用 取 換
- 藤谷 御用 取 換
- 侍 女 三 名
- 三浦 御用 取 換
- 御用 取 換
- 折田 御用 取 換
- 宮田 御用 取 換

第八節 參列艦船及航空機

第一項 決

定

紀元二千六百年特別觀艦式ニ參列スベキ艦船及航空機ニ關シテハ左ノ通決定セラレ、十月二日十八時十五分軍令部總長ヨリ電報ヲ以テ青軍聯合艦隊・第二艦隊各司令長官・青軍橫須賀・吳・佐世保・舞鶴各鎮守府司令長官・青軍大湊・鎭海各要港部司令官・赤軍第四艦隊司令長官・赤軍馬公・旅順各要港部司令官ニ令達シ、第一・第二特別演習審判官ニ通報セリ。

紀元二千六百年特別觀艦式參列艦船及航空機左ノ通定ム

一 艦 船

- (一) 聯合艦隊所屬艦船 第一艦隊・長門・陸奥・伊勢・山城・金剛・榛名・加古・古鷹・涼風・江風・村雨・春雨・夕立・五月雨・伊七・伊五三・伊五五・伊六六・赤城・綾波・浦波、第二艦隊・高雄・熊野・鈴谷・最上・利根・筑摩・陽炎・大潮・朝潮・荒潮・滿潮・霧・霞・不知火・墨潮・雪風・初風・漣・五十鈴・伊六八・伊七一・伊七五・伊七四・伊八・飛龍・蒼龍・初雲・白雪・吹雪・沖風・峰風・瑞穂・間宮・明石・攝津・矢風
- (二) 第四艦隊所屬艦船 千歲・神威・多摩・常磐・伊一六・伊一二四・伊一二三・呂三三・呂三三・伊一二二・如月・彌生・望月・睦月・千代田・早潮
- (三) 橫須賀鎮守府所屬艦船 沖島・掃一・掃二・掃三・掃四・掃五・掃六・迅鯨・呂五七・呂五八・伊一五
- (四) 吳鎮守府所屬艦船 長鯨・日向
- (五) 佐世保鎮守府所屬艦船 八重山
- (六) 舞鶴鎮守府所屬艦船 蒼鷹

- (七) 大湊要港部所屬艦船 神風・波風・野風・沼風
- (八) 鎭海要港部所屬艦船 天龍
- (九) 其ノ他 駒橋・勝力・宗谷

二 航空機

- (一) 觀艦式參列艦船ノ搭載機常用機全部但潛水艦飛行機及夜偵ヲ除キ第一・第三艦隊ノ貸與機ヲ加フ
- (二) 橫須賀在泊艦船ノ搭載機常用機全部但夜偵ヲ除ク
- (三) 第一聯合航空隊各隊陸攻二四
- (四) 橫須賀航空隊 艦戰九・艦攻二四・艦爆一二・陸攻九・飛行艇二・二座水偵一六・三座水偵一二
- (五) 館山航空隊 艦攻三六・二座水偵一八・三座水偵一五
- (六) 父島航空隊 三座水偵四
- (七) 木更津航空隊 陸攻二七
- (八) 吳航空隊 二座水偵一六
- (九) 佐伯航空隊 飛行艇四・艦爆二四
- (一〇) 岩國航空隊 艦戰一二
- (一一) 佐世保航空隊 飛行艇五・三座水偵六
- (一二) 大村航空隊 艦戰一五・艦攻一八・艦爆九

- (一三) 舞鶴航空隊 三座水偵四
- (一四) 大湊航空隊 三座水偵六
- (一五) 鎮海航空隊 三座水偵二二
- (一六) 千歲航空隊 陸攻九
- (一七) 横濱航空隊 飛行艇一四

第二項 艦船準備行動

特別觀艦式ニ參列スベキ艦船ノ準備行動ニ關シテハ、觀艦式事務委員ニ於テ研究シ、委員會ニ於テ決定セルモノニシテ、横須賀在泊ノ艦船ノ外、日本更津津集兵館地ニ集合スルコトセラレ、左ノ通其ノ錨地ヲ定メラレタリ。

- 東京灣木更津沖錨地ヲ左ノ通定ム
- 一 比叡ノ錨位・磐洲鼻三角標(二・八米)ノ二五〇度四八〇〇米
- 長門ノ錨位・比叡ノ錨位ノ二五〇度一〇〇〇米
- 二 第四列ヲ磐洲鼻三角標ノ二五〇度線トシ同線以北及以南ニ各三列ヲ設ケ北ヨリ順次ニ番號ヲ附シ列線方位二五〇度、列間距離一〇〇〇米各列先頭艦ノ錨位長門ノ錨位ノ三四〇度(一六〇度)線上トス
- 三 第一列 日向・沖島・第一掃海隊・掃五・掃六・天龍・八重山・蒼鷹・第一驅逐隊・伊一五・第六潜水隊・迅鯨・長鯨ノ順トシ距離日向・沖島間七〇〇米、驅逐艦伊一五、三五〇米、潜水艦掃海艇三〇〇米、其ノ他五〇〇米

トス

四 第二列 第十七戰隊・第十八戰隊・千代田・第五潜水戰隊・第三十驅逐隊・早瀬・尻矢ノ順トシ、錨位ハ第四艦隊司令長官ノ定ムル所ニ依ル

- 五 第三列 第三戰隊・第七戰隊・第八戰隊・第二水雷戰隊ノ順
- 第四列 第一戰隊・攝津・第一水雷戰隊・第四水雷戰隊ノ順
- 第五列 第四戰隊・第一航空戰隊・第二航空戰隊・瑞穂ノ順
- 第六列 第三潜水戰隊・第四潜水戰隊・沖風・峰風・矢風・明石・間宮ノ順
- 第七列 第六戰隊
- 第三列乃至第七列ノ錨位ハ聯合艦隊司令長官ノ定ムル所ニ依ル

第三項 空中分列式

特別觀艦式空中分列式ニ關シテハ觀艦式事務委員ニ於テ左ノ通決定セリ。

空中分列式概要

- 一 空中分列式指揮官 海軍少將 小澤 治 三 郎
- 二 空中分列式飛行機隊編成大要並ニ使用基地

區分	機種	機數	使用基地
空中分列式指揮官小隊	戰機	六三	横空
第一隊	戰機	六〇	横空
第二隊	戰機	一一〇	鎌空
第三隊	戰機	九〇	木空
第四隊	爆機	七〇	霞空
第二集團指揮官小隊	飛行艇	五	濱空
第五隊	飛行艇	二〇	濱空
第六隊	偵偵	九〇	横空(要スレバ一部)
第七隊	偵偵	八〇	前空(要スレバ一部)

三 空中分列式ニ於ケル飛行機隊ノ運動大要

第一集團ハ江戸川河口ニ於テ第二集團ハ城ヶ島燈臺上空ニ於テ空中分列式指揮官小隊ハ江戸川河口千葉、本更津ヲ經テ夫々集合此ノ間第一第二集團ヲ合同シ東方ヨリ西方ニ向ヒ式場ニ進入シ艦隊御親閱前御召艦ノ左舷側一〇〇〇米高度二〇〇米ヲ以テ御召艦列線ト並行ニ航過ス其ノ他隊形序列運動ノ細目ニ關シテハ空中分列式指揮官ノ定ムル所ニ依ル

十月九日小澤紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式指揮官ニ於テ左ノ如ク空中分列式實施方案ヲ定メ、同日之ヲ部内ニ令達セリ。

機密特觀空命令第一號

昭和十五年十月九日横濱沖津艦赤城

紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式指揮官 小澤 治 三 郎

紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式命令

紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式實施方案ヲ別紙ノ通定ム

機密特觀空命令第一號別紙

紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式實施方案

一 紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式ハ機密特別觀艦式命令第一號ニ依ルノ外本實施方案ニ依ル

二 飛行機隊ノ編制

別表ノ通(艦第一表參照)

三 飛行機隊ノ隊形並ニ序列

別圖第一ノ通(艦第十圖參照)

四 飛行機隊ノ行動

(一) 空中分列式指揮官小隊ハ別圖第二ノ通行動ス(艦第十一圖參照)行動ノ途次要スレバ第二集團指揮官並ニ各群指揮官宛左ノ事項ヲ通報ス

①・②・③・④・⑤・⑥・⑦ノ各點通過時刻、高度、針路並ニソノ豫定

(一) 第一集團各群ハ別圖第二圖示位置附近ニテ除番號順ニ入列シ◎點通過時迄ニ所定序列ニ占位スルモノトス

(二) 第二集團ハ、城ヶ島上空附近ニ於テ同集團指揮官ノ定ムル所ニ依リ集合シ概ネ◎地點附近ヨリ第一集團ノ後ニ入り爾後第一集團ニ續行スルモノトス

(三) 飛行機隊ノ解列並ニ解列後ノ行動
第四群ハ◎點通過後令ナクシテ解列基地ニ歸投ス

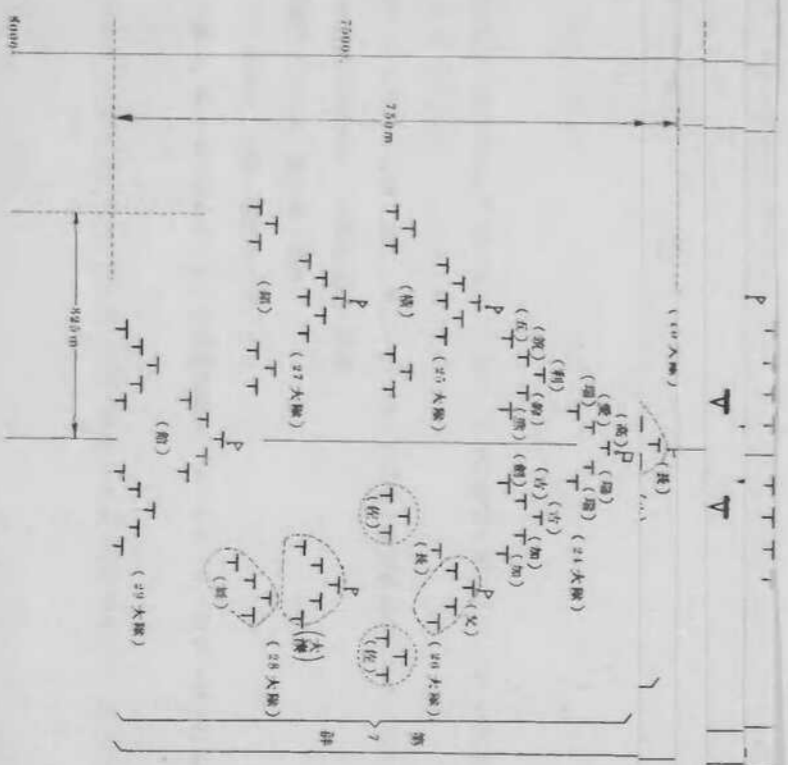
爾餘ノ各群ハ概ネ指揮官小隊ニ續行シ解列ノ令ニ依リ各群毎ニ◎點通過後各基地ニ歸投スルモノトス、此ノ場合式場並ニ横濱港上空ヲ飛行スベカラズ

(四) 飛行機隊基地發進後空中分列式取止メノ場合ニハ飛行機隊ハ解列ノ令ニ依リ各群毎ニ基地ニ歸投スルモノトス

此ノ場合特ニ左地點上空ヲ飛行セザル如ク注意スベシ

(イ) 式場
(ロ) 御召艦
(ハ) 宮城ヨリ御召艦ニ至ル行幸路

右ノ場合ニ於ケル解列ハ無線ヲ以テ下令スルト共ニ指揮官小隊ノ一部ヲ反航セシメ綠色號星ヲ以テ表示ス



圖第十圖

機密特觀空命令第一號別圖第一

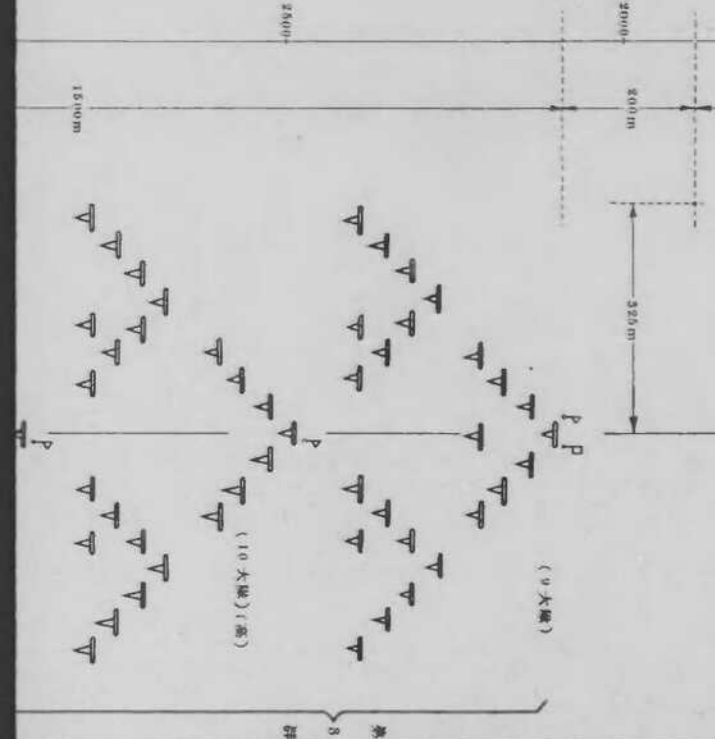
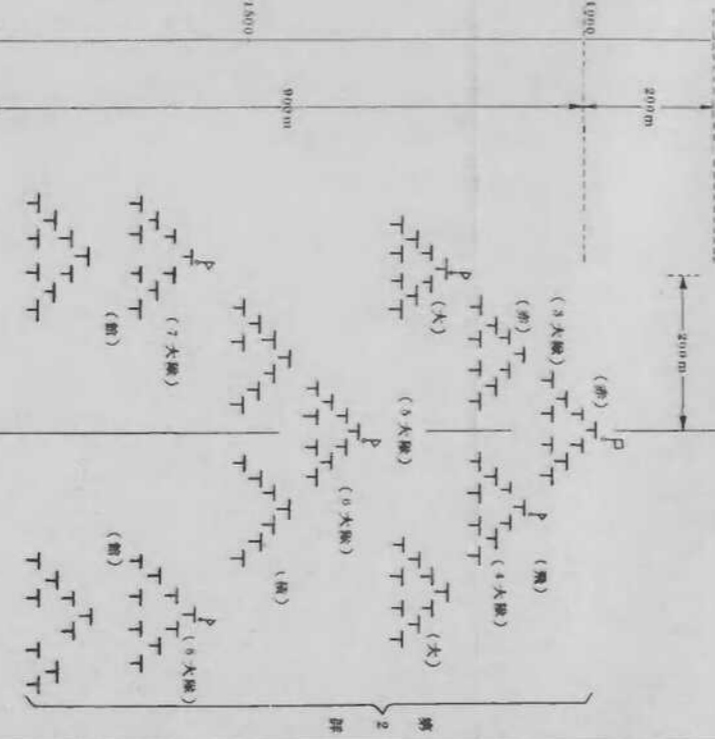
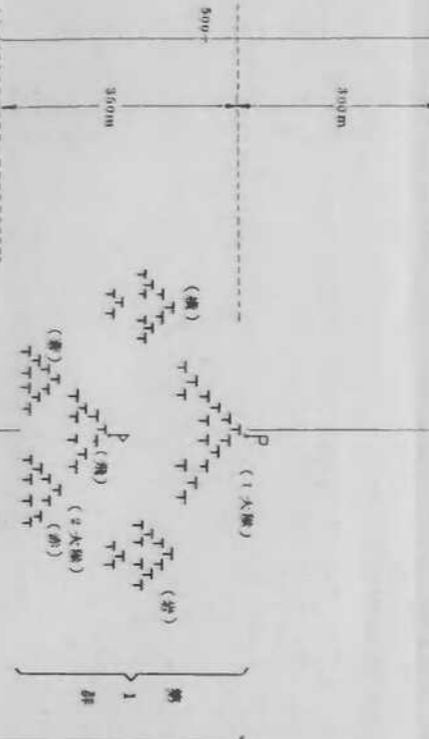
紀元二千六百年特別觀艦式空中分列式飛行機隊隊形序列圖



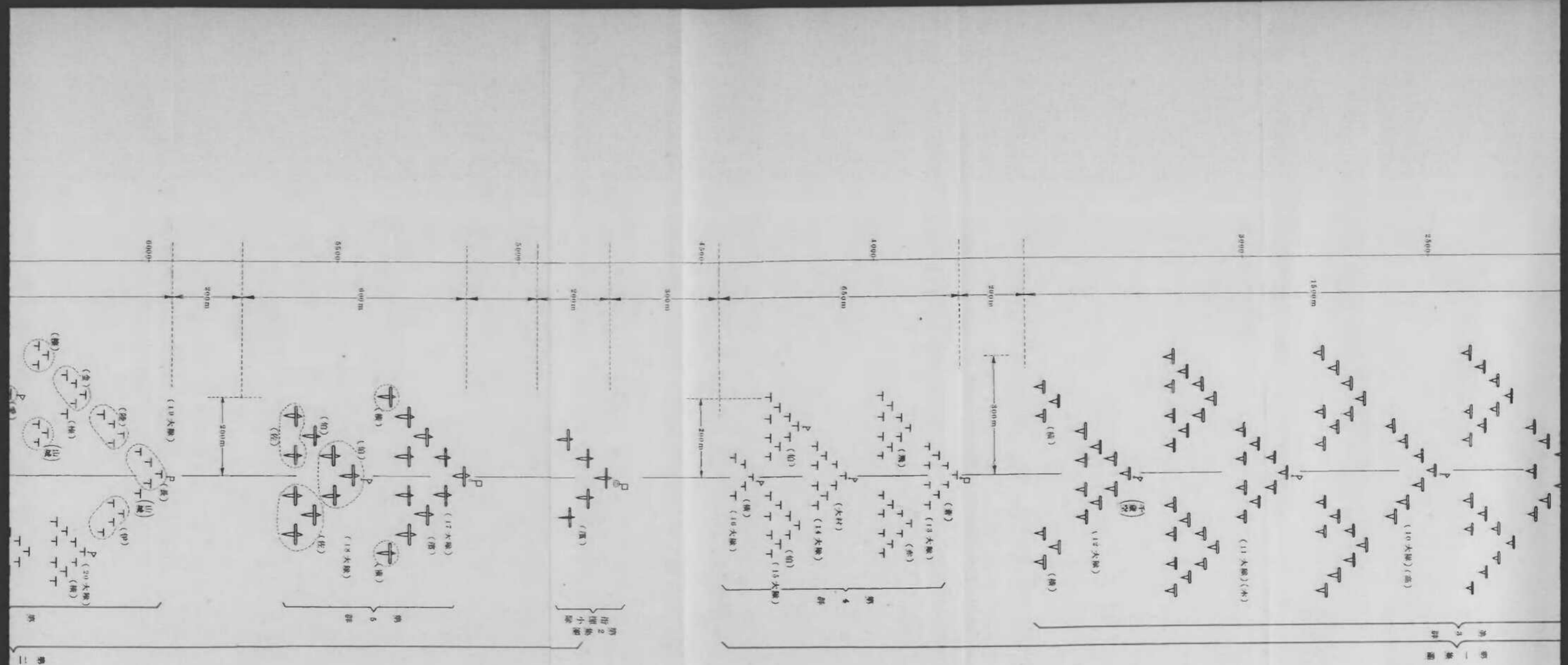
機隊間隔 300m
 隊間隔 200m
 機を顯示ノ道
 三機長以內成ルベシ要給隊形
 指揮小隊 基準速度力 180節 (針路 120 節)

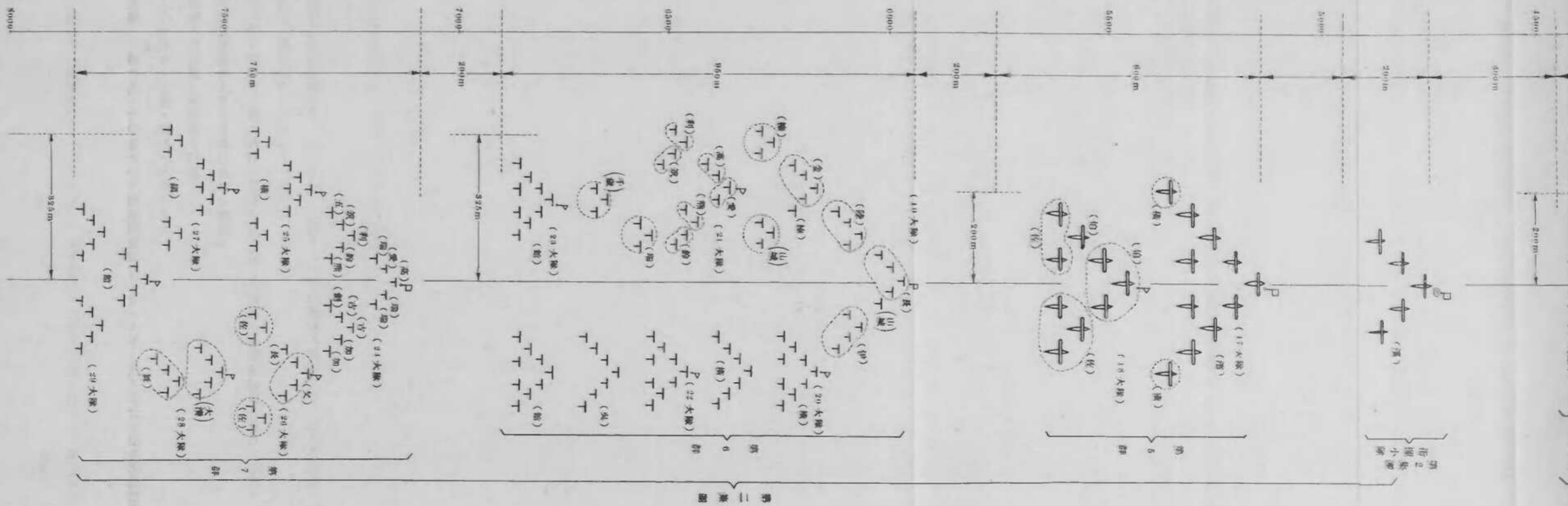
(機) (機)

空中分列式
指揮官小隊



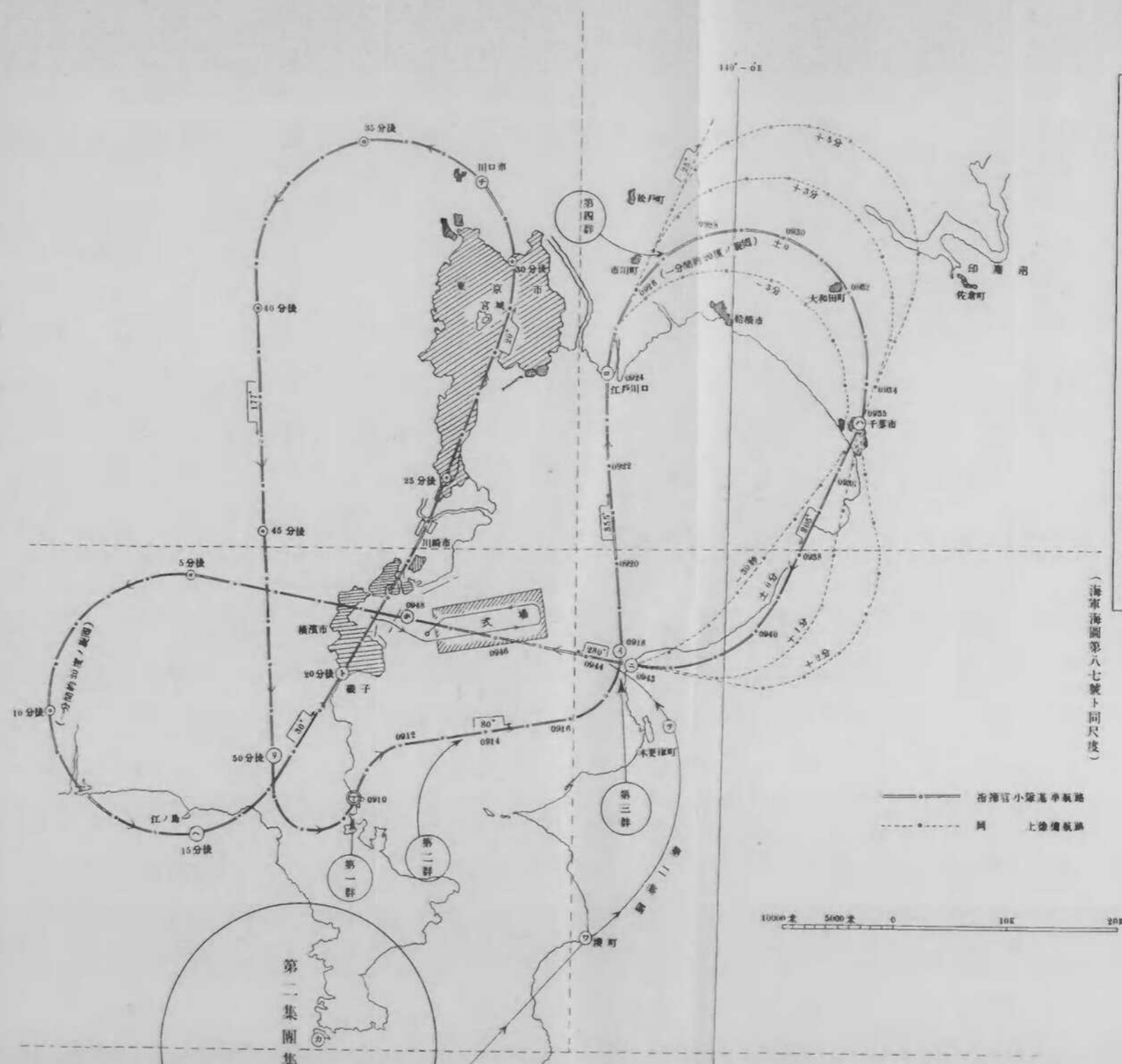
第一機隊





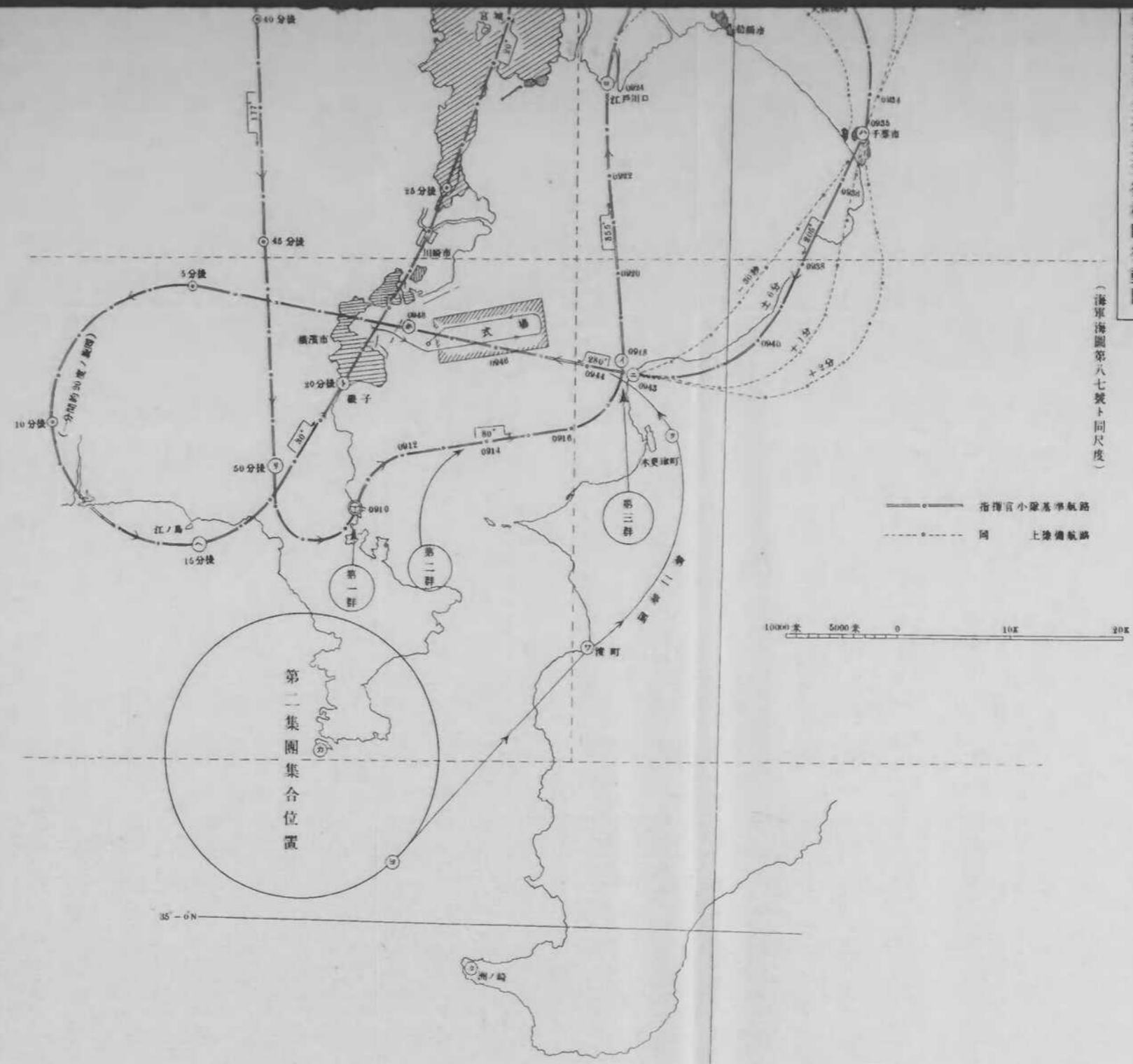
艦第十一圖 機密特観空命令第一號別圖第二

紀元二千六百年特別観艦式空中分列式飛行機隊行動圖



艦式空中分列式飛行機隊行動圖

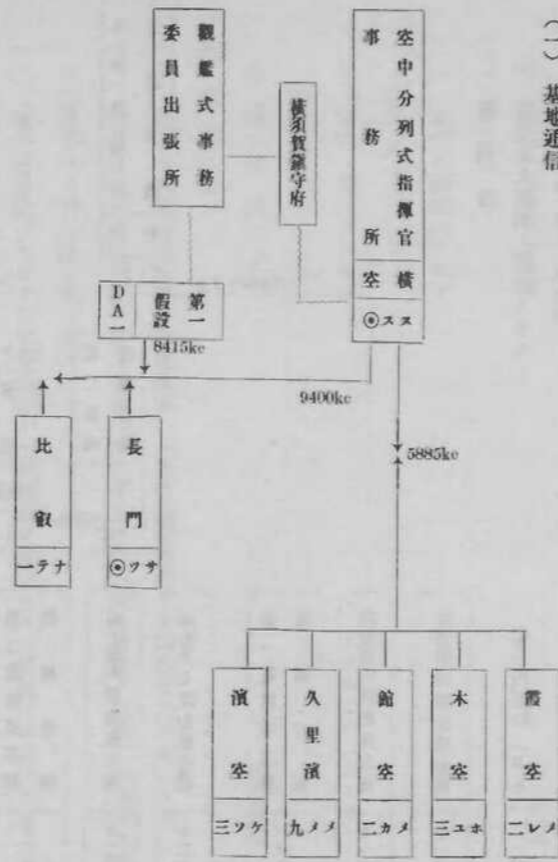
(海軍海圖第八七號上同尺度)



裏面白紙

五通 信

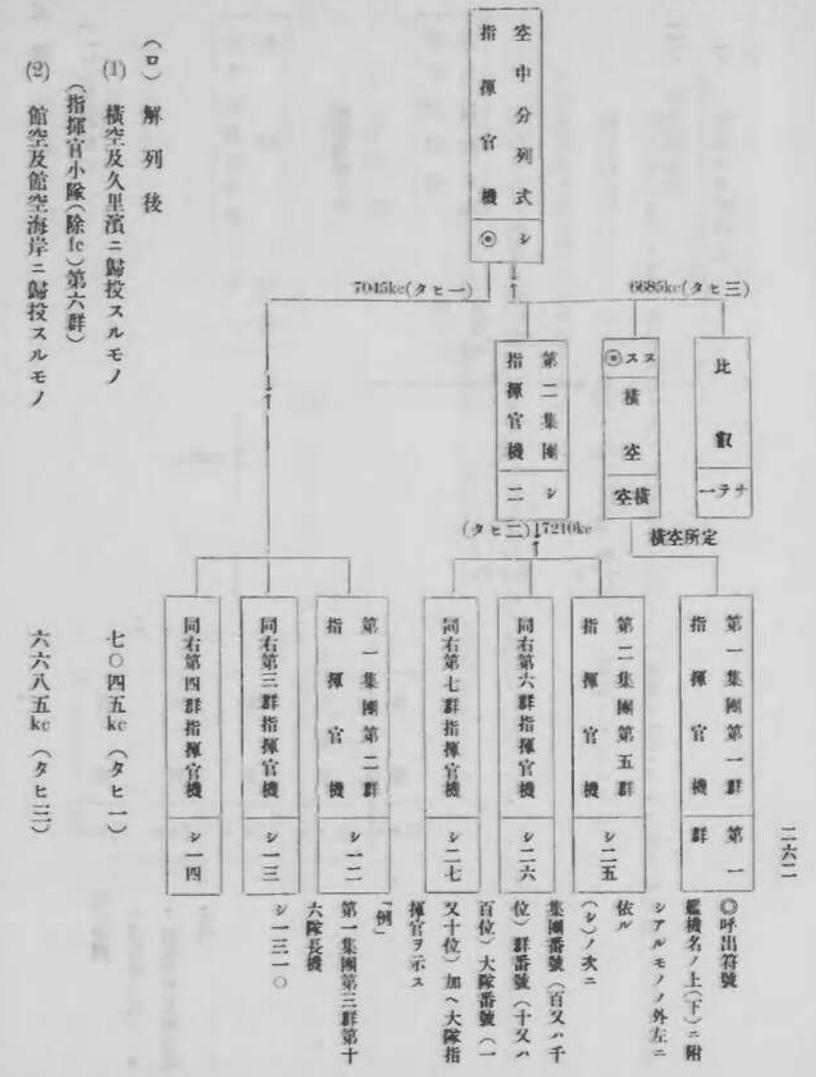
(一) 基地通信



通信時間
 十月八日〇八〇〇ヨ
 観艦式翌日正午迄
 常時

(二) 航空機通信

(イ) 發進ヨリ解列迄



- (ロ) 解列後
- (1) 横空及久里濱ニ歸投スルモノ
(指揮官小隊(除レ)第六群)
- (2) 館空及館空海岸ニ歸投スルモノ

七〇四五kc (タヒ一)
六六八五kc (タヒ三)

- (第二群第七群)
(3) 濱空ニ歸投スルモノ
(第五群)
(4) 木空ニ歸投スルモノ
(第三群)
(5) 露空ニ歸投スルモノ
(第四群)
(6) 戦闘機

七二一〇kc (タヒ二)
六八六五kc (タヒ四)

(三) 通信法

- (イ) 發進ヨリ解列迄各機(除戦闘機)ハ所屬集團電波ヲ常時待受スルモノトス
- (ロ) 空中分列式指揮官機、第二集團指揮官機及横空ハ飛行機隊ノ行動ニ必要ナル通信ハ各所定電波ヲ以テ所屬集團各群指揮官宛中繼スルモノトス
- (ハ) 航空機通信ハ止ムヲ得ザル場合ノ外群指揮官機以上ノミ實施スルモノトス
- (ニ) 發進後解列迄ノ間ニ於テ止ムヲ得ズ所屬基地ト通信スル必要ヲ生ジタル大隊指揮官機ハ當時ノ所屬集團使用電波ヲ以テ通信スルモノトス

横空所定

(一) 豫行訓練並ニ事前打合ニ關シ左ノ通定ム

(イ) 第一回事前打合せ

十月九日十一時ヨリ横空ニ於テ開催

參集者 空中分列式指揮官及同僚僚、觀艦式事務委員、大隊長以上各指揮官、各基地長、赤城通信長、赤城主計長(第一回打合ノミ)

(ロ) 準備訓練

十月九日午後要スレバ各群指揮官ハ各群毎ニ編隊訓練ヲ實施スルコトヲ得

(ハ) 豫行

十月十日午前豫行ヲ實施ス

但シ觀艦式當日ヨリ總テ一時間遅レトシ横濱東京市街上空ノ飛行ヲ實施セズ
飛行機隊ハ比叡艦側通過後令ナクシテ解列スルモノトス

(ニ) 第二回事前打合せ

十月十日十四時ヨリ横空ニ於テ開催

參集者 第一回ニ同ジ但シ各基地長ノ參集ハ隨意トス

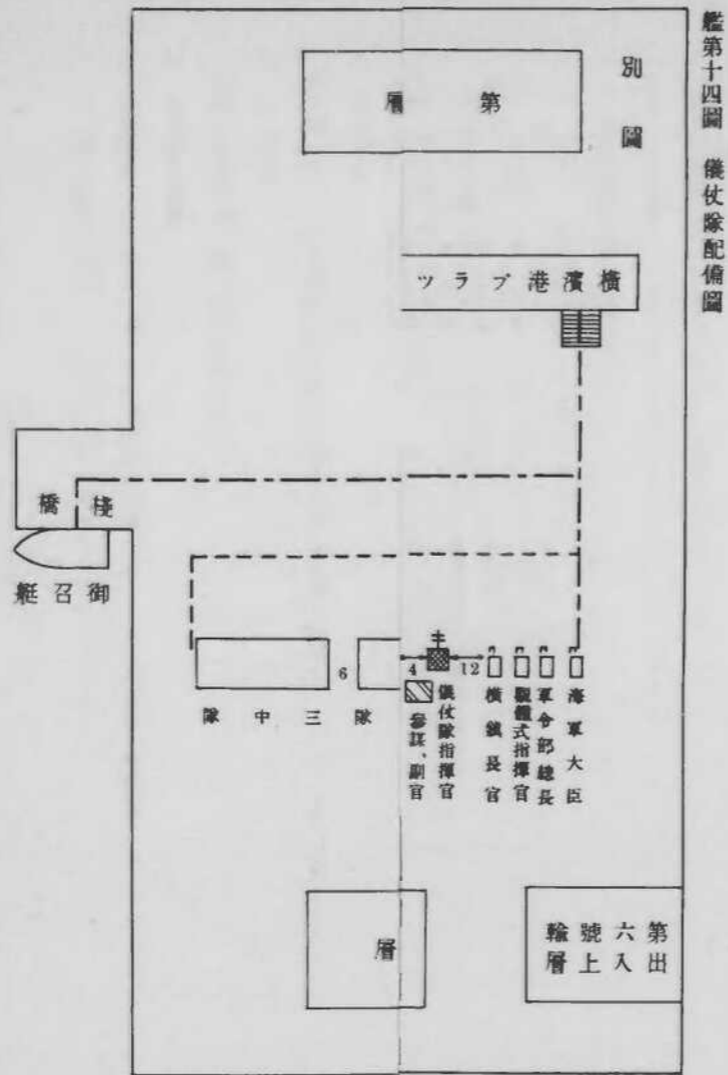
(二) 空中分列式指揮官事務所ヲ左ノ通設置ス

(イ) 期間 自十月九日十一時
至空中分列式終了時

(ロ) 場所 横須賀海軍航空隊内

空中分列式特定略語表

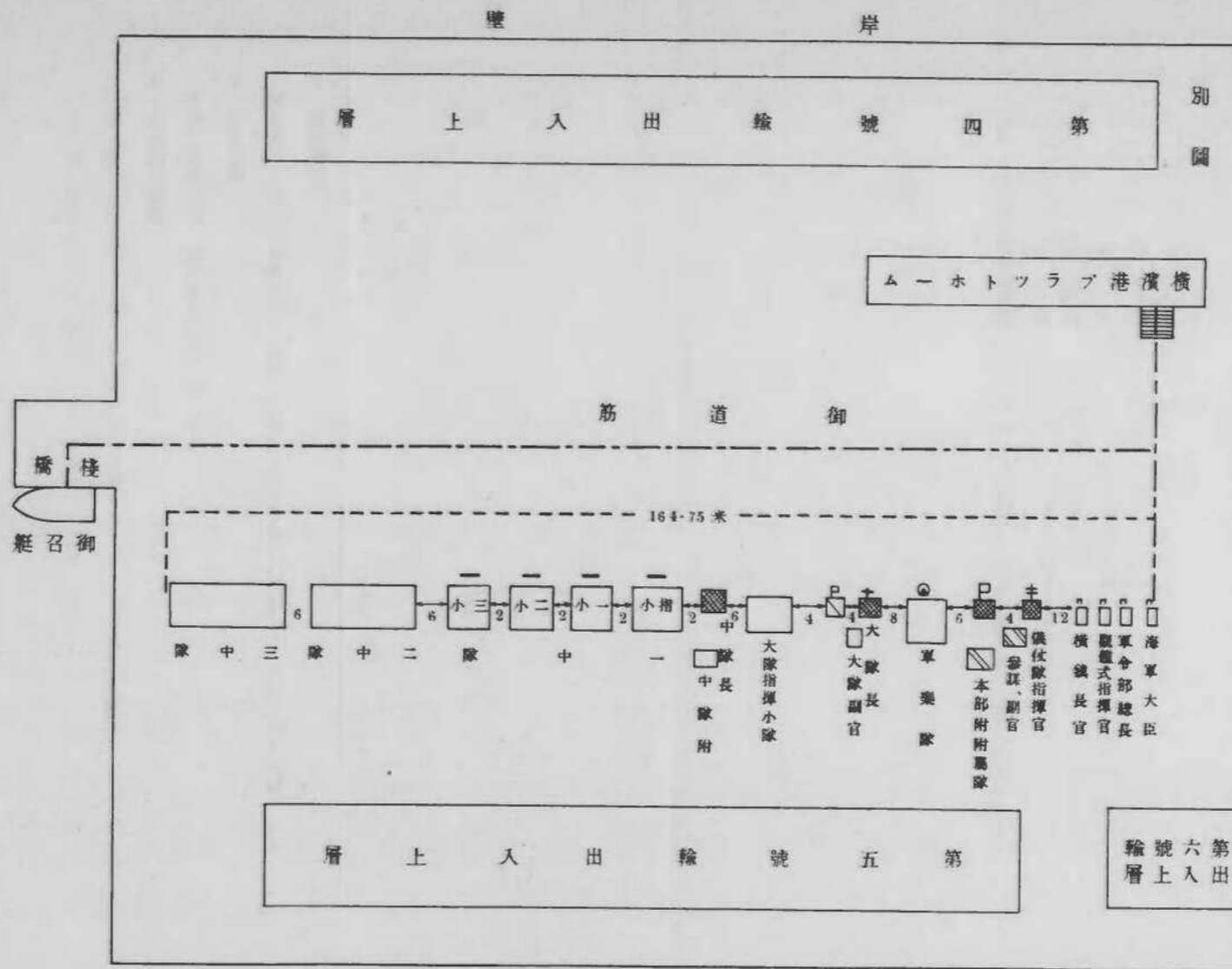
種別	信文	補足語	略語	例示	
行	我(○○)時 通過時ノ豫定 高度 ○○○度 計路 ○○○度 發令時刻 ○○○○	空中分列式 指揮官小隊 第二集團 指揮官小隊 第一、群 數字一、二、三、四	○分遅レ ……タク○(數字一字) ……分遅ミ ……スス○(數字一字) 左旋回中……ヒセ	〔例〕 空中分列式指揮官小隊ハ○九三五の點ヲ 通過ノ豫定 高度 五○○米 計路 二○○五度 發令時刻 ○九二四	我(○○)時 通過時ノ豫定 高度 ○○○度 計路 ○○○度 發令時刻 ○○○○
動	我(○○)時 豫定ヨリ(○分遅レ)ナリ 飛行高度○○百米計路○○○度 又ハ 〔右〕〔左〕旋回中 發令時刻○○○○	○分遅レ ……タク○(數字一字) ……分遅ミ ……スス○(數字一字) 右旋回中……ヒセ 左旋回中……ヒセ	〔例〕 第二集團ハ○九二○の點ヲ通過ス 豫定ヨリ二分遅ミナリ 飛行高度七○○米 左旋回中 發令時刻○九二二	我(○○)時 通過時ノ豫定 高度 ○○○度 計路 ○○○度 發令時刻 ○○○○	
通	我(○○)豫定進行動中 飛行高度○○百米 發令時刻○○○○	○分遅レ ……タク○(數字一字) ……分遅ミ ……スス○(數字一字) 右旋回中……ヒセ 左旋回中……ヒセ	〔例〕 クウヨククウヨク シキ、七、 ○九二六	我(○○)豫定進行動中 飛行高度○○百米 發令時刻○○○○	



- 二 儀仗隊ハ横濱港附近(別圖)ニ在リテ儀仗並ニ警衛ニ任ゼントス
- 三 儀仗衛兵ハ別ニ定ムル處ニ依リ特別任務配備ニ就クモノトス(艦第十四圖参照)
- 四 儀仗隊ノ編制
- 横濱日令第四四〇號ニ基キ別表ノ如ク定ム
- 五 集合出發
- 儀仗隊ハ十月十一日四時四十分横須賀驛前ニ集合本職ノ指揮下ニ入り令ニ依リ出發セシム
- 六 鐵道輸送

歸路	往路	發着時刻	記
横須賀	横濱	五・〇九	一 輪送指揮官ヲ大隊長ニ指定ス 二 乗車區分 副官ヲシテ示達セシム
横濱	横須賀	五・四五	
横須賀	横濱	一五・四三	
横須賀	横濱	一六・二三	

- 七 儀仗隊任務中ノ敬禮
別紙ノ如ク定ム
- 八 隊裝及携行品
- (一) 准士官以上
- 第一種軍裝 勳章記章全部佩用 長劍



艦第十四圖 儀仗隊配備圖

七 儀仗隊任務中ノ敬禮

別紙ノ如ク定ム

八 隊裝及携行品

(一) 准士官以上

第一種軍裝 勳章記章全部佩用 長劍

歸路	往路	發着時刻	記
横濱	横濱	五〇九	一 艦長指揮官ヲ大隊長ニ指定ス
横濱	横濱	五・四五	二 乗車區分
横濱	横濱	一五・四三	開官ヲシテ示建セシム
横濱	横濱	一六・二三	

裏面白紙

但シ軍醫科士官ハ醫療費ヲ携行ス

(二) 下士官兵

第一種軍裝 勳章記章全部佩用 小銃武裝 (脚絆ハ着用セズ)

(イ) 軍艦旗手、看護兵曹及主計兵曹ハ銃劍武裝トシ拳銃ヲ携行ス

但シ看護兵曹ハ二號藥籠ヲ携行ス

(ロ) 掌信號兵ハ銃劍武裝トシ喇叭ヲ携行ス

(三) 軍樂隊

右(一)(二)項ニ準ジ隊長ノ定ムル所ニ依ル

(四) 雨衣ノ携行ハ特令ニ依ル

(五) 辨當ハ各所轄毎ニ取纏メ當日九時迄ニ逸見上陸場ニ持參海兵團貨物自動車ニ搭載スベシ

九 歸 還

任務終了セバ令ニ依リ配備ヲ撤シ横須賀ニ歸還編制ヲ解キ解散ノ豫定

(別 表)

儀仗隊編制表

職名	官階	氏名	所轄	員數	備
指揮官	大佐	佐市 國	香取	1	軍艦旗手
參謀	少佐	山内 英一	香取	1	兵曹

衛 兵	隊 屬 附		隊											
	隊 計	主 隊	隊 務	隊 中			第 三				隊 中			
小 隊 長	指 揮 官	主 計 長	軍 醫 長	三 小 隊 長	二 小 隊 長	一 小 隊 長	指 揮 小 隊 長	中 隊 附 長	中 隊 長	三 小 隊 長	二 小 隊 長			
特 少 尉	少 佐	主 大 尉	醫 大 尉	少 尉	少 尉	空 曹 長	兵 曹 長	特 少 尉	大 尉	兵 曹 長	兵 曹 長			
黒 川 三 郎	竹 内 静 七	瀬 間 善 七	藤 永 正 元	中 馬 兼 四	佐 々 木 正 也	田 村 久 雄	遠 藤 觀 雄	七 戸 誠 助	香 野 明	小 和 田 清 藏	佐 藤 吉 吉			
横 岡	香 取	通 校	九 縣	九 縣	横 空	横 防	横 防	夕 張	工 校					
分隊下士官七	附	附	附	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	附 二	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官	分隊下士官 分隊下士官 分隊下士官
横 岡	瀧 守 府	香 取	横 空	伊 六 五	伊 五 五	伊 五 五	横 防	横 防	帆 風	潮 風	夕 張	龍 島	工 校	
列 兵	備 令			列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵
三 五	二			五 五	五 五	五 五	三 〇	一 〇	一 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇
横 岡				伊 六 五	伊 五 五	伊 五 五	横 防	横 防	帆 風	潮 風	夕 張	龍 島	工 校	

大										部 本 隊 大			附 部 本 隊 大		
二 第		隊 中 一 第			部 本 隊 大		附 部 本 隊 大		附 部 本 隊 大		附 部 本 隊 大		附 部 本 隊 大		
一 小 隊 長	指 揮 小 隊 長	中 隊 附 長	中 隊 長	三 小 隊 長	二 小 隊 長	一 小 隊 長	指 揮 小 隊 長	中 隊 附 長	中 隊 長	指 揮 小 隊 長	大 隊 副 官	大 隊 長	軍 醫 長	指 揮 官 附 官	參 謀 少 佐
特 少 尉	兵 曹 長	特 少 尉	大 尉	兵 曹 長	兵 曹 長	兵 曹 長	兵 曹 長	特 少 尉	大 尉	兵 曹 長	兵 曹 長	兵 曹 長	特 少 尉	特 中 尉	大 尉
竹 内 治 道	飯 島 朝 則	尾 形 隆 次 郎	藤 田 洋	齊 藤 一 衛	田 中 清 藏	大 下 道	有 賀 四 一	河 合 磯 次	今 井 信 彦	川 上 晶 之	森 本 秀 雄	小 木 曾 憲 三	藤 田 春 平	藤 引 哲 三 郎	山 田 登 滋
横 岡	水 校	通 校	航 校	砲 校	香 取	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡
分隊下士官二	分隊下士官二	分隊下士官三	附 二	分隊下士官四	分隊下士官四	分隊下士官四	附 二	分隊下士官三	分隊下士官三	分隊下士官三	分隊下士官三	分隊下士官三	附 部	附 部	附 部
横 岡	水 校	水 校	通 校	航 校	砲 校	香 取	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡
列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵	列 兵
二 〇	二 〇	三 〇	四 〇	四 〇	四 〇	三 〇	三 〇	三 〇	三 〇	三 〇	三 〇	三 〇	四 四	四 四	四 四
横 岡	水 校	水 校	通 校	航 校	砲 校	香 取	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡	横 岡

儀仗隊任務中ノ敬禮

- 一 御召列車見エ始メタル時
指揮官ハ喇叭ニテ「氣ヲ著ケ」ヲ令ス
大隊長ハ「著ケ劍」ヲ令ス
執銃ノ下士官兵ハ著劍ス
- 二 御召列車停止セントスル時大隊長ハ「捧グ」ノ豫令ヲ下ス
天皇陛下御降車「ブラットホーム」ニ玉歩ヲ進マセラレタルトキ指揮官ハ「敬禮」ト令スコノトキ大隊長ハ「一ノ銃」ノ勅令ヲ下ス抜劍中ノ部隊長ハ長劍ノ敬禮其ノ他ノ准士官以上ハ舉手ノ敬禮執銃ノ下士官兵ハ捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ下士官兵ハ不動ノ姿勢ノ儘何レモ「頭右」目迎目送ヲナス
軍樂隊ハ「君か代」ヲ吹奏ス
- 三 天皇陛下御召艇ニ乗御アラセラレタルトキ 大隊長ハ「立テ銃」ヲ令ス各員ハ不動ノ姿勢ニ復シ御召艇御出發迄現位置ヲ保ツ
- 四 天皇陛下御召棧橋御上陸ノ場合
(一) 御召艇御召棧橋ニ達著セントスルトキ
指揮官ハ喇叭ニテ「氣ヲ著ケ」ヲ令スコノトキ大隊長ハ「著ケ劍」ヲ令ス執銃ノ下士官兵ハ著劍ス

(二) 天皇陛下御召艇ヨリ棧橋ニ進マセ給フトキ

- 大隊長ハ「捧ケ」ノ豫令ヲ下ス
天皇陛下棧橋ヨリ岸壁ニ玉歩ヲ進マセラレタルトキ
指揮官ハ「敬禮」ト令スコノトキ大隊長ハ「一ノ銃」ノ勅令ヲ下ス抜劍中ノ部隊長ハ長劍ノ敬禮其ノ他ノ准士官以上ハ舉手ノ敬禮執銃ノ下士官兵ハ捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ下士官兵ハ不動ノ姿勢ノ儘何レモ「頭左」目迎目送ヲナス
軍樂隊ハ「君か代」ヲ吹奏ス
- 五 天皇陛下御召列車ニ御乗車御發車ノ場合
大隊長ハ 天皇陛下御召列車ニ乗御ヲ見テ「立テ銃」ヲ令ス
各員ハ不動ノ姿勢ニ復シ御召列車御發車マデ現位置ヲ保ツ

儀仗隊第二號

昭和十五年十月五日

儀仗隊指揮官 市 岡 齊

儀仗隊指揮官口達覺書

- 一 光輝アル紀元二千六百年特別觀艦式舉行セララルニ當リ各員ハ特ニ選ハレテ儀仗隊ノ任務ニ服スルコトト

ナレリ此ノ光榮ト重責トヲ有スルコトヲ銘記シ特ニ軍紀嚴正ニシテ一舉手一投足ノ微ト雖モ之ヲ忽ニセズ整齊タル軍容ヲ保持スルヲ要ス

二 儀仗隊ハ儀禮ノ外御警衛ノ任務ヲ有スルヲ以テ萬一不敬不聽ノ行動ニ出デントスル者ヲ發見セバ躊躇スルコトナク之ヲ逮捕シ適宜後方ニ拉致シテ憲兵又ハ警察官ニ引渡スベシ而モ儀式ノ威容ヲ損セズ周圍ニ動搖ヲ及セシメザル様充分ナル胸算ヲ樹テ置クヲ要ス

三 隊装ニ關シ左記ニ注意スルヲ要ス

- (一) 身體ヲ清潔ニシ頭髮鬚髯及手指ノ手入ヲ充分ニスルコト
 - (二) 服裝ハ各自所持ノ最良ノモノヲ着用スルコト
 - (三) 下士官兵ノ靴下ハ白色靴紐ハ正規ノモノヲ使用シ靴ハ良ク手入ヲナシ置クコト
 - (四) 兵ハ夏襦袢ヲ着用スルコト
 - (五) 下士官兵ハ腕時計ヲ誤メザルコト又兵ハ革帶ヲ使用セザルコト
 - (六) 小銃銃劍彈藥盒及喇叭ハ各所轄ニ於テ最上ノモノヲ充分手入シ携行スルコト
 - (七) 勳章記章等ハ落下セザル様相當ノ保護ヲナシ置クコト
 - (八) 銃劍ハ豫メ著脱ヲ試シ置クコト
 - (九) 准士官以上ハ必ず長劍ノコト(軍刀ニ非ズ)
- 四 整列ニ關シ左記ニ注意スルヲ要ス

- (一) 御迎ノ際ノ隊形ハ圖示ノ外現地ニテ指示ス(赤符ヲ附シアリ)
 - (二) 還幸ノ場合ハ左先頭ノ隊形トナルモノトス
 - (三) 各小隊ハ身幹順序ニ編成スルコト
 - (四) 指揮小隊ハ三列其ノ他ノ小隊ハ四列トス
 - (五) 列兵ノ彈藥盒ノ線棒銃ノ際ノ兩手ノ線及劍尖ノ線ハ整齊ナラシムルコト
- 五 敬禮ニ關シ左記ニ注意スルヲ要ス

- (一) 「棒ゲ銃」ノ令ニ依ル銃ノ操作及目迎目送ハ整齊確實ナルコト特ニ眼ノ玉ノミ動カス事ナク頭ヲ正シク四十五度向ケルコト
- (二) 准士官以上ノ劍ノ保持法並ニ長劍ノ敬禮ハ整齊ナルコト

六 雜 件

- (一) 解散休憩及晝食ニ關シテハ現地ニ於テ指示ス
- (二) 電車ニ乗降ノ際ハG一聲ヲ以テ令ス
- (三) 横濱驛ヨリ横濱港驛迄ハ通常行軍トス
- (四) 十月九日九時三十分ヨリ香取ニ於テ打合會ヲ行フ
- (五) 十月九日(豫備十日)十三時三十分ヨリ横須賀海兵團練兵場ニ於テ立付豫行ヲ行フ

第二項 式

紀元二千六百年特別觀艦式ニ於テハ、海軍禮式令ノ規定ニ基キ各艦御次第書及同細目ノ定ムルトコロニ依リ皇
禮砲ヲ行フモ、此ノ例ニ拘ラズ參列艦中駒橋・勝力・八重山・蒼鷹ハ皇禮砲ヲ行ハザルコトセラレ、十月四日觀
艦式事務委員長ヨリ觀艦式參謀長宛通牒セリ。尙ホ本觀艦式ニ於テハ參加艦船ノ電燈艦飾ハ之ヲ行ハザルコトト
定メラレ九月十七日觀艦式事務委員長ヨリ第一・第二・第四艦隊參謀長・各鎮守府參謀長宛通牒セリ。而シテ觀艦
式參加艦船ニシテ横濱沖ニ在泊スルモノハ十月九日・十日兩夜探照燈照射教練ヲ行フコトセラレ、十月五日海
軍省軍務局長ヨリ關係部隊參謀長宛令達セラレタリ。

第十節 式場設備

紀元二千六百年特別觀艦式式場諸設備ニ關シテハ十月一日海軍大臣ヨリ横須賀鎮守府司令長官ニ訓令シ、十月
十一日横濱沖ニ於テ御舉行アラセラルベキ紀元二千六百年特別觀艦式ノ式場設備其ノ他ニ關シテハ特別觀艦式事
務委員長ト協議シ左記要箇及別添圖面ニ依リ實施方取計フベキ旨令達シ、本件ヲ水路部長ニ參考送付セリ。

紀元二千六百年特別觀艦式式場計畫設備要箇

- 一 列番號ヲ南方ヨリ順次北方ニ呼稱ス但シ最南方列ハ之ヲ番外列トス
- 二 各列ノ列線方位ヲ七七度二五七度トス
- 三 第五列ヲ各列ノ基準トシ横濱東水堤端燈臺ヲ通ズル七七度線トス

四 各列ノ間隔ヲ左ノ通定ム

(イ) 第一列第二列間 第三列第四列間

八〇〇米

(ロ) 右 以外

七〇〇米

五 第五列西端艦ノ位置ヲ東水堤端燈臺ノ七七度四九〇〇米トシ各列ノ西端艦ノ位置ハ此ノ點ヲ通ズル一六七
度線上トス

六 御召艦ノ位置ヲ第二列ノ西方延長線上同列西端艦ヨリ一〇〇〇米トシ供奉艦列線方位ヲ御召艦ノ三四七度
一六七度トス

七 各艦距離ヲ左ノ通定ム

(イ) 戰艦 航空母艦

七〇〇米

(ロ) 一等巡洋艦 瑞穂、千歲、千代田、攝津

六〇〇米

(ハ) 前二項以外ノ軍艦(蒼鷹ヲ除ク)及番外列艦船

五〇〇米

(ニ) 蒼鷹及ニ半風型以外ノ驅逐艦

四〇〇米

(ホ) 半風型驅逐艦、潛水艦、掃海艇

三〇〇米

(ヘ) 右各項間ノ艦船間距離ハ其ノ大ナルモノニ從フモノトス

但シ條名、熊野間

六〇〇米

日向、沖島間

六〇〇米

(ト) 海底電線附近各艦船間ハ左ノ通定ム

瑞穂、五十鈴間

八〇〇米

山城、攝津間

八〇〇米

千代田、伊十六間

六五〇米

神風、沼風間

四〇〇米

八 各列(番外列ヲ除ク)ノ西方延長線上各列西端艦ヨリ四〇〇米ニ目標トナルベキ大型浮標ヲ設置ス、該浮標識別旗ハ其ノ列ノ番號ト同一ノ數字號旗トス

九 觀艦式式場東方境界線ト各列(番外列ヲ除ク)ノ東方延長線トノ交點ヨリ一六七度五〇米ニ前號ト同一ノ設備ヲ行フ

十 御召艦供奉艦並ニ番外列ノ各艦船位置ニ位置浮標ヲ設置ス

十一 左記各艦船首位置ヨリ一六七度五〇米ニ位置浮標ヲ設置ス

各艦艦 單獨軍艦 司令驅逐艦 司令潜水艦 司令掃海艇 沖風 伊八 伊十五 掃五
十二 前二項ノ位置浮標ニ附スベキ旗ノ色別左ノ如シ

御召艦列

御召艦

(赤)

第二艦隊旗艦

(白)

第六戰隊旗艦

(青)

第六戰隊二番艦

(黃)

第一列

第一航空戰隊旗艦

(赤)

第二航空戰隊旗艦

(白)

瑞 穂

第十二潜水隊司令潜水艦

(赤白)

第三潜水戰隊旗艦

(黃)

第十一潜水隊司令潜水艦

(赤)

第二十潜水隊司令潜水艦

(青赤)

第四潜水戰隊旗艦

(青)

伊八潜水艦

(白)

第三十潜水隊司令潜水艦

(赤白)

第十八潜水隊司令潜水艦

(黃)

第二列

聯合艦隊旗艦

(赤)

沖 風

(青赤)

第一水雷戰隊旗艦

(青)

攝 津

(白)

第四水雷戰隊旗艦

(赤白)

第二驅逐隊司令驅逐艦

(黃)

第十一驅逐隊司令驅逐艦

(赤)

第十九驅逐隊司令驅逐艦

(青赤)

第三列

第三戰隊旗艦

(赤)

第七戰隊旗艦

(白)

第八戰隊旗艦

(青)

第二水雷戰隊旗艦

(黃)

第八驅逐隊司令驅逐艦

(赤白)

第十八驅逐隊司令驅逐艦

(青赤)

第十六驅逐隊司令驅逐艦

(赤)

第四列

- 第四艦隊旗艦 (赤)
- 千代田 (青)
- 第九潜水隊司令潜水艦 (赤白)
- 第十三潜水隊司令潜水艦 (赤)
- 第五列 (赤)
- 日向 (赤)
- 天龍 (青)
- 蒼鷹 (赤白)
- 伊十五 (赤)
- 第一掃海隊司令掃海艇 (青)
- 番外列
- 西方ヨリ順次ニ母字號旗
- 十三 軍艦及攝津ハ双鏡泊トス 但シ御召艦及供奉艦ハ單鏡泊トス
- 驅逐艦、潜水艦、掃海艇及番外列ノ艦船ハ單鏡泊トス
- 十四 式場區域ヲ左記各點ヲ連結スル線内トス
- (イ) 第一列西端艦ヨリ二四八度一五〇〇米
- (ロ) (イ)ヨリ三四七度三五五〇米
- (ハ) (ロ)ヨリ七七七度一二〇〇〇米
- (ニ) (ハ)ヨリ一六七度四三五〇米
- (ホ) (ニ)ヨリ二五七度一一二八〇米
- 十五 式場外周角點ニハ燈質閃白光ノ赤塗柱燈浮標ヲ設置ス
- 西端三箇ハ每三秒ニ一閃 東端二箇ハ每五秒ニ一閃
- (別圖略)

- 第十八戰隊旗艦 (白)
- 第五潜水戰隊旗艦 (黃)
- 第二十一潜水隊司令潜水艦 (青赤)
- 第三十驅逐隊司令驅逐艦 (白)
- 橫須賀防備戰隊旗艦 (白)
- 佐世保防備戰隊旗艦 (黃)
- 第一驅逐隊司令驅逐艦 (青赤)
- 第六潜水隊司令潜水艦 (白)
- 第五掃海艇 (黃)

- (ロ) (イ)ヨリ三四七度三五五〇米
- (ハ) (ロ)ヨリ七七七度一二〇〇〇米
- (ニ) (ハ)ヨリ一六七度四三五〇米
- (ホ) (ニ)ヨリ二五七度一一二八〇米
- 十五 式場外周角點ニハ燈質閃白光ノ赤塗柱燈浮標ヲ設置ス
- 西端三箇ハ每三秒ニ一閃 東端二箇ハ每五秒ニ一閃
- (別圖略)

第十一節 接 伴
第一項 招待

紀元二千六百年特別觀艦式ヲ拜觀スベキ者ハ之ヲ陪觀者及拜觀者ニ分チ、陪觀者ニ就テハ今回ハ時局柄賜饌ニ召サセラレザルコトト決定セラレタルモ、御晝餐ノ際一部ニ對シ御相伴仰付ケラルルコトトセラレタリ。右ニ依リ陪觀者ニ對シ賜饌ト大臣招待トヲ區別スルノ必要ナキニ至リタルモ、將來ノ事務參考上兩資格者ヲ區分シ置クヲ便ナリト認メタルヲ以テ、更ニ甲(舊賜饌資格者)陪觀者及乙(大臣招待者)陪觀者ニ分チ海軍大臣名ヲ以テ八千二百名ヲ招待スルコトトセリ。斯クテ拜觀者ヲ含メ凡ソ一萬五千三百九十二名ニ對シ、陪觀者又ハ拜觀者數章・陪觀者又ハ拜觀者事項並ニ圖面等ト共ニ乘艦船ヲ指定シテ九月中ニ夫々招待狀兼案内狀ノ發送ヲ完了セリ。

陪觀者中天皇陛下御晝餐ニ御相伴仰付ケラレタル者六百二十三名、其ノ他ノモノ七千五百七十七名ニシテ、拜觀者ハ辨當券附ノ者二千九百四十九名、普通券ノ者四千二百四十三名ナリ。尙ホ之方輪送ニハ特ニ専用列車又ハ特務艦ヲ供用セシムルコトトセリ。陪觀者乘退艦其ノ他ノ注意事項左ノ如シ。

陪觀者乘退艦其ノ他ニ關スル注意事項

一 乘艦ノ際

- (一) 乘艦(艇)ニ際シ識別ヲ容易ニスル爲別ニ封入セル徽章ヲ外部ヨリ見エ易キ様右胸附近ニ必ズ附著サレ度
 - (二) 岸壁又ハ特設棧橋附近ニハ陪觀者乘艦(艇)案内ノ爲海軍士官(赤地ニ白線一條ノ腕章ヲ附シアリ)ヲ配シアルニ付不審ノ點ハ右士官ニ尋ネラレ度
 - (三) 別表陪觀者専用列車時間表ニヨリ専用列車ヲ運轉セラルルニ付右指定艦(比叡、高雄、古鷹、加古)ニ乘艦ノ方ニシテ同列車乗車券購入券(觀艦式陪觀列車券)同封シアル向ハ之ニ依ラレ度(横濱驛、櫻木町驛ハ經由セズ)
 - (四) 横濱驛、櫻木町驛等ニテ下車シ指定艦ニ行カルル方ハ混雜防止、「タクシー」拂底ノ折柄之ガ利用殆ド見込ナキト交通遮斷ヲモ考慮サレ早目ニ乘艦(艇)サレ度(比叡、陸奥、長門、金剛、伊勢、榛名)行ノ汽艇ハ數隻準備シアリ豫定收容員數ニ達セバ逐次出發ス
- 御召艦(比叡)行ノ方へ

(イ) 午前八時二十分迄ニ横濱税關五號岸壁特設棧橋(案内圖参照)ニ準備シアル汽艇ニ乘艦サレ度

(ロ) 右汽艇ハ午前七時半頃ヨリ準備シアリ

○(高雄)行ノ方へ

(イ) 午前八時十分迄ニ横濱税關五號岸壁(案内圖参照)ニ於テ乘艦サレ度

(ロ) 午前七時半頃ヨリ乘艦準備ヲナシアリ

○(古鷹)行ノ方へ

(イ) 午前八時十分迄ニ横濱税關四號岸壁(案内圖参照)ニ於テ乘艦サレ度

(ロ) 午前七時半頃ヨリ乘艦準備ヲナシアリ

○(加古)行ノ方へ

(イ) 午前八時二十分迄ニ横濱税關七號岸壁(案内圖参照)ニ於テ乘艦サレ度

(ロ) 午前七時半頃ヨリ乘艦準備ヲナシアリ

○(陸奥)行ノ方へ

(イ) 午前八時迄ニ横濱税關五號岸壁特設棧橋(案内圖参照)ニ準備セル汽艇ニ乘艦サレ度

(ロ) 午前六時半頃ヨリ乘艦準備ヲナシアリ

○(長門)行ノ方へ

(イ) 午前八時迄ニ横濱税關西波止場(案内圖参照)ニ準備セル汽艇ニ乘艦サレ度

(ロ) 午前六時半頃ヨリ乗艇準備ヲナシアリ

○(金剛)行ノ方へ

(イ) 午前八時迄ニ山下公園特設棧橋(案内圖参照)ニ準備セル汽艇ニ乗艇サレ度

(ロ) 午前六時半頃ヨリ乗艇準備ヲナシアリ

○(伊勢)行ノ方へ

(イ) 午前八時迄ニ高島町浮棧橋(案内圖参照)ニ準備セル汽艇ニ乗艇サレ度

(ロ) 午前六時半頃ヨリ乗艇準備ヲナシアリ

○(榛名)行ノ方へ

(イ) 午前八時迄ニ鶴見特設棧橋(案内圖参照)ニ準備セル汽艇ニ乗艇サレ度

(ロ) 午前六時半頃ヨリ乗艇準備ヲナシアリ

二 乗艇中

(一) 乗艇中ノコトハ萬事接伴掛士官(赤地ニ白線一條ノ腕章ヲ附シアリ)ノ指示ニ依ラレ度

(二) 各艇ニハ「記念スタンプ」押捺ノ爲郵便吏員(逓信官吏ト記セル腕章ヲ附シアリ)出張シ郵便切手類

賣捌、「記念スタンプ」押捺通常郵便物引受ヲナスニ付利用サレ度

三 退艇ノ際

○御召艇(比叡)ノ方へ

(イ) 午後二時半迄ニ午前乘艇ノ際ト同ジ汽艇ヲ準備スルニ付皇族御退艇後直ニ接伴掛士官ノ指示ニ從ヒ乗艇サレ度

(ロ) 右汽艇ハ御召棧橋ニ達着ス

○(高雄)(古鷹)(加古)ノ方へ

御召艇出港後午前乘艇ノ際ト同ジ岸壁ニ横付ス

○(陸奥)(長門)(金剛)(伊勢)(榛名)ノ方へ

(イ) 御召艇出港(午後一時半頃)後汽艇ヲ準備スルニ付接伴掛士官ノ指示ニ從ヒ乗艇サレ度

(ロ) 右汽艇ハ午前乘艇ノ際ト同ジ棧橋ニ達着ス

四 觀艦式ハ晴雨ニ不拘行ハセラルベキ豫定ナルモ萬一強風雨等ノ爲御取止又ハ御延期ノ際ハ十月十一日午前

五時半頃東京中央放送局ヨリ其ノ旨放送スルト共ニ東京、横浜、横須賀方面ノ鐵道、電車ノ主要驛其ノ他ニ

掲示スルニ付注意アリ度

五 寫眞機ヲ艇内ニ携帯スルコトハ禁セラレアリ

六 混雜ノ爲携帯品ヲ置キ忘レタリ又ハ間違ヘタリスルコト從來屢、アリタルニ付成ルベク不用ノモノヲ携帯

セザル様特ニ注意アリ度

拜觀者ニ對シテハ辨當ヲ支給スル者ト之ヲ支給セザル者トニ依リ注意事項ヲ異ニセリ、其ノ事項及拜觀者搭載

艇船及搭載員數竝ニ發着場所左ノ如シ。

(イ) 拜観(辨當支給)ノ分

- 一 本券ハ一枚一人限リトシ記名者ノ外使用スルヲ得ズ
- 二 服装 男子ハ洋服又ハ羽織袴(履物ハ靴又ハ草履トシ艦内ニテ下駄ヲ用フルコトハ御断リス)婦人ハ之ニ相當スル便宜ノ服トス
- 混雜ヲ避クル爲杖靴等ハ成ル可ク携帯セザルコトニ致度
- 三 當日(時間記入シアリ)迄ニ(發着場所記入シアリ)ニ到リ本券ヲ接伴員ニ示シ其ノ指示ヲ受ケラレ度
歸着ハ午後(時間記入シアリ)ノ豫定(出發地ニ同ジ)
但シ天候不良ノ節ハ多少遅延スルコトアリ
- (接伴員ハ赤白縫合セノ布ヲ腕ニ巻キテ表章トス)
- 四 艦内ニテハ總テ掛員ノ指示ニ從ハレ度
- 五 老幼者ノ拜観ハ遠慮アリ度
- 六 腰掛ノ設備少ナキニツキ豫メ御含ミ置アリ度
- 七 艦内ニ簡單ナル書辨當及湯茶ノ用意ヲナシアルモ上陸時刻其ノ他ノ關係上水筒其ノ他適宜携帯セララル
ヲ便トス(拜観券ト引換ニ辨當
ヲ受取ルコトトス)
- 八 當日ハ晴雨ニ拘ラズ御舉行相成ルベキモ暴風雨等ノ爲萬一御延期又ハ御取止メノ場合ニハ當日早朝東京

横濱附近主要驛ニ其ノ旨掲示シ且東京中央放送局ヨリ其ノ旨放送ノ豫定(御延期ノ場合ハ其ノ際本券使用
ノコト)

九 寫眞機ノ携行ヲ禁ズ

(ロ) 拜観(普通)ノ分

- 一 本券ハ一枚一人限リトシ記名者ノ外使用スルヲ得ズ
- 二 服装 男子ハ洋服又ハ羽織袴(履物ハ靴又ハ草履トシ艦内ニ在リテ下駄ヲ用フルコトハ御断リス)
婦人ハ之ニ相當スル便宜ノ服トス
- 混雜ヲ避クル爲杖靴等ハ成ル可ク携帯セザルコトニ致度
- 三 當日午前(時間記入シアリ)迄ニ(發着場所記入シアリ)ニ到リ本券ヲ接伴員ニ示シ其ノ指示ニ依リ乗
艦セラレ度
- (艦名ヲ記入シアリ)ハ觀艦式參列後式場ヲ一巡後午後(時間記入シアリ)ニ歸着ス(出發地ニ同ジ)
但シ天候不良ノ節ハ多少遅延スルコトアリ
- (接伴員ハ赤白縫合セノ布ヲ腕ニ巻キテ表章トス)
- 四 艦内ニテハ總テ掛員ノ指示ニ從ハレ度
- 五 老幼者ノ拜観ハ遠慮アリ度
- 六 腰掛ノ設備少キニツキ豫メ御含ミ置アリ度

- 七 湯茶ノ用意ヲナシアルモ上陸時刻其ノ他ノ關係上辨當水筒其ノ他適宜携帯セラルルヲ便トス
- 八 當日ハ晴雨ニ拘ラズ御舉行相成ルベキモ暴風雨ノ爲萬一御延期又ハ御取止メノ場合ニハ當日早朝東京横濱附近主要驛ニ其ノ旨掲示シ且東京中央放送局ヨリ其ノ旨放送ノ豫定(御延期ノ場合ハ其ノ際本券使用ノコト)
- 九 寫眞機ノ携行ヲ禁ズ

拜觀者搭載員數及發着場所

船名	拜觀者搭載員數(約)	發着場所
明石	七〇〇	横濱 教團大禮堂 D
長崎	六〇〇	横濱 A
迅速	六〇〇	横濱 B
金龍丸	一、六〇〇	横濱 C
間宮丸	一、五〇〇	横濱 (逸見上陸場)
朝光丸	一、二〇〇	横濱 芝浦町繁華遊覽
早稲	七〇〇	東京
灰矢	七〇〇	東京
總計	七、六〇〇	

特別觀艦式ニハ又特ニ船舶ノ式場參列及拜觀ヲ許可セルモノアリ、之等船舶ニハ拜觀者ヲ乗船セシムルヲ以テ

之ニ對シテハ種々便宜ヲ與フルト共ニ或ハ士官ヲ搭乘セシメ或ハ心得ヲ令達スル等監督ヲ嚴ニセリ。一般船舶拜觀心得左ノ如シ。

紀元二千六百年特別觀艦式拜觀船舶心得

- 一 拜觀船舶ニシテ式場内ニ碇泊ヲ許可セラルルハ觀艦式事務委員長ノ特許ヲ受ケタルモノニ限ル
 - 二 觀艦式當日特許拜觀船舶ノ碇泊場ハ式場内番外列トシ其ノ碇地ハ觀艦式事務委員長ノ指定スル所ニ依ル
 - 三 特許拜觀船舶ノ式場内及式場附近ニ於ケル進退ニ關シテハ觀艦式指揮官ノ指示ヲ受ケタルモノトス
 - 四 特許拜觀船舶ハ觀艦式當日式場南方ヨリ進入シ午前八時三十分迄ニ指定碇地ニ就クモノトス
 - 五 特許拜觀船舶指定碇地ニ進ムニハ必ズ式場ノ外方ヲ通航スルモノトス
 - 六 觀艦式當日午前九時二十分ヨリ還幸迄ノ間ハ特許拜觀船舶ニ汽艇、發動機艇又ハ通船等ノ發着スルヲ許サズ
 - 七 特許拜觀船舶ハ還幸後拜觀者搭乘ノ海軍艦船ニ次テ碇地番號ノ順序ニ從ヒ逐次式場ノ列間航過ヲ許可ス但シ豫メ列間航過ヲ許可セラレタルモノニ限ル
 - 其ノ發時動機ヲ示ス爲觀艦式指揮官ノ乘艦(長門)ニ左ノ信號ヲ掲揚ス
- 標 信 P
- 八 特許拜觀船舶前號ノ信號ヲ認メタルトキハ直ニ同一信號ヲ掲揚シ觀艦式指揮官ノ乘艦ニ倣ヒ之ヲ降下シ逐次碇地番號ノ守則ヲ遵守シテ附圖圖示ノ如ク航進シ拜觀ヲ終ラバ遲滞ナク式場ヨリ退去スルモノトス

九 特許拜觀船舶航行中ノ守則

- イ 航行中ハ他船ヲ追越シ又ハ前後ヲ爭フ等ノコトアルベカラズ
- ロ 航行中ハ見張ヲ嚴ニシ衝突及其ノ他ノ危険ヲ防止スル爲一切ノ手段ヲ講ズベシ
- ハ 式場内及式場附近ニ在リテハ速力ヲ八節トス
- 十 列間ヲ航過セザル特許拜觀船舶ハ九號ニ依ル船舶發航後便宜式場及其ノ附近ヨリ退去スルモノトス
- 十一 當日式場内指定鋪地ニアル特許拜觀船舶ハ軍艦ニ倣ヒ滿船飾ヲ爲スモノトス
- 十二 特許拜觀船舶ハ煤煙ノ噴出ヲ少カラシムル爲成ルベク良質ノ石炭ヲ使用シ且觀艦式御親閲中ハ焚火ヲ差控フルモノトス
- 十三 特許拜觀船舶ニシテ本心得ヲ遵守セザルカ又ハ不都合不禮貌ノコトアルトキハ退去ヲ命ズルコトアルベシ
- 尙奏樂及發聲等ハ之ヲ行ハザルモノトス
- 十四 特許拜觀船舶ニハ時宜ニ依リ監督將校ヲ配乘セシムルコトアルベシ

紀元二千六百年特別觀艦式ニ外國武官ヲ招待スルコトニ關シテハ種々ノ事情ヲ考慮シ左記ニ依ルコトトシ、十月七日海軍大臣ノ決議ヲ經タリ。

一 招待者

海軍大臣

二 被招待者

(イ) 獨逸

- 海軍武官 ヲエネケル少將
- 海軍輔佐官 ヲイーガント大尉
- 同 ベルシュテット大尉
- 空軍武官 フンダローナウ大佐
- 空軍輔佐官 ネーミッツ機關中佐
- (ロ) 伊太利
- 海軍武官 プレラリ大佐
- 空軍武官 ブルチッチ大佐
- 空軍輔佐官 フェデリーチ少佐
- (ハ) 滿洲國
- 陸軍武官 李文龍少將
- 陸軍輔佐官 金玉珙中佐

三 招待艦

軍艦 金剛

四 接伴員

岡少將 小島大佐 藤原大佐 花岡少佐 入江少佐

五 接伴員行動ノ大要

接伴員ハ當日東京驛(婁スレバ品川驛)ニ於テ外國武官ヲ待合セ第三専用列車(七・一〇東京驛發七・二〇品川驛發七・五五横濱港著)ニテ横濱港驛著四號岸壁新設棧橋ヨリ金剛ニ至リ觀艦式ヲ拜觀ス

正午頃同艦ニ於テ大臣ヨリ午餐ヲ供ス

觀艦式終了後(一四・二〇頃)艦發新設棧橋ヨリ上陸一五・一五ノ専用列車ニ乘車歸京ス

(說明)

(一) 獨・伊兩國海軍ハ帝國武官ノ進水式・軍港見學・艦隊見學等ノ際我ニ對シ特別ノ便宜ヲ供シツツアリ又滿洲國ハ日滿議定書ニ依リ日本ト一體不可分ノ關係ニ在リ

(二) 英・米ハ我ガ武官ノ視察見學ノ際明ニ差別待遇ヲ爲シツツアリ

右ノ情況ニ鑑ミ此ノ際獨・伊・滿三國海軍關係武官ヲ觀艦式ニ招待スルコトトス

第二項 接伴事務

紀元二千六百年特別觀艦式ノ際ニ於ケル接伴ニ關スル諸掛員ハ十月一日海軍大臣ヨリ左ノ如ク定メラレ、其ノ服務ニ關シテハ紀元二千六百年特別觀艦式指揮官並ニ紀元二千六百年特別觀艦式事務委員長ノ指揮ヲ受クルコト

トセラレタリ。
皇族 掛

海軍中佐	浦 孝 一
同	上 田 光 治
同	佐 佐 木 高 信
同	長 屋 茂
同	永 井 太 郎
同	高 馬 正 義
同	古 川 文 次
同	柴 北 明
同	藤 尾 勝 夫
同	土 井 美 二
同	岡 部 三 四 二
同	近 藤 一 聲
海軍少佐	小 手 川 邦 彦
同	塚 田 收

比叡ニ於ケル接伴掛

同 和 智 恒 藏
同 小 柴 直 貞

海軍中佐 龜 山 峯 五 郎 (比叡)

海軍少佐 鈴 木 英 (大校)

海軍機關少佐 浦 田 喜 富 (大校)

海軍主計少佐 中 村 春 男 (經校)

(外ニ觀艦式事務委員 五名 比叡士官 十名)

高雄ニ於ケル接伴掛

海軍中佐 大 家 吾 一 (高雄)

海軍少佐 井 上 三 郎 (大校)

海軍機關大尉 岩 部 六 郎 (大校)

海軍主計少佐 小 林 英 夫 (經校)

(外ニ高雄士官 十名)

海軍中佐 加 賀 山 外 雄 (加古)

加古ニ於ケル接伴掛

古鷹ニ於ケル接伴掛

海軍少佐 黒 木 政 吉 (大校)

海軍機關大尉 木 下 定 輔 (大校)

海軍主計少佐 池 端 鐵 二 (經校)

(外ニ加古士官 八名)

海軍中佐 篠 治 夫 (古鷹)

海軍少佐 大 槻 俊 一 (大校)

海軍機關大尉 石 坂 治 吉 (大校)

海軍主計少佐 瀧 本 義 推 (經校)

(外ニ古鷹士官 八名)

長門ニ於ケル接伴掛

海軍中佐 川 井 繁 藏 (長門)

海軍少佐 内 田 友 志 (大校)

同 八 塚 清 (大校)

海軍機關大尉 奥 倉 三 四 三 (大校)

海軍主計少佐 万 袋 潔 (經校)

陸奥ニ於ケル接伴掛

(外ニ長門士官 十名)

海軍中佐	高	田	榮	(陸奥)	
海軍少佐	吉	富	茂	馬	(大校)
同	荒	悳	二	郎	(大校)
海軍機關大尉	久	保	徳	男	(大校)
海軍主計少佐	小	野	基	治	(經校)

(外ニ陸奥士官 十名)

海軍中佐	佐	藤	州	雄	(伊勢)
海軍少佐	吉	村	田	守	(大校)
同	神	川	茂	紀	(大校)
海軍機關大尉	縮			武	(大校)
海軍主計大尉	岩	崎	喜	利	(經校)

(外ニ伊勢士官 十名)

金剛ニ於ケル接伴掛

榛名ニ於ケル接伴掛

(外ニ金剛士官 十名)

海軍中佐	三	浦	速	雄	(金剛)
海軍少佐	北	村		肇	(大校)
同	辻	本		毅	(大校)
海軍機關大尉	松	本		尙	(大校)
海軍主計大尉	石	井	次	男	(經校)
海軍中佐	堀		九	郎	(榛名)
海軍少佐	島	田	航	一	(大校)
同	新	名	嘉	雄	(大校)
海軍大尉	柳		稔	雄	(大校)
海軍主計大尉	舛	田	正	雄	(經校)

(外ニ榛名士官 十名)

第一専用列車
東京驛
品川驛

海軍少佐	井	上	正	夫	(大校)
同	中	川		實	(大校)

第二専用列車

東京 品川 品川 品川

第三専用列車

東京 東京 東京 品川

停車場ニ於ケル接伴掛(横濱驛)

海軍少佐 助川 弘道(大校)
同 松浦 五郎(大校)
海軍中佐 樊道 三(軍務)
海軍少佐 阿部 茂(軍務)
同 市川 義守(軍務)

停車場ニ於ケル接伴掛(高島町驛)

海軍少佐 山口 史郎(大校)
海軍大尉 乘田 敏(大校)
海軍主計中尉 柏瀬 文彌(艦本)

停車場ニ於ケル接伴掛(櫻木町驛)

海軍少佐 松永 力(大校)
海軍大尉 山口 時男(大校)
海軍少佐 大塚 范(大校)

停車場ニ於ケル接伴掛(鶴見驛及鶴見臨港新芝浦驛)

海軍大尉 岡本 功(大校)
海軍主計中尉 浅井 壽(艦本)

比叡ニ於ケル放送、特許記者及特許寫眞員掛

海軍少佐 藤森 康男(大校)
同 大谷 藤之助(大校)

加古ニ於ケル特許記者及特許寫眞員掛

海軍中佐 高瀬 五郎(普及部)
同 馬場 金治(普及部)

棧橋ニ於ケル接伴掛

海軍中佐 高橋 俊策(普及部)
(外ニ加古士官 四名)

海軍主計特務少尉

佐藤 豊三郎(軍務)
小野 關憲吉(軍需)

海軍技師

佐村 謙(水路部)

接待掛員ノ執務覺書左ノ如シ。

紀元二千六百年特別觀艦式接待掛執務覺書

一 東京驛横濱港驛間ノ専用列車發着時刻及陪觀者ノ海陸輸送等ニ關シテハ別ニ記載スル所ニ依ル

二 皇族掛

(一) 觀艦式前日迄ニ宮邸ニ伺候シ御發着ノ時刻等ヲ承合シ當日ハ東京驛(品川驛)御發車ヨリ御歸京迄隨從スルコト

(二) 専用列車中左記ノモノニハ皇族御乗用車ヲ連結シアリ

往 路

午前七時十分 東京驛發

午前七時二十分 品川驛發

午前七時五十分 品川驛發

午後三時十五分 品川驛發

歸 路

午後三時十五分 品川驛發

午後三時五十分 品川驛發

午後四時 東京驛發

(三) 横濱港驛御發着後一應貴賓室ニテ御休憩ノ上午前八時三十分御召棧橋ヨリ御乗艇御召艦ニ向ハセラル

紀殿下及御未成年皇族ハ五號岸壁ヨリ高雄ニ御乘艇

(四) 御乗艇左記ノ通

御召艦行 伊勢水雷艇 山城水雷艇

(五) 各皇族殿下ノ御晝餐ハ比叡御召卓及高雄將官室ニ準備シアリ

三 接待掛

(一) 各艦ニ於ケル接待掛ノ所掌分擔等ハ各先任者ニ於テ之ヲ定メ指示スルモノトス

(二) 陪觀中一般説明及陪觀者ノ質問ニ對シ充分準備シ置クコト

(三) 御召艦接待掛中比叡士官三名ハ午前七時迄ニ五號岸壁特設棧橋ニ至リ棧橋掛ト協力シテ御召艦行陪觀者ノ整理ニ任ジ最後ノ御召艦行陪觀者使ニ同乗シ御召艦ニ至ルモノトス

(四) 左記諸官ハ各頭書ノ驛ニ在リテ専用列車ニ搭乗者ノ指示整理ニ任ジ同列車ニ同乗ス

第一専用列車(高雄、加古、古鷹行)

東京驛

海軍少佐 井上正夫

品川驛

海軍少佐 中川實

第二専用列車(高雄、加古、古鷹行)

東京驛

海軍少佐 助川弘道

品川驛

海軍少佐 松浦五郎

第三專用列車（比叡行、高雄ニ御乗艦ノ皇族モ御乗車）

東京 驛

海軍中佐 梶

道 三

品川 驛

海軍少佐 阿部

茂

品川 驛

海軍少佐 市川

義 守

（五）停車場ニ於ケル接待掛ハ觀艦式ノ前日迄ニ神奈川県保安課長並ニ受持驛長ト詳細ナル打合せヲナシ
當日ハ午前六時十五分迄ニ受持驛ニ至リ驛員並ニ横濱市間接待員ト協力シ陪（拜）觀者ノ指導ニ任ジ終テ
適宜指定ノ乗艦ニ至リ陪觀ス

三 特許新聞記者掛

（一）特許新聞記者ハ午前八時二十分迄ニ比叡及加古ニ乗艦スベキニ付成ルベク早く同艦ニ至リ新聞記者ノ
指導ニ任ズルコト

（二）勅語ノ發表ニ關シテハ當該關係者ト充分打合せ置ケルコト

（三）御召艦式場投鐘後新聞記者ノ爲陸上行便ヲ準備シアルニ付希望者ニ對シ便宜ヲ與フルコト

（四）記事作製ノ指導取締ニ關シテハ別ニ配付スル要領書ニ依ルコト

四 特許寫眞員掛

（一）特許寫眞員ハ當日午前八時二十分迄ニ比叡及加古ニ乗艦スベキニ付成ルベク早く同艦ニ至リ寫眞員ノ
指導監督ニ任ズルコト

（二）比叡ハ御召艦ニ付不敬ノコトナキ様特ニ注意スルコト

（三）御召艦式場ニ投鐘後寫眞員ノ爲陸上行便ヲ準備シアルニ付希望者ニ對シ便宜ヲ與フルコト

（四）寫眞撮影ノ指導取締ニ關シテハ別ニ配付スル要領書ニ依ルコト

第十二節 式場警戒及取締

第一 式場警戒規程

十月二日紀元二千六百年特別觀艦式指揮官ニ於テ式場警戒規程左ノ通制定シ、式場警戒ノ基準ヲ定メテ其ノ遺
骸ナキ遂行ヲ期スルコトトセリ。

紀元二千六百年特別觀艦式式場警戒規程左ノ通定ム

昭和十五年十月二日

紀元二千六百年特別觀艦式指揮官 山 本 五 十 六

紀元二千六百年特別觀艦式式場警戒規程

一 式場警戒ハ主トシテ驅逐艦澤風、敷設艇夏島、狼島、一號、二號、七號、九號、十三號各驅逐艇、雜役船
栗橋及横須賀海軍港務部ノ船艇之ニ任ズベシ
但シ横須賀海軍港務部以外ノ船艇ハ觀艦式及豫行當日日本任務ニ服スルモノトス又右船艇ノ内艦船ノ岸壁離
方、陪觀者檢送及飛行機警戒等ニ任ズルモノハ之ニ支障ナキ程度ニ於テ本任務ニ服スルモノトス

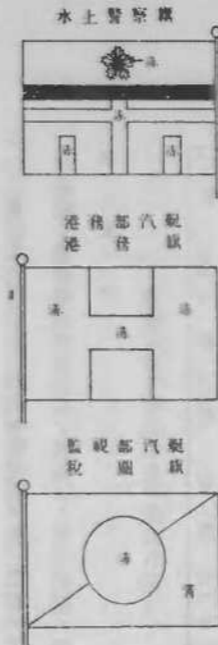
- 二 参列ノ諸隊艦船ハ式場進入後式場内外ノ警戒ニ任ズルト同時ニ常ニ事故ニ即應スルノ準備アルヲ要ス
- 三 觀艦式及豫行當日式場ノ警戒ニ關シ横濱税關港務部、水上警察署ハ濱横税關港務部ノ定ムル所ニ依リ其ノ船艇ヲ以テ海軍側ニ協力ス
- 四 同船艇ニハ案内掛トシテ横須賀海兵團ヨリ下士官ヲ乗船セシム
- 五 觀艦式當日横濱税關港務部長ハ横濱港ニ碇泊又ハ出入スル船舶ニ對シ左ノ通處置ス
豫行當日ニ於テモ概ネ右ニ準ジテ處置スルモノトス
- (イ) 外國船舶ハ特ニ支障ナキ限リ内港ニ碇泊セシム
- (ロ) 左ノ期間船舶ノ内港出入ヲ禁止ス
自午前七時 至午前十時三十分
自午後一時 至午後四時
- 六 警戒船艇ハ適宜式場境界標示浮標附近ニ警留シ式場域内ノ海面ヲ監視シ又晝夜適宜巡邏警戒スベシ但シ晝間視界遠大ニシテ式場内海面ヲ明視スルコトヲ得ル場合ハ巡邏セザルモ差支ナシ
- 七 式場警戒ニ關シ左記各項ニ就キテハ殊ニ警戒ヲ嚴ニスベシ
(イ) 式場内ニ設置シタル諸浮標、識別旗及其ノ繫維索、錘量等ノ位置移動攪亂若ハ窃取、破壊
(ロ) 式場内ニ於テ危險ト認ムベキモノノ沈下放流等
(ハ) 觀艦式當日船舟(許可ヲ得タルモノヲ除ク)ノ式場内進入

- 七 警戒ノ船艇前號ノ犯行者ヲ發見セバ直ニ之ヲ取押ヘ其ノ船主、船籍、船長(船頭)ノ現住所氏名等ヲ詳細ニ取調ベ之ヲ横濱水上警察署ニ引渡スベシ
- 八 警戒船艇ニシテ人名救助等ニ當リ緊急他ノ援助ヲ求ムル必要アル場合ニハB旗ヲ掲揚シ汽笛ヲ連吹スベシ横濱税關港務部及水上警察署ノ警戒船艇ハ赤色方旗ヲ振り汽笛ヲ連吹ス
- 九 觀艦式當日警戒船艇ノ配置行動等ヲ別表ノ如ク定ム
- 一〇 觀艦式及豫行當日陪觀者輸送其ノ他ノ爲部外ヨリ輸入セル船艇ハ白地ニ「海軍」(赤字)ト印セル大旗ヲ掲揚シ横濱税關港務部長ノ指揮スル警戒船艇ハ別圖ノ如キ識別旗ヲ掲揚ス(觀第十五圖參照)

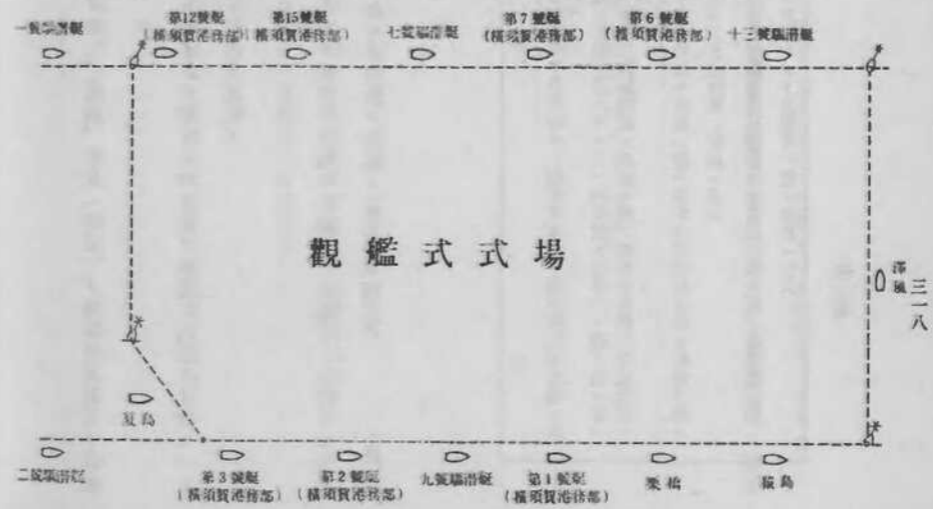
觀艦式當日警戒船艇ノ配置行動等

警戒船艇	配置行動	記
洋風、夏島、鷲島、一號、二號、七號、九號、十二號各驅潛艇、横須賀港務部船艇	別圖配備位置圖附近ニ在リテ機宜行動 (觀第十六圖參照)	一 豫行當日午前六時ヨリ觀艦式當日午後四時迄本配備ニ在ルベシ 二 他ニ任務ヲ有スルモノハ同任務ニ支障ナキ限リ右ニ準ズ 三 一號、二號驅潛艇ハ必要ニ應ジ附近小舟艇ノ交通整理ニ任ズ
航空艇隊 内大艇二隻	赤城附近ニ在リテ機宜行動	一 午前九時迄ニ赤城ニ集合空中分列式終了後本配備ヲ撤ス 二 主トシテ航空機ノ警戒ニ任ズ
横濱税關港務部 同 水上警察署船艇	横濱税關港務部長ノ定ムル所ニ依リ適宜警備ヲ行フ式場ニ至ル間ノ御召艦(艇)航路ノ兩側及式場外周ニ在リテ主トシテ式場外一般ノ警戒ニ任ズ	

艦第十五圖 警戒船艇旗圖



艦第十六圖 紀元二千六百年特別觀艦式式場警戒船艇配備圖



第二 航空禁止

特別觀艦式當日ハ式場及御召列車通過ノ上空等ヲ航空スルヲ禁止スルノ要アルヲ以テ十月一日海軍次官ヨリ陸軍次官・陸軍航空本部長・内務次官・逓信次官・憲兵司令官ニ對シ、十月十一日(天候不良ノ場合ハ十三日迄御願延)横濱沖ニ於テ觀艦式御舉行アラセラルル豫定ナルトコロ、當日左記ノ如ク航空ヲ禁止シ、定期航空機ハ規定ノ通り發着ノコトトシ、禁止場所ヲ避ケ陸上上空ヲ飛行セシムベキコトトスル旨ヲ照會シ、本件寫ヲ神奈川県知事・横濱憲兵隊長・大日本航空株式會社總裁ニ參考送付セリ。

一 禁止時刻

午前八時ヨリ午後四時迄

二 航空禁止場所

(イ) 御召列車上空	八・一五	東京驛御發車
	九・〇〇	横濱港驛御著車
	一四・三〇	横濱港驛御發車
	一五・一五	東京驛御著車
(ロ) 横濱及横濱沖上空		

第三 警衛

十月二日特別觀艦式事務委員長ヨリ觀艦式當日ノ警衛ニ關シ警視廳警務部長ニ對シ、左記ニ依リ芝浦ヨリ觀艦式拜觀者乘退艦スベキニ付警衛ニ關シ然ルベク取計ハレタキ旨依頼シ、尙ホ一般民間船ニ依ル拜觀ハ許可シアラ

ナル旨ヲ申添ヘタリ。

月 日	芝浦岸壁出帆時刻	同上 歸着時刻	艦 名	概 略 員 數
十月十日 (豫行日)	八二〇	一四三〇頃	早 精	八〇〇名
十月十一日 (觀艦式當日)	七二〇	一七三〇頃	早 精	八〇〇名
	七二〇	一七三〇頃	尻 矢	八〇〇名

三三〇

第四 一般船舶

十月二日特別觀艦式式場區域内・同準備鋪地・浮標假設及横濱税關ニ於ケル一般船舶ノ航行取締ニ關シ左ノ通遞
信省告示ヲ以テ規定シ、之ヲ一般ニ公布セリ。

遞信省告示第二千六百六十八號

昭和十五年十月十一日横濱港外ニ於テ紀元二千六百年特別觀艦式御舉行アラセラルルニ付一般船舶ハ左記事項
ヲ嚴守スベシ

昭和十五年十月二日

遞信大臣 村 田 省 藏

一 本日ヨリ十月十三日迄巴ムヲ得ザル場合ノ外式場區域内(第四項參照)ヲ通航シ又ハ同區域内ニ碇泊セザ
ルコト

二 觀艦式當日午前八時ヨリ午後六時迄、十月十日午前八時ヨリ同十二時迄及十月八日ヨリ同十三日迄ノ夜間
ハ絕對ニ式場區域内ヲ通航シ又ハ同區域内ニ碇泊セザルコト

三 觀艦式參加艦船ハ十月七日ヨリ同九日迄觀艦式準備鋪地(第五項參照)ニ碇泊シ同九日觀艦式式場ニ進入
スルニ依リ注意スルコト

四 式場區域ハ左記(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)及(ホ)ノ各點ヲ順次連結シタル水域トス

(イ) 横濱港東水堤燈臺ヨリ

一一〇度 四、七五〇米

(ロ) (イ)ヨリ 三四七度 三、五五〇米

(ハ) (ロ)ヨリ 七七度 一一、〇〇〇米

(ニ) (ハ)ヨリ 一六七度 四、三五〇米

(ホ) (ニ)ヨリ 二五七度 一一、二八〇米

十月十三日迄前記(イ)乃至(ホ)ノ各點ニ左記紅色塗挂燈浮標ヲ又式場區域内ニ旗附竹製浮標多數ヲ假設ス

(イ)、(ロ)及(ホ)ノ三點ニハ閃白光毎三秒一閃光

(ハ)及(ニ)ノ二點ニハ閃白光毎五秒一閃光

五 觀艦式準備鋪地ハ左記(子)、(リ)、(ヌ)及(ル)ノ各點ヲ順次連結シタル水域トス

(子) 横濱港東水堤燈臺ヨリ

三三二

二七度 九、八〇〇米
 (リ) (子)ヨリ 七〇度 九、一五〇米
 (ヌ) (リ)ヨリ 一六〇度 六、一五〇米
 (ル) (ヌ)ヨリ 二五〇度 九、一五〇米
 十月十三日迄前記諸地東側ニ於テ左記(ヘ)及(ト)ノ二點ニ左記紅色塗挂燈浮標ヲ設置ス
 (ヘ) 祭洲鼻二・八米三角點ヨリ 二九〇度 三、〇〇〇米

(ト) 人見山七〇米三角點ヨリ 三五〇度 四、二〇〇米
 (ヘ)及(ト)ノ二點トモ閃白光毎五秒一閃光

六 本日ヨリ十月十三日迄昭和十四年十月十日迄昭示第三千三十九號ニ依ル航行禁止ノ件ハ之ヲ一時解除ス

逓信省告示第三千六百六十九號
 昭和十五年十月十一日横濱港外ニ於テ紀元二千六百年特別觀艦式御舉行アラセラルルニ付開港港則施行規則第

三十八條ノ規定ニ依リ横濱稅關ニ於テ左記ノ通一般船舶ノ航行ヲ禁止ス
 昭和十五年十月二日

逓信大臣 村 田 省 藏

一 觀艦式當日午前七時ヨリ同十時三十分迄(御召艦及供奉艦方式場ニ入りタル後迄)及午後一時ヨリ同四時迄第一區内ニ於テハ山下町大棧橋ノ突端ヨリ東水堤燈臺迄引キタル線ト第九號岸壁ノ北東端ヨリ北水堤上小出入口ノ南縁迄引キタル線トノ間ニ含マルル水域竝ニ第一區外ニ於テハ山下町大棧橋ノ突端ヨリ式場最南端ノ挂燈浮標迄引キタル線ト北水堤上小出入口ノ南縁ヨリ子安浮標ヲ經テ式場北西端ノ挂燈浮標迄引キタル線トノ間ニ含マルル水域ハ觀艦式ノ用務ヲ有スルモノノ外一一般船舶ノ航行ヲ禁止ス

二 前項ノ水域内ハ十月九日ヨリ觀艦式終了迄觀艦式ノ用務ヲ有スルモノノ外一一般船舶ノ投錨又ハ碇泊ヲ禁止ス

右ニ關シ九月二十四日及十月五日ノ二回ニ互リ水路部ヨリ左ノ通東京中央放送局ニ對シ、水路部公示事項トシテ一般ニ放送スベキヲ依頼セリ。

一期 日 九月二十四日
 一本 文

海軍省發表水路部公示事項第一二五號
 横濱港東方ニ挂燈浮標及浮標ヲ設置竝ニ木更津港附近ニ挂燈浮標設置ニ就テ
 軍用ノ爲明二十五日ヨリ當分ノ間次ノ通挂燈浮標及浮標ヲ設置シマス

一 横濱港東方ノモノ

三二四

次ノ三位置ニ毎三秒ニ一回ノ白ノ閃光ヲ發スル紅繪挂燈浮標ヲ設置シマス

位置 第一挂燈浮標ハ横濱港、外防波堤北燈臺ヨリ眞方位五十三度、距離二千百米ノ地點

第二挂燈浮標ハ、第一挂燈浮標ヨリ眞方位百六十七度、距離三千五百五十米ノ地點

第三挂燈浮標ハ、第二挂燈浮標ヨリ眞方位百二十二度、距離千八十米ノ地點

右ノ第一第三兩挂燈浮標ヨリ眞方位七十七度、第一挂燈浮標ヨリ距離約八千五百米及第三挂燈浮標ヨリ距離約七千七百米ノ兩地點ト、右三箇ノ挂燈浮標ヲ結ブ線トテ圍ム海面ニハ旗ノ附イタ竹竿浮標ヲ多數設置シマス、右海面ヲ通航ノ一般船舶、筏等ハ之等ノ旗附浮標ヲ移動シタリ毀損シタリスル様ナコトノ無キ様十分ナル注意ヲ希望シマス

二 木更津港附近ノモノ

次ノ二位置ニ毎五秒ニ一回、白ノ閃光ヲ發スル紅繪挂燈浮標ヲ設置シマス

位置 南方挂燈浮標ハ、木更津港南西方、人見山（高サ七十米）ノ頂ヨリ眞方位三百五十度、距離四千二百米ノ地點

北方挂燈浮標ハ、南方挂燈浮標ヨリ眞方位六度、距離六千三百米ノ地點

(一)

一期 日 十月六日

一 本 文

海軍省發表水路部公示事項第一三四號

觀艦式式場ト準備地附近ニ標誌設置及航行注意ニ就テ

一 來十一日横濱港東方海面ヲ御舉行ノ紀元二千六百年特別觀艦式式場設備ノ爲、去九月二十七日ヨリ本月十日迄式場ノ各隅ニ五箇ノ紅繪挂燈浮標ヲ設置シ、式場内ニハ多數ノ旗ノ附イタ竹竿浮標ヲ設置シマス

二 去九月二十七日ヨリ本月十三日迄、木更津港ノ西方及譽洲鼻ノ沖合ニ紅繪挂燈浮標二箇ヲ設置シマス、北

ノ二箇ノ挂燈浮標ノ西方一帯ハ觀艦式準備地デアリマシテ、明七日ヨリ來九日迄觀艦式參加ノ艦船ガ多數

碇泊シ、來九日觀艦式式場ニ進入シマス

三 右ノ外一般船舶ニ對シテノ諸注意事項ハ十月二日ノ官報ニ掲載ノ逓信省告示第二千六百六十八號及二千六

百六十九號並ニ十月二日附水路告示第三十九號號外ニ詳細ヲ記載シテアリマスカラ、觀艦式場及準備地地方

面航行ノ一般船舶ハ之ヲ參照スルコトヲ要シマス

第十三節 輸送及通信竝ニ氣象

第一 輸送規程

十月九日紀元二千六百年特別觀艦式指揮官ニ於テ左ノ通特別觀艦式輸送規程ヲ制定シ之ヲ部内ニ令達セリ。

紀元二千六百年特別觀艦式輸送規程別冊ノ通定ム

三二五

戸部	九千歳	午前六時三十分高島町浮 棧橋ニテ乗艇
たろ	九千代	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
柏	九千代	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
海	王多摩	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
浦	丸八重山	午前六時三十分西流止場 ニテ乗艇
鈴	丸八重山	午前八時内蔵船ニテ乗 艇
海	丸八重山	午前七時二十分金龍丸船 ニテ乗艇
海	丸八重山	午前六時三十分五號岸壁 特設棧橋ニテ乗艇
濱	丸八重山	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
金	丸八重山	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
第二	丸八重山	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇
東	丸八重山	午前六時三十分見特設 棧橋ニテ乗艇

各尉官、附下士
官(信)一

(註) 尉官ハ特務士官 准士官ヲ以テ代フルコトヲ得

七 前號ノ准士官以上ノ官氏名十月九日中ニ報告スルト共ニ在横濱税関内觀艦式事務委員長及在長門棧橋指揮官ニ通報スベシ

八 棧橋指揮官ハ要スレバ各役員任務分擔細目ヲ定ムベシ

九 棧橋指揮官及棧橋掛ハ午前陪(拜)觀者乗艇乗艇終了後左記ニヨリ行動スベシ

配	置	行	動
棧橋指揮官			
御召棧橋			
西流止場棧橋			
五號岸壁特設棧橋			
山下公園特設棧橋			
高島町浮棧橋			
鶴見特設棧橋			
其ノ他ノ棧橋			

便宜受持棧橋附近ニ在リテ休憩待機シ午後二時迄ニ配置ニ就ク

自艦ニ乗艇、横付後直ニ上陸再ヒ配置ニ就ク

一〇 當日ノ海上輸送全部終了セバ棧橋指揮官ハ各棧橋掛、同附及部外船艇掛ヲ各其ノ本艦ニ復歸セシムルモノトス

部外借入船艇ハ部外船艇掛退船セバ適宜解散スルモノトス

一一 本規程ニ依リ海上輸送ニ從事スル各種船艇ハ保安ニ關シ特ニ注意スベシ

一二 本規定ニ定メタル役員ハ要スル場合兼務當ヲ携帶スベシ

一三 當日平水ニシテ豫定人員ヲ各船艇ニ搭載シ得ル場合ニハ特ニ指定スルモノノ外輸送ハ一回ニテ終了ノ見込ナルモ各艇ハ毎回ノ輸送ヲ終リタル後特令ナキ限り再ヒ指定ノ場所ニ到リ棧橋掛ノ命ヲ待ツベシ

一四 第一表乃至第三表ニ掲グル各艇(函簿列ヲ除ク)ニハ其ノ行先艦名ヲ記シタル木札(縦六〇〇釐横二〇〇釐)ヲ外部ヨ

リ見易キ位置ニ掲グベシ
右木札ハ派出艦ニテ準備スベシ

但シ部外借入船艇ニ對スルモノノ木札(縦六〇釐)及白地ニ「海軍」ト朱書セル旗(縦四五釐)ハ觀艦式事務委員ニテ準備ノ筈又左ノ各艇ニハ適宜(委員用)ノ木札ヲ掲グルモノトス

熊野、鈴谷内火艇、第七〇九號、第六七九號、第九六八號、第九一四號
一五 陪觀者ハ左圖様式ノ徽章ヲ右胸ニ附著シアリ(艦第十七回參照)

艦第十七回 紀元二千六百年特別觀艦式陪觀者徽章様式



第一表 (乗艦用)

乗艦名	乗艦者(概數)	使用機橋	使用船艇(回數容力)	任務集合時刻等
觀艦式事務	陪觀者(400)	五號岸壁 特設機橋	御召機橋	一、各艇ハ午前八時三十分迄ニ御召機橋ニ集合 觀艦式事務委員長ノ指示ヲ受クルモノトス 二、航行序列 先導艇：御召艇……第一、第二、第三供奉艇 豫備御召艇ハ稍遅レテ續行 三、上記各艇ハ本任務終了セバ御召機橋ニ在リテ第三表ノ任務ニ就ク迄待機スベシ
西波止場	皇族 同右	多摩ラン 五十鈴ラン 野毛丸 柱島丸	伊勢水雷艇 山城水雷艇	一、各艇ハ午前八時迄ニ御召機橋ニ集合、觀艦式事務委員長ノ指示ヲ受クルモノトス 二、皇族ヲ掲揚セズ 三、午前八時三十分機橋發ノ豫定
第七〇九號	熊野内火艇	(100)(170)(70)(70)	榛名水雷艇 比叡十五米内火艇 金剛水雷艇 除奥水雷艇 長門水雷艇 樓閣長官艇 香取内火艇	午前六時十五分迄ニ西波止場ニ集合、觀艦式事務委員ノ指示ヲ受クルモノトス 熊野内火艇ハ午前八時二十分迄ニ御召機橋ニ到リ

第二表 (解纜、横付用)

船名	時刻	場所	使用船艇	準備時刻	記
御召艦	午前九時四十分	十番浮標	第七横須賀丸	午前八時十分 午前八時四十分	
高雄	午前八時四十分	五號岸壁	第六横須賀丸	午前八時	午前ノ解纜ハ、高雄ノ順トス
古鷹	午前八時二十分	四號岸壁	浦貫丸	午前八時	横付ハ、高雄、古鷹ノ順トス
加古	午前八時三十分	七號岸壁	浦貫丸	午前八時	陪観者退艦終了セバ直ニ逐次解纜スルモノトス
長鯨	午後四時三十分	大棧橋A	解纜ノ時	午後二時五十分	浦貫丸、給浦丸ハ午後横付及解纜ノ時ニ依リ同艦ノ指示ニ依リ解纜作業ヲ援助ス
迅鯨	午後四時三十分	大棧橋B	解纜ノ時	午後七時二十分	解纜ノ際ハ金龍丸、明石、迅鯨、長鯨ノ順序トス
金龍丸	午後四時三十分	大棧橋C	第七横須賀丸	午後四時二十分	横付ノ際ハ長鯨、迅鯨、明石、金龍丸ノ順序トス
明石	午後四時三十分	大棧橋D			第七横須賀丸ハ横付ノ時ノミトス

第三表 (上陸用)

門長	高雄	召名 (御比)			艦名	上陸者(概数)	上陸機橋	使用船艇	準備時刻	任務等
		事務委員用	陪観者	皇族						
陪観者 (1500)	皇族下及御未成年	事務委員用	陪観者 (400)	皇族	御召艦	第一表ニ同ジ	第一表ニ同ジ	午前二時三十分	一、海上演習第一表ニ同ジ 二、各艇ハ午後二時御召艦港内ニ入泊セバ直ニ同艦ニ到リ事務委員ノ指示ヲ受クルモノトス	
西波止場	御召機橋	適宜	同右	同右	御召機橋	第一表ニ同ジ	第一表ニ同ジ	午後二時三十分	皇族御退艦後輸送ニ從	
長門ラランチ	演	第九	第六	第七	第九	第九	第九	午前一時二十五分迄	御召艦控室セバ直ニ同艦附近ニ到リ事務委員ノ指示ヲ受クルモノトス	
利根ラランチ	赤城十三米特運(イ)	第六	第七	第七	第九	第九	第九	午後二時二十五分	能野内火艇ハ午後二時二十五分御召艦左舷々梯ニ到リ委員長用ニ準備ス	
第八三三三號	西波止場	第九	第六	第七	第九	第九	第九	午前一時二十五分迄	高雄ノ舷側ニ到リ其ノ指示ヲ受ク	
									長門ラランチノ外各艇ハ二往復トス	

艦船解纜、横付以二階(拜)觀者乘退艦艇時刻一覽表

艦名	乗艦(艇場)所	乗退時刻	解纜時刻	横付(退艦)時刻	横付(上陸)場所
龍	横濱特設艦艇場	午前八時二十分	午前九時四十分	午後二時三十分	横付(上陸)場所
高	横濱特設艦艇場	午前八時二十分	午前八時四十分	午後二時三十分	乗艦ノ時ニ同シ
古	横濱特設艦艇場	午前八時二十分	午前八時四十分	午後二時三十分	乗艦ノ時ニ同シ
加	波止場	午前八時十分	午前八時三十分		乗艦ノ時ニ同シ
長	波止場				
伊	五反田特設艦艇場				
金	高島町浮橋				
桂	鶴見特設艦艇場				
長	大横濱特設艦艇場	午前七時四十分	午前八時		午後二時頃
明	同	午前七時二十分	午前七時五十分		午後四時二十分頃
金	同	午前七時二十分	午前七時四十分		午後四時二十分頃
朝	同	午前七時	午前七時三十分		午後五時三十分頃

一 東京方面陪觀者專用列車時間表並ニ乗車區分

(イ) 横濱港行

早	東京芝浦町	午前七時十分	午後五時三十分頃
辰	船岸壁	午前七時	

發着	乗車區分	發着	乗車區分
第一專用	加古高	六時三十五分	第一專用
第二專用	同上行	六時四十五分	第二專用
第三專用	同上行	七時五分	第三專用
第一專用	同上行	七時二十分	第一專用
第二專用	同上行	七時四十分	第二專用
第三專用	同上行	七時五十分	第三專用

一、第三專用列車ニハ皇族御召車ヲ連結ス
 二、全部二等車
 三、乗車ニ當リ陪觀列車券ヲ示スヲ要ス

二 横須賀方面陪観者用臨時電車時間表

横須賀	三時十五分	午後	三時三十分	午後	三時四十二分
品川	三時五十分	午後	四時五分	午後	四時十七分
東横	四時	午後	四時十五分	午後	四時二十七分

第一專用列車ニハ皇族御召車ヲ連絡ス

横須賀方面陪観者用臨時電車時間表

横須賀	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
田浦	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
逗子	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
鎌倉	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
北鎌倉	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
大船	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分
横須賀	六時五十分	午前	六時五十三分	午前	六時五十九分	午前	七時四分	午前	七時七分	午前	七時十一分	午前	七時三十分

附録第三

部内船艇任務一覽表(時刻ハ準備時刻ヲ示ス)

船(艇)名	乗 置 用 (第一表)	解 體 用 (第二表)	上陸横付用 (第三表)
山城水雷艇	午前八時		午後二時二十五分
横須賀官艇	午前八時三十分		午後二時
榎名水雷艇	午前八時三十分		午後二時
比叟十五米内水雷艇	午前八時三十分		午後二時
金剛水雷艇	午前八時三十分		午後二時
陸奥水雷艇	午前八時三十分		午後二時
長門水雷艇	午前八時三十分		午後二時
伊勢水雷艇	午前八時		午後二時二十五分

山城水雷艇	午前八時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時二十五分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
横須賀官艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
榎名水雷艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
比叟十五米内水雷艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
金剛水雷艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
陸奥水雷艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
長門水雷艇	午前八時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
伊勢水雷艇	午前八時	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時二十五分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
五十鈴水雷艇	午前七時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
多摩水雷艇	午前七時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
伊勢水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
金剛水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
長門水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
陸奥水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
千代田水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
最上水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ
常磐水雷艇	午前六時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ	午後二時三十分	御召艇ヨリ皇族ヲ御召艦へ

附録第四

船名	乗員	用(第一表)	解體用(第二表)	繫留用(第三表)
赤城十三米(ロ)	午前六時三十分	西波止場ヨリ陪観者ヲ長門へ陪		御召出港セバ直ニ金剛ニ到リ陪観者ヲ山下公園特設棧橋へ
飛龍十三米(イ)	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ伊勢へ		御召出港セバ直ニ伊勢ニ到リ陪観者ヲ高島町浮棧橋へ
同(右)	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ伊勢へ		御召出港セバ直ニ伊勢ニ到リ陪観者ヲ高島町浮棧橋へ
若葉十三米(イ)	午前六時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ五號岸壁特設棧橋へ
同(右)	午前六時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ五號岸壁特設棧橋へ

部外船(艇)任務一覽表

附録第四

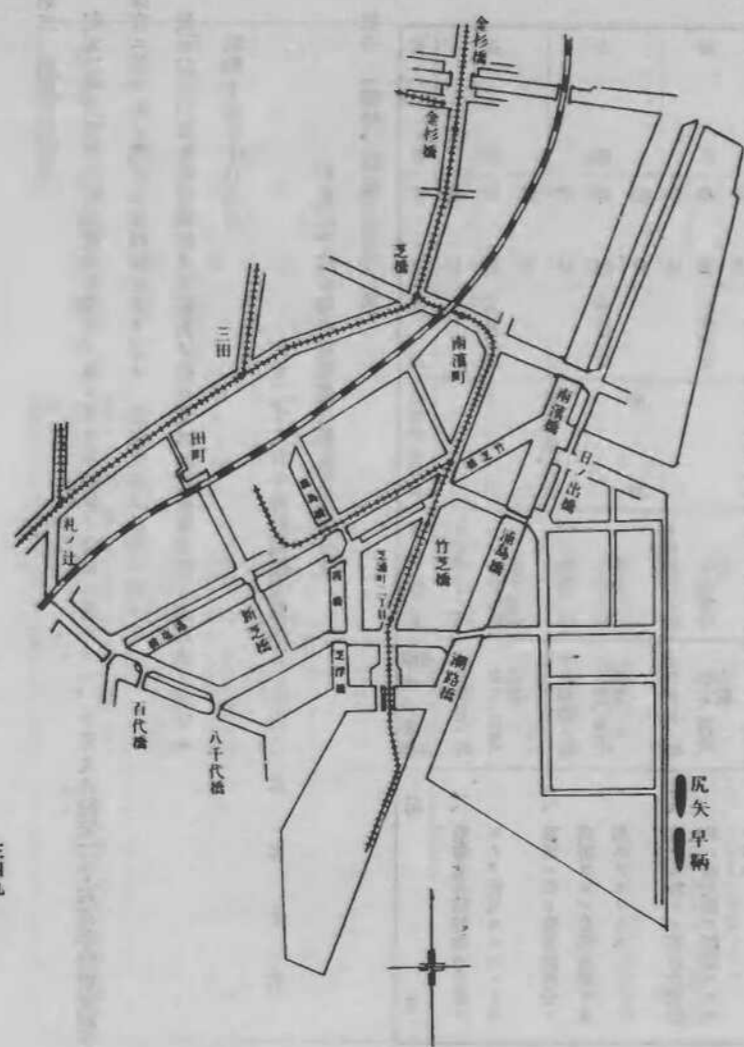
船名	乗員	用(第一表)	解體用(第二表)	繫留用(第三表)
桂島丸	午前七時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		午後二時三十分 御召出港者ヲ御召棧橋へ
濱丸	午前六時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		午後一時二十五分高島町浮棧橋ニ到リ(右)終了後直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ高島町浮棧橋へ
戸部丸	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ伊勢へ		御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ五號岸壁特設棧橋へ
野毛丸	午前七時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		午後二時三十分 御召出港者ヲ御召棧橋へ
たちばな丸	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ伊勢へ		御召出港セバ直ニ伊勢ニ到リ陪観者ヲ高島町浮棧橋へ

附録第五

船名	乗員	用(第一表)	解體用(第二表)	繫留用(第三表)
海王丸	午前六時三十分	五號岸壁特設棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ	午前八時 古鷹加古、高雄解體用	御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ五號岸壁特設棧橋へ
海光丸			午前七時二十分 金剛丸、明石、迅駮、長艇解體用 午前八時十分港内十番浮標御召 艦解體援助	午後三時頃加古、高雄、古鷹棧橋に碇セシメ比較解體用 午後二時頃御召艦留定ニ付午後一時四十分内外水堤適宜ノ位置ヲ待機ス御召艦入港セバソノ艦留石、金剛丸横付用
金川丸	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ五號岸壁特設棧橋へ
第二朝日丸	午前六時三十分	高島町浮棧橋ヨリ陪観者ヲ陸奥へ		御召出港セバ直ニ陸奥ニ到リ陪観者ヲ高島町浮棧橋へ
極東丸	同	同		同
船丸	同	同		同
浦賀丸	午前六時三十分	西波止場ヨリ陪観者ヲ長門へ		午後二時五十分頃加古、高雄、古鷹横付及解體用
鈴浦丸	同	同		同

部外借用主要(船)艇要目表

所有者	艇名	噸數	(馬力)	定員	海上平穩ノ際ノ乗船(艇)可能人員	乗組員數
大阪商船	桂島丸	三二四九	八	七〇	一〇〇	六



艦第二十圖 紀元二千六百年特別觀艦式拜觀者乘艦案內圖(芝浦)

尻矢早柄



艦第十九圖 紀元二千六百年特別觀艦式拜觀者乘艦艇案內圖(横濱)

第二 船艇使用区分

紀元二千六百年特別観艦式準備其ノ他ニ要スル船艇ノ使用ニ關シテハ、十月九日紀元二千六百年特別観艦式指揮官ニ於テ左ノ通之ガ使用区分表ヲ定メ、船艇使用ノ基準ト爲セリ。

紀元二千六百年特別観艦式準備其ノ他ニ要スル船艇使用区分表別表ノ通定ム

昭和十五年十月九日

紀元二千六百年特別観艦式指揮官 山本 五十六

第一 (横付、解纜用及其ノ他)

紀元二千六百年特別観艦式船艇使用区分表

艦名	高			古			加		
	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付
五號岸壁	付	付	付	付	付	付	付	付	付
第六横須賀	付	付	付	付	付	付	付	付	付
四號岸壁	付	付	付	付	付	付	付	付	付
七號岸壁	付	付	付	付	付	付	付	付	付

- 一、警留索及防舷物ハ自艦ノモノヲ使用スルモノトス
- 二、警留ニ際シ警留索授受ノ爲要スレバ自艦短艇ヲ使用スルモノトス
- 三、陸上ニ於ケル警留作業援助ノ爲人員ヲ派遣スルモノトス

観艦式事務委員用	長			迅			金			明			早			尻		
	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付	横付	解纜	横付
大接橋A	付	付	付	同右B	付	付	同右C	付	同右D	付	付	芝浦町	付	付	付	付	付	付
第四八七號	付	付	付	海	付	付	光	付	付	付	付	第九九九號	付	付	付	付	付	付
第九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	十日解纜ノ時	午前八時	午前八時	十日横付ノ時	午後一時	午後一時	午後一時	午後一時	九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時
九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	十日解纜ノ時	午前八時	午前八時	十日横付ノ時	午後一時	午後一時	午後一時	午後一時	九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時
九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	十日解纜ノ時	午前八時	午前八時	十日横付ノ時	午後一時	午後一時	午後一時	午後一時	九日横付ノ時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時	午前九時

- 四、各艦船ハ準備時刻ヨリ十分後ニ横付放ニ解纜ヲ逐次行フモノトス(一艦ニ付横付放ニ解纜所要時間ハ夫々約十分間ノ見込)

九日午前八時迄ニ丙被止場ニ集合観艦式事務委員ノ指示ヲ受ク

船名	十月九日	十月十日
海神	午前八時五十分頃 加古、高雄、古鷹横付用	午前九時十分 古鷹、加古、高雄解體用 午後零時頃 加古、高雄、古鷹横付用
海光	午前六時四十分 比叡留用 午前九時頃 長鯨、迅鯨、明石、金龍丸横付用	午前八時二十分頃 金龍丸、明石、迅鯨、長鯨解體用 午前九時四十分 比叡解體用 午後零時四十分 比叡留用 午後一時二十分頃 長鯨、迅鯨、明石、金龍丸横付用
第一日出丸	午前九時五十分頃 尻矢、早稲横付用	午前八時 早稲、尻矢解體用 午後二時五十分頃 尻矢、早稲横付用
第二日出丸		

第三 通信事務

特別觀艦式參列艦船及同事務委員ニ發着スベキ郵便物及電報取扱、記念通信日附印押捺、觀艦式事務専用電話ニ關シテハ、觀艦式事務委員ニ於テ選信省當務者ト協議シテ左ノ如ク取扱メ、十月四日海軍省軍務局長ヨリ關係各廳長ニ通牒セリ。

觀艦式ニ關スル通信事務要領

一 參列艦船ノ郵便物及電報取扱ニ關スル件（期間十月七日ヨリ觀艦式翌日迄）

- (一) 郵便（貯金、爲替等現金受拂事務ヲ除ク）及電信事務取扱ノ爲山下公園附近及橫濱稅關旅具検査場附近ニ郵便局臨時出張所ヲ假設ス但シ山下公園附近ノ臨時出張所ハ十月九日ヨリ觀艦式翌日迄受付ノミヲ取扱フ尙表高島町浮桟橋附近、鶴見芝浦電氣株式會社構内桟橋附近及東京芝浦町繫船岸壁水難救濟所附近ニ「ボスト」ヲ假設ス
- (二) 參列艦船發着ノ郵便物（艦船ヲ肩書シタル個人宛ノモノヲ含ム）ハ左ノ如ク取計フ
 - (イ) 參列艦船（早稲、尻矢、間宮、朝光丸ヲ除ク）宛ノ郵便物ハ凡テ橫濱郵便局ニテ各軍艦逐艦及潜水艦等ニ區分シ前記橫濱稅關旅具検査場附近ノ臨時出張所ニ送付シ各艦船ヨリ來所ノ公用使ニ交付ス
 - (ロ) 右艦船ヨリ發送スル郵便物ハ兩臨時出張所ニテ受付ク
 - (ハ) 料未納又ハ不足ノ郵便物ニ對シテハ前記公用使ニ於テ受取人ニ代リテ該料金を納付スルコト
- (三) 參列艦船發着ノ電報（艦船ヲ肩書シタル個人宛ノモノヲ含ム）ハ左ノ通取計フ
 - (イ) 參列艦船（前記諸艦ヲ含ム）宛電報ハ凡テ橫濱郵便局ヨリ前記橫濱稅關旅具検査場附近ノ臨時出張所ニ送付シ橫濱稅關旅具検査場階上ニ設置ノ海軍陸上無線電信所ニ於ケル相當資格者ニ交付ス
 - (ロ) 右艦船ヨリ發送スル電報ハ兩臨時出張所ニテ受付ク
 - (ハ) 再送電報其ノ他料金徴收ヲ要スル電報ニ付テハ前記受領資格者ニ於テ受取人ニ代リテ該料金を納付スルコト
- (四) 橫濱稅關ヲ肩書シタル觀艦式事務委員宛郵便物及電報ハ橫濱郵便局又ハ同臨時出張所ヨリ直接之ヲ交付スルコト

(五) 郵便物及電報ノ轉送其ノ他詳細ニ付テハ前記臨時出張所員ト觀艦式事務委員間ニ於テ直接協議ノ上處理ス

二 指定郵便局ニ於テ記念消印押捺ニ關スル件

記念消印制定ノ上左ノ指定郵便局ニ於テ押捺ノコトニ取計フ

(一) 範圍 横濱市内、横須賀市内ノ一二等郵便局及第一艦隊郵便局

(二) 期間 觀艦式當日及其ノ後三日間

三 御召艦及供奉艦等ニ記念消印押捺ノ爲郵便事務員派遣ノ件

左ノ諸艦ニ郵便事務員ヲ派遣ス

(一) 派遣 日

觀艦式當日

(二) 乗艦名及員數

御召艦 (比叡)

五名

供奉艦 (高雄、古鷹、加古)

各四名

陪觀艦 (長門、陸奥、金剛、伊勢、榛名)

拜觀艦 (長鯨、迅鯨、明石、間宮、早)

各三名

(三) 取扱 事項

郵便切手類ノ賣捌、特殊通信日附印使用、普通通常郵便物ノ引受

(四) 執 行 時 間

概ネ陪觀者ノ乗艦時間ニ同ジ

(五) 右人員ノ乗艦手續其ノ他

(イ) 便乗許可證及選信吏員タルコトヲ表明スル腕章ヲ海軍省ヨリ所屬通信局ヘ送付ス

(ロ) 乗艦ニ要スル汽艇、艦内ニ於ケル事務用卓子、椅子及出張所ヲ明示スル表示板等ハ海軍ニ於テ準備ス

(ハ) 服裝ハ不體裁ナラザル背廣(御召艦ニ乗艦スルモノニ限リ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」)

ト、「シルクハット」トス

(ニ) 其ノ他ニ關シテハ別ニ送付スベキ便乗許可證裏面記載ノ注意事項ニ依ルコト

四 觀艦式事務用電話ニ關スル件(期間十月七日ヨリ觀艦式翌日迄)

税關内觀艦式事務所ニ左ノ通臨時市内電話及臨時直通専用電話ヲ架設ス

(一) 市内 電 話

横濱本局五八六三番(委員室)

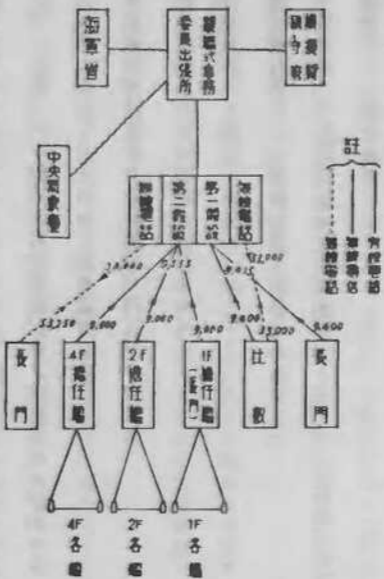
同 五八六四番(委員附室)

(二) 臨時直通専用電話

海 軍 省(委員附室)

中央氣象臺(委員連絡室)

観艦式事務通信系統圖



右通信事務實施ノタメ御召艦・陪観艦・拜観艦ニ便乗セル通信官吏ニ對スル注意事項左ノ如ク取極メ達シ置クコトトセリ。

- 御召艦陪観艦拜観艦ニ便乗セル通信官吏注意事項
- 一 十月十一日午前（時刻記入シアリ）迄ニ（乗艦場所記入シアリ）ニ於テ掛士官ノ指示ニ從ヒ乗艦ノコト
 - 二 乗艦ノ際ハ本證ヲ掛士官ニ示スコト
 - 三 艦内ニ於ケル郵便事務取扱ノコトニ關シテハ掛士官ト協議スルコト
 - 四 其ノ他乗艦中及退艦ノ際ハ掛士官ノ指示ニ據ルコト

- 五 當日ハ晴雨ニ拘ラズ御舉行可被爲在モ暴風雨等ノ爲萬一御延期又ハ御取止メノ場合ニハ當日早朝東京横濱附近主要驛ニ其ノ旨揭示シ且東京中央放送局ヨリ其ノ旨放送ノ豫定（御延期ノ場合ハ其ノ日本券使用ノコト）
- 六 事務用以外ノ物品ハ成ルベク携帯セザルコト、特ニ寫眞機ハ携行セザルコト
- 七 査食ハ艦内ニ於テ準備シアリ
- 八 服装ハ不體裁ナラザル背廣ノコト（御召艦ニ限リ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」相稱）

第四 氣象

特別観艦式當日萬一天候不良ニシテ、御舉行ニ差支アルガ如キ場合ハ速ニ關係各局面ニ於テ夫々御取止メ等ノ手續ヲ講ズルヲ要スルハ勿論、天候差シテ不良ナラズトスルモ之ヲ注意シテ諸般ノ手配ニ遺憾ナキ措置ヲ執ルヲ要ス。依テ観艦式事務委員ニ於テ左ノ如ク當日早朝ニ於ケル天氣豫報通報要領ヲ定メ、關係者ニ達シ置キタリ。

観艦式當日ノ早朝天氣豫報通報要領

- 一 横濱税關内ニ在ル観艦式事務委員長ハ観艦式當日午前五時迄ニ當日ノ天氣豫想ニ關シ中央氣象臺ヨリノ通報ヲ参照シ観艦式指揮官ト連絡ノ上観艦式御舉行ニ差支ナキヤ否ヤニ關スル意見ヲ官内省ニ在ル行幸主務官ニ通知ス、此ノ場合観艦式事務委員ハ演習技監部ト連絡スルモノトス
- 二 観艦式日時御變更又ハ御取止メ等ノ場合ハ観艦式事務委員長ハ速ニ其ノ旨観艦式指揮官及演習技監部ニ通報ス
- 三 前號ノ場合観艦式指揮官ハ之ヲ参加艦船部隊ニ通知シ観艦式事務委員長ハ之ヲ海軍省副官（海軍省當直士官經由）、横須賀鎮守府副官、横濱税關、横濱市役所ニ、海軍省副官（當直士官）ハ之ヲ東京中央放送局、東

横浜港日日出没時及月齢
(水路部調査)
中央標準時

日	日	日	月	月	月	日
附	出	没	出	没	齢	附
10 5	5 38	17 21	9 33	20 16	3.6	10 5
6	5 38	17 19	10 30	21 9	4.6	6
7	5 40	17 18	11 22	22 5	5.6	7
8	5 41	17 17	12 23	23 1	6.6	8
9	5 42	17 15	13 0	23 58	7.6	9
10	5 42	17 14	13 49	...	8.6	10
11	5 43	17 13	14 26	0 54	9.6	11
12	5 44	17 11	15 00	1 49	10.6	12
13	5 45	17 10	15 32	2 43	11.6	13
14	5 46	17 9	16 4	3 37	12.6	14
15	5 47	17 7	16 35	4 31	13.6	15

月齢ハ中央標準時正午ノ値ヲトス

時刻	中央標準時	潮高ノ基準面平均水面下 1.14米
6	8.90	1.7
7	8.45	1.6
8	8.05	1.5
9	7.70	1.4
10	7.35	1.3
11	7.00	1.2
12	6.45	1.1
13	6.00	1.0
14	5.45	0.9
15	5.00	0.8

日	潮		低		潮		大
	時刻	潮高	時刻	潮高	時刻	潮高	
5	7.20	1.8	18.50	1.8	0.80	0.2	18.30
							0.7

(参考) 昭和15年 潮時及潮高 (水路部調査)

四 本要領ニ依ル氣象無線通報ニ必要ナル各地ヨリ中央氣象臺宛發スル氣象電報ハ全テ氣象局報ノ取扱ヲ受ケルモノトス

三 海軍氣象無線通報甲類及同乙類共警報氣象報中ニ東京灣、關東地方並ニ其ノ南方洋上ノ氣象狀況ヲ成ルベク詳細ニ通報ス

館山、木更津、横須賀、横濱、霞ヶ浦 (以上海軍航空隊)

二 海軍氣象無線通報乙類中ニ左ノ通過加ス
網代、長津呂、箱根、富士山頂、三島、大島、羽田、東京、熊谷、前橋、水戸、富崎、銚子、磐城、長野、輕井澤、新潟、筑波、甲府 (以上測候所)

水戸、濱松、静岡、長野、小名濱、甲府 (以上測候所)
霞ヶ浦、木更津、横須賀 (以上海軍航空隊)

〇六〇〇、一二〇〇及
一八〇〇ノ實況ヲ加フ

紀元二千六百年祝典トシテ特別觀艦式ヲ御舉行アラセラルルコトハ其ノ意義實ニ深キモノアリ、此ノ盛儀ノ實況ヲ正確詳細且ツ迅速ニ汎ク一般國民ニ知ラシムルト共ニ、其ノ由來及眞意義ヲ認識セシムルハ、紀元二千六百年祝典ノ意義及觀艦式本來ノ目的ニ精ヘ誠ニ宜シキヲ得タルコトナリトス。觀艦式事務委員ニ於テハ此ノ目的ニ副フベク慎重計畫シ、報道關係者ヲ參列艦ニ便乗セシムルト共ニ之ニ對シ能フ限り便宜ヲ供與シテ觀艦式ノ模様ヲ速ニ國民ニ報道セシムルコトトセリ。尙ホ海軍省海軍軍事情報部委員高瀬中佐ハ御召艦比叡艦上ヨリ「ラジオ」ヲ通ジ第四章餘録ニ記述スル如キ要領ノ放送ヲ爲シ、觀艦式ノ由來ト其ノ眞意義及當日ノ感激ヲ一般ニ傳ヘタリ。當日參列艦ニ便乗ヲ許可セラレタル放送關係者・特許新聞記者・特許寫眞員等ノ便乗心得左ノ如シ。

放送關係者便乗心得（比叡便乗）

- 一 觀艦式當日「十月十一日（天候ノ都合ニ依リ十三日迄順延セララルルコトアルベシ）」午前七時迄ニ乘艦ノコト
- 二 乘艦ノ際及要求セラレタル時ハ本證ヲ係員ニ提示ノコト
- 三 乘艦、退艦及作業ニ關シテハ係員ノ指示ニ從フコト
- 四 服装「モーニング、シルクハット」
- 五 制規ノ腕章ヲ左腕ニ纏附ノコト

- 六 放送ノ終始ハ係員ノ令ニヨリ行フモノトス
- 七 艦内ニ於ケル放送ハ職員「アナウンサー」之ヲ實施スルモ其ノ内容ハ當局指示ノモノヲ遵奉スルコト
- 八 晝食ハ艦内ニテ辨當ヲ給セラル
- 九 係員ニテ不都合ト認メタル場合ニハ作業ヲ禁ズ
- 一〇 本證ハ記名本人ノ外使用ヲ禁ズ

特許新聞記者便乗心得（比叡（加古）便乗）

- 一 觀艦式當日「十月十一日（天候ノ都合ニ依リ十三日迄順延セララルルコトアルベシ）」午前八時二十分（午前八時十分）迄ニ横濱税關五號岸壁特設棧橋ニテ軍艦比叡行ニ乘艦（横濱税關七號岸壁横附ノ軍艦加古ニ乘艦）ノコト
- 二 乘艦ノ際及要求セラレタル時ハ本證ヲ係員ニ提示ノコト
- 三 乘艦、退艦及作業ニ關シテハ係員ノ指示ニ從フコト
- 四 服装ハ「モーニング、シルクハット」（洋服ニ限ル）背廣ニテ差支ナキモ不體裁ニ互ラザル様注意）
- 五 制規ノ腕章ヲ左腕ニ纏附ノコト
- 六 傳書場ノ使用ハ差支ナキモ艦内ニ於ケル保管及使用上ニ特別ノ取扱ハ受ケ得ザルコト
- 七 艦内ニ於ケル撮影ハ一切之ヲ禁ズ
- 八 晝食ハ艦内ニテ辨當ヲ給セラル

- 九 係員ニテ不都合ト認メタル場合ニハ乗艦ヲ拒絶シ又ハ作業ヲ禁ズ
- 一〇 本證ハ記名本人ノ外使用ヲ禁ズ
- 一一 記事ハ艦内ニ於テ檢閲ヲ受クルモノトス
- (備考) 午後零時半頃希望者ノ爲上陸用便船ヲ出サルルコトアルベキニ付退艦希望者ハ豫メ係員ニ申出アリ度
特許寫眞員便乗心得「比報(加古)便乗」
- 一 觀艦式當日(十月十一日)(天候ノ都合ニ依リ十三日迄順延セラルルコトアルベシ)午前八時二十分(午前八時十分)迄ニ横濱税關五號岸壁特設棧橋ニテ軍艦比報行ニ乗艇(横濱税關七號岸壁横附ノ軍艦加古ニ乗艇)ノコト
- 二 乗艦ノ際及要求セラレタル時ハ本證ヲ係員ニ提示ノコト
- 三 乗艦、退艦及作業ニ關シテハ係員ノ指示ニ從フコト
- 四 服装ハ「モトニング、シルクハット」(洋服ニ限ル背廣ニテ差支ナキモ不體裁ニ互ラザル様注意)
- 五 制規ノ腕章ヲ左腕ニ纏附ノコト
- 六 傳書場及小型寫眞機ノ携行並ニ使用(撮影目的物ニ付テハ制限スルコトアリ)ハ差支ナキモ艦内ニ於ケル保管及使用上ニ特別ノ取扱ハ受ケ得ザルコト
- 七 艦内ニ於ケル撮影ハ一切係員ノ指示ニ從フコト
- 八 艦内ニ於テハ望遠「レンズ」「マグネシウム」ノ使用ヲ禁ズ

- 九 餐食ハ艦内ニテ辨當ヲ給セラル
- 一〇 係員ニ於テ不都合ト認メタル場合ニハ乗艦ヲ拒絶シ又ハ作業ヲ禁ズ
- 一一 本證ハ記名本人ノ外使用ヲ禁ズ
- 一二 寫眞ハ海軍省ニ於テ檢閲ヲ受クルモノトス
- (備考) 午後零時三十分頃希望者ノ爲上陸用便船ヲ出サルルコトアルベキニ付退艦希望者ハ豫メ係員ニ申出アリ度

第十五節 豫 行

紀元二千六百年特別觀艦式舉行セラルベキ前日、昭和十五年十月十日、特別觀艦式參加各艦船並ニ海軍航空機ハ、山本觀艦式指揮官指揮ノ下ニ、當日ヨリ一時間遅レノ時間ニ依リ、總テ觀艦式當日ト同様ナル規模・方法ヲ以テ御親閲ヲ受クル豫行ヲ爲セリ。此ノ日海上波穏カニシテ、參列艦船ノ威容堂々タリ、航空機ノ空中分列又整齊トシテ鮮カニ、當日ノ光景ノ盛ナルヲ想ハシメ、一萬ヲ超ユル陪觀者ハ早朝ヨリ陸續トシテ式場ニ到リ、所定ノ艦船上ニ於テ拜觀シ、巖然タル我が海軍ノ威風ニ感激誠ニ深キモノアリタリ。